



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

令和 6 年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報 告 書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として、地域創造では平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」（通称：ダン活）を実施しています。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストと、コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家であるコーディネーターを地域の公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を企画し実施するものです。A プログラム（地域交流プログラム）、B プログラム（市民参加作品創作・公演プログラム）、C プログラム（公演プログラム）の3つのプログラムがあり、ホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいて年度ごとに1つプログラムを選択し、翌年度以降に他のプログラムを継続して実施できます。また、コーディネーターによる企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、地域創造では、この事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

この報告書は、令和6年度に実施された 11 団体（A プログラム3団体、B プログラム5団体、C プログラム3団体）の取り組みを取りまとめたものです。実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆様方のご協力のもと、令和6年度の事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

目次

〈本文中の社名、所属、役職等は、事業実施時点のものです〉

令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業の概要

実施概要	2
全体研修会概要	6
事業の流れ	8

実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

【A プログラム】

京都府立けいはんなホール（京都府）	10
津市久居アルスプラザ（三重県津市）	16
四万十市総合文化センター（高知県四万十市）	22

【B プログラム】

アイム・ユニバース てだこホール（沖縄県浦添市）	30
菊川文化会館アエル（静岡県菊川市）	38
日立シビックセンター（茨城県日立市）	46
曙月庵（長野県喬木村）	54
与論町砂美地来館（鹿児島県与論町）	62

【C プログラム】

市川市文化会館（千葉県市川市）	72
天草市民センター（熊本県天草市）	78
大石田町町民交流センター 虹のプラザ（山形県大石田町）	84

事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット	92
令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	104
コーディネータープロフィール	109

令和 6 年度公共ホール
現代ダンス活性化事業の概要

実施概要

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

地方公共団体	実施団体	主会場（実施ホール）
【A プログラム（地域交流プログラム）】		
三重県津市	(株) ケイミックスパブリックビジネス	津市久居アルスプラザ
京都府（精華町）	(株) けいはんな	京都府立けいはんなホール
高知県四万十市	四万十市	四万十市総合文化センター
【B プログラム（市民参加作品創作・公演プログラム）】		
茨城県日立市	(公財) 日立市民科学文化財団	日立シビックセンター
長野県喬木村	喬木村	曙月庵
静岡県菊川市	(株) SBS プロモーション	菊川文化会館アエル
鹿児島県与論町	(特非) ヨロン SC	与論町砂美地来館
沖縄県浦添市	ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ	アイム・ユニバース てだこホール
【C プログラム（公演プログラム）】		
山形県大石田町	大石田町	大石田町町民交流センター 虹のプラザ
千葉県市川市	(公財) 市川市文化振興財団	市川市文化会館
熊本県天草市	(一社) 天草市芸術文化協会	天草市民センター

*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

(2) 開催時期

令和6年4月～令和7年3月

(3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

① A プログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～6回）

*アウトリーチ（3回以上）*公募のワークショップ（1回以上）

② B プログラム（市民参加作品創作・公演プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

③ C プログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

(4) 研修会

①全体研修会

日 時：令和5年7月 24 日（月）～7月 26 日（水）

会 場：東京芸術劇場

内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

②現地下見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

(5) 費用負担

地域創造と実施団体が負担する主な経費区分

①地域創造が負担する経費

1) 登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【A プログラム】 登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）

【B プログラム】 登録アーティスト、クリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

【C プログラム】 登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

2) 公演負担金（B プログラム及び C プログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担

②実施団体が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

地域創造が負担する経費以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

3 令和6年度コーディネーター

黒田 裕子（舞台芸術プログラム企画制作者）

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前 沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター、ディレクター）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

中富 勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 チーフプロデューサー）

中西 麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（パフォーミングアーツプロデューサー）

4 2024 年度登録アーティスト（五十音順）



© 佐藤良祐

●浅井信好（あさい・のぶよし）

2005 年～ 2011 年まで《山海塾》に所属。2010 年ポーラ美術振興財団在外研修員でベルリンへ派遣。2011 年に文化庁新進芸術家研修制度でイスラエルの《バットシェバ舞踊団》に派遣。2012 年よりパリを拠点に《PIERRE MIROIR》を主宰。2016 年に日本へ帰国後、《月灯りの移動劇場》を主宰するとともに、地域交流拠点《PALET.NU》のクリエイティブ・ディレクターを務める。現在、名古屋芸術大学舞台芸術領域准教授。2013 年 ARTE ART PRIZE LAGUNA12.13 特別賞、2014 年愛知県芸術文化選奨新人賞などを受賞。



●井田亜彩実（いだ・あさみ）

ダンスカンパニー“Arche”（アルケー）主宰。筑波大、筑波大学院舞踊コースにて舞踊学を学ぶ。文化庁新進芸術家海外留学制度によりイスラエルへ留学し、2014 年～ 2018 年、イスラエルのプロダンスカンパニー“MARIKONG”に所属する。現在は「人との繋がり」をテーマに、全国各地で W.S 講師やレジデンス、作品創作・発表を行う。またダンスのブローグ「D リーグ」での作品ディレクションや、劇団への振付など、多角的に活動。横浜ダンスコレクション・コンペティション I 奨励賞（2021）、International Competition of Modern Choreography in Vitebsk 第 1 位（2012）。信州大学教育学部非常勤講師。



© 富永亜紀子

●大島匡史朗（おおしま・きょうしろう）

SnC 代表、振付家、ダンサー。スイス、バーゼルバレエ学校卒業後、同国 Ballet Junior de Genève に所属。ヨーロッパ各地での公演に参加しキャリアを積む。帰国後、企画団体 SnC を設立。主催公演、他分野とのコラボレーション、ワークショップの企画等、多岐に渡る活動を行う。個人でも振付家をメインに活躍しており、2019 年には福岡県・サザンクス筑後・芸文館等主催の「筑後ダンスプログラム」に作品提供し、好評を得た。学校等へのアウトリーチを行う団体 Dancing People としても活動中。



© 金子愛帆

●中村蓉（なかむら・よう）

早稲田大学在学中にコンテンポラリーダンスを始める。ルーマニア・シビウ国際演劇祭、国際芸術祭あいち 2022 などで作品を上演。サンリオピューロランドのショー『Nakayoku Connect』やドイツ・マインフランク劇場製作『ANATEVKA（屋根の上のヴァイオリン弾き）』などの振付も担当。二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『セルセ』『ディターミア』では演出・振付を担当した。第 1 回セッションベスト賞、横浜ダンスコレクション EX2013 審査員賞、第 5 回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞などを受賞。



© 小林智之

●長与江里奈（ながよ・えりな）

舞台芸術集団「山猫団」主宰・演出家。「伊藤キム+輝く未来」、「まことクラヴ」にてダンサーとして国内外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作りたいことを目標に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥のセキセイインコと遊ぶのが日々の癒し。



© 阿部章仁

●藤田善宏（ふじた・よしひろ）

振付家・演出家・ダンサー・デザイナー。ダンスカンパニー CAT-A-TAC（キャットアタック）主宰。コンドルズメンバー。文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。福井国体開会式典演技振付総合監修。群馬大学非常勤講師。身体表現と道具を駆使した台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルとのコラボが得意。三世代間で楽しめるダンス劇や伝統芸能とのコラボや児童演劇・幼児教育教材の監修も。小栗旬主演舞台、TEAM NACS、NODA・MAP、山田洋次監督演出の舞台やEテレ他、MV、CM、TV等への振付出演ステージング多数。障がいのある方やそのご家族へのWSなど多様性を重視した活動にも力をいれる。



●康本雅子（やすもと・まさこ）

はじめはダンサー、いつの間にか振付家、やめられんのがダンサー。その昔バックパッカー時代にアフリカダンスに出会い、セネガルへ。ダンス漬けの半年を送るも帰国後一文なしになりバックダンサーに。食うためのダンスだけじゃ飽き足りず、作品を作るようになって今に至る。演劇や映像などへの振り付けもやりつつライフワークは子供たちへのワークショップ。最近は小学生親子向けのWS「マジな性教育マジか」も始動中。どっちもハウツーは教えない。

令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業 全体研修会概要

1 期 日

令和5年7月24日（月）～7月26日（水）

2 会 場

東京芸術劇場

3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

4 プログラム内容

7月24日（月）

時間	会場：シンフォニースペース
14:00～15:00	セッション①「ワークショップ」 講 師：ダン活支援アーティスト 鈴木ユキオ
着替え・休憩	
15:30～16:00	セッション②「事業概要説明」
休憩	
16:10～19:30 (途中休憩あり)	セッション③「ダン活で取り組みたいこと&ディスカッション」 講 師：ダン活支援アーティスト 鈴木ユキオ コーディネーター 中西麻友（進行）、黒田裕子、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、 宮久保真紀

7月 25 日（火）

時間	会場：シンフォニースペース、シアターイースト
10:30 ～ 12:30	セッション④「ダン活のススメ」 講 師：荘銀タクト鶴岡 高橋幸介 西宮市民会館 田北篤史 コーディネーター 坂田雄平（進行）、黒田裕子、小岩秀太郎、神前沙織、中西麻友、中富勝裕、 宮久保真紀
昼休憩・着替え	
13:30 ～ 16:45 (途中休憩、転換あり)	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」＊ (登録アーティスト 7 組)
着替え・休憩	
17:30 ～ 20:00	セッション⑥「フィードバック」 講 師：コーディネーター 神前沙織（進行）、黒田裕子、小岩秀太郎、坂田雄平、中西麻友、中富勝裕、 宮久保真紀

＊のセッションは、地域創造フェスティバル 2023 のプログラムとして公開

7月 26 日（水）

時間	会場：シアターイースト
10:00 ～ 12:30	セッション⑦「フィードバック～企画発表」 講 師：コーディネーター 小岩秀太郎（進行）、黒田裕子、神前沙織、坂田雄平、中西麻友、中富勝裕、 宮久保真紀
昼休憩	
13:30 ～ 15:00	セッション⑦「企画発表」 講 師：コーディネーター 小岩秀太郎（進行）、黒田裕子、神前沙織、坂田雄平、中西麻友、中富勝裕、 宮久保真紀
15:00 ～ 15:15	事務連絡

事業の流れ

時 期	内 容
令和5年 7月24日（月）～ 7月26日（水）	全体研修会への参加 会 場：東京芸術劇場 シアターイースト、シンフォニースペースほか 参加者：令和6年度実施団体、登録アーティスト、コーディネーター
8月14日（日） 提出締切	「事業実施計画案」を提出 全体研修会やコーディネーターのアドバイスなどを踏まえ、地域の実情や予算等を再度考慮したうえで、事業実施予定時期や企画概要等の計画案を作成します。
10月中旬	【地域創造】実施団体へ事業日程等を通知 事業実施日程、派遣アーティスト、担当コーディネーターを決定し通知します。
10月下旬～	事業実施の準備 アーティスト、コーディネーター、地域創造と連絡を取りながら、事業の企画内容の協議や、現地下見の日程調整などを行います。
令和6年4月上旬	【地域創造】実施団体へ事業実施決定通知
令和6年4月～	個別研修（現地下見）の実施 事業実施に向けた企画内容の打ち合わせ、公演予定会場やアウトリーチ先の下見をします。 ※申請内容に重大な変更が生じた場合は随時、別記様式4-1・4-2「変更承認申請書」を提出
事業実施の 2か月前まで	別記様式2-1～3「事業実施計画書」を提出 事業の内容を確定し、計画書を作成します。 この計画書に基づき、実施団体、派遣アーティスト、地域創造の3者で契約を締結します。
～翌年3月	事業実施
事業終了後 30日以内	別記様式3-1～3「事業実績報告書」を提出

実 施 内 容 紹 介

(実施日程順)

コーディネーターレポート

Aプログラム

(地域交流プログラム)

実施団体	株式会社けいはんな
実施ホール	京都府立けいはんなホール
実施期間	令和6年6月26日（水）～6月29日（土）
アーティスト等	アーティスト：中村蓉 アシスタント：緒方彩乃
コーディネーター	中西麻友
■ アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場） ① 6月27日（木）16：00～17：30 けいはんな学研都市内企業、ロボット研究者、11名、当該企業研究所 ② 6月28日（金）9：40～10：25 精華町立東光小学校、2年1組、26名、小学校体育館 ③ 6月28日（金）10：45～11：30 精華町立東光小学校、2年2組、26名、小学校体育館 ④ 6月29日（土）14：00～15：30 任意団体ミラトリエ、企画制作者、3名、けいはんなプラザ会議室 ■ 公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場） ① 6月29日（土）10：00～11：30 小学4年生以上、500円、11名、けいはんなプラザ会議室	

スケジュール

	下見	
	6/3（月）	6/4（火）
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		会場下見
13:00		昼食
14:00		
15:00		東光小下見
16:00	移動	
17:00	打合せ	
18:00		ミラトリエ 打合せ
19:00		↓
20:00		移動
21:00		
22:00		

実施期間			
6/26（水）	6/27（木）	6/28（金）	6/29（土）
	打合せ	準備	準備
	↓	東光小2年1組 アウトリーチ	公募 WS
			↓
	WS 準備	東光小2年2組 アウトリーチ	
	昼食	昼食	昼食
		WS 準備	ミラトリエ アウトリーチ
	研究所 アウトリーチ	↓	↓
	↓	東光小振り返り	
	↓	WS 準備	事業振り返り
移動	研究所交流会		移動
	交流会		

アウトリーチ

当ホールでは開館以来はじめてのアウトリーチ事業であり、まずは地域とダンスのつながりを作っていくべく「多くの方にダンスはおもしろい！と感じてもらうこと」を主眼とした。小学校のほか、企業研究所、また大阪・関西万博 2025 と同時に当地で開催される「けいはんな万博 2025」に向け、市民・企業などの交流促進を行っている団体を対象に実施した。

小学校は2年生を対象に実施。子どもたちは次々とモニターに映し出される画像を体で表現。バナナや石になったり複数人で絵画になったり、アクロバティックでユニークな動きも飛び出して、元気いっぱいの子どもたちと先生と一緒に45分の授業を駆け抜けた。子どもたちからは「次はいつあるの？」、先生方から「子どもたちの内に秘めていたものが見えた」「運動が苦手な子も楽しんでい」という声をいただいた。

けいはんな万博に向け尽力されている団体とのアウトリーチでは、今後制作を計画されている「映像と身体表現のコラボレーション」を想定して、ある映画のPR動画とダンスを合わせることにチャレンジした。短時間で映画の世界観とリンクしたひとつの作品が出来上がり、「創作の充実感・達成感」を感じられるひと時になった。

研究所では、ロボット研究者たちに参加いただいた。「人と機械の融和」を考えておられ、ダンスや舞踊の専門家に話を聞くことも検討されていたこともあり、ダンスの体験だけではなく講義形式のプレゼンテーションや意見交換も含んだアウトリーチとなった。

今回のアウトリーチでは、先生方、研究者、制作者の熱意や思いにも触れた。ダンスの興味関心が直接的に広がっただけでなく、参加者がさらに熱意や思いを重ね、次の作品や技術、授業へとつながっていく「アウトリーチの副次的な広がり」をも予感する時間となった。



けいはんな学研都市内企業研究所



東光小学校2年1組



東光小学校2年2組



ミラトリエ

公募ワークショップ

昨年度実施したBプロから進める文化コミュニティの育成を視野に、表現への興味関心が継続していくことをねらい、昨年の対象者（小学4年生以上）が参加できるワークショップを希望した。関心層を広げ幅広い世代の方に「ダンスは面白い」と感じていただける機会といたく昭和歌謡の歌詞に出てくる人になりきって踊る『歌謡曲スイッチ』というタイトルのワークショップを実施することとなった。

キャッチーで内容が想像しやすいことから集客に期待したが、申込が増えず急遽教育委員会の後援を取り町内児童・生徒へのチラシの配布による周知を開始。直前まで少人数での実施を危惧したが、当日は前日までのアウトリーチに参加した方々が申し込みくださり、小学生・中高生そして大人世代と幅広い年齢層の11名で実施することができた。

ワークショップは、ストレッチや体でさまざまなポーズをつくり体の間をかけ抜ける障害物競争、ペアになり指や背中、頭など体の一か所だけで相手とつながって相手を感じながら動くワークなどが見学者も巻き込みながら和やかに進められた。最後は蓉さんが振り付けた「ドラマティック・レイン」を踊ることにみんなで挑戦した。ダンス経験がない人には難しいようにも感じたが、歌詞から動きが連想できる振付であり、またすでに体も心も開放された状態であったからか30分程度でみんな一通り振付を踊りきることができた。最後は、スクリーンに歌詞映像を投影しながらステージの上で、全員でダンス！その様子を撮影し、スクリーンへ投影してみんなで自分たちのダンス映像を鑑賞した。ダンスを楽しむ達成感も味わう、アーティストとの時間を堪能したひとときとなった。



プログラム詳細

6月27日（木） 学研都市内企業 ロボット研究者

●事業説明とロボットの体験

学研都市内にある企業研究所の方から事業概要のプレゼンテーションを聞き、施設と現在開発しているロボットを見学した。人間の動きに反応し人間のモチベーションも向上させる働きをするロボットのデモンストレーションを体験した。

●コンテンポラリーダンスとは？

「コンテンポラリーダンサーと語らう【身体性とロボット技術】」というテーマで参加を募ったところ研究所の会議室に11名の研究者が集まった。まずは蓉さんによる講義形式のプレゼンテーションからスタート。コンテンポラリーダンスとは何かという説明やいくつかの作品を動画で紹介いただき、参加者と対話しながらご自身の考えを伝えてくださった。

●トークセッション 質疑応答

事前に研究者より蓉さんへの質問が寄せられており、プレゼンの後にトークの時間を設けた。プレゼンの感想を共有し、その後どのような意識で創作を行っているかの意見交換を行った。参加者からは「即興をどう成立させているか」「相手や観客と理想の姿や基準をどう共有するか」「二項対立のグラデーションのどの部分を振付家はおもしろいと感じているのか」などの質問があり濃い対話の時間となった。

●コンテンポラリーダンスをする

実際にコンテンポラリーダンスを体験した。ペアになりストレッチをした後、指や背中、頭をくっつけて相手を感じながら動く。今度は三人目がペアで動いている二人のどちらかに体を寄せ、相手を感じたらペアが入れ替わっていくワークを行った。テンポよく進むワークに、自然に笑顔や笑い声もこぼれ盛り上がった。最後に蓉さんの振り付けたクラシック曲をみんなで踊った。

ワークショップ終了後、フィードバックを兼ねて交流会を行った。トークセッションで聞き足りなかったことなどをざっくばらんに話した。



●この事業への応募動機

これまで本地域で盛んな吹奏楽を中心に音楽活動の支援に努めてきたが、音楽以外でもホールとつながる方々を増やしたいと考え、近年はダンス事業や演劇事業にも注力している。アウトリーチの実施経験がなくサポートいただきながら進められることに魅力を感じ事業へ応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

継続的にダンス事業を実施していくための基盤づくりを目指した。アウトリーチが初めてであることから若年層に対して身体表現が身近な存在になっていけるよう、まずは学校アウトリーチの実績を作ることを優先した。また多くの地域の方がダンスに触れる機会を創出していきたいと2025年に本地域で開催される「けいはんな万博」でダンス事業を検討している団体を対象としアウトリーチを実施した。当該団体の事業からも今後地域へダンスが広がっていくこと期待した。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ先の学校を見つけることに苦労した。画一のプログラムではないため、どんなことをするのかをイメージしていただくこと、メリットを伝えることが難しかった。教育委員会にお力添えいただき校長会でプレゼンの時間をいただいたものの手が上がった学校はなかった。小学校へ個別のお声かけをし、地域創造のインタビュー動画なども確認いただき今回の実施に至った。また公募ワークショップの申込者数が想定より伸びず、当日間際まで苦慮した。前週末および公募ワークショップ同日に小学校の体育館にて無料のヒップホップワークショップが開催されたことも影響したと考えられる。同時期の重複行事の確認と同時に、余裕のある広報期間の設定、適切に伝わるチラシ制作や広報予算の確保にも留意したい。

●事業の成果と課題

子ども、学校の先生、研究者、制作者、中高生など新しく幅広い方々がダンスに触れ、各々に「ダンスは面白い」と感じていただけたと実感している。学校の先生からは「子どもたちはもうダンスをいやにならないと思う」「関わり方の参考になった」という声をいただいた。はじめて実施した学校アウトリーチがポジティブな印象を残し、終了したことは大きな成果である。「ダンスの力」だけではなく「アーティストの魅力」が大きかった。みなさんが蓉さんに出会いファンになり、引き込まれていった。ダンスの魅力には、「言葉がなくても伝わる」ということがあると思うが、言葉が魅力を増幅させたと思う。今回の成果には、蓉さんの「(説明的ではなく)言葉にする力」が強く作用したとも感じた。言葉が必要な人には、思いを言葉にのせその人とつながり、踊る人にも言葉をのせ踊ることが楽しくあるようにしてその人とつながり、どの場面も和やかで、参加者は自然に動かされている体を楽しんでいるように感じた。そのおかげで、アウトリーチを体験した方々が最終日に実施した公募ワークショップに再び訪ねてくださり、さらにダンスを楽しむことができた。

課題は、「事業の継続」「持続可能な仕組み作り」である。アウトリーチの効果は短期的・直接的に表れない場合もあるが、ホールにおけるアウトリーチの実施意義、ねらいを明確化し次年度以降も継続できるよう調整を進めたい。

●今後の事業展開や展望

少しずつダンスの裾野が広がってきたと感じている。次年度のCプロでは、多くの方にダンスの面白さを感じていただけるよう広報にも注力したい。また引き続きダンスへの関心を醸成していくべくアウトリーチ、ワークショップを含め、アーティストと地域が出会う場を提供していきたい。

●この地域のダン活の特徴

けいはんなでの A プロは、学研都市という特性を活かし、近隣企業の研究施設や研究者へダンスを届ける方法を模索した。また、ホールとしてアウトリーチ事業は初めてということで、学校での実施にも挑戦した。

下見では、ホールの方から学研都市の歴史や現在、未来についてお話を伺った後、小学校での打合せのほか、けいはんな万博に向けて活動している団体の協力を得て、研究者へのアウトリーチについて相談した。その中で、企業の社屋に出かけて、研究者のレクチャーを受けたり、ダンスについてアーティストがプレゼンしたり意見交換をしながら、ダンスを体験してもらうという方針が固まった。また、その団体の方が未来と技術をテーマにした小説を執筆中だったので、団体へのアウトリーチを設けて、小説を舞台化するとしたら、ということのヒントになるような内容で実施してはどうかという提案を受け本番に臨んだ。

本番は、『身体性とロボット技術』というテーマの、企業でのアウトリーチから始まった。社屋内の見学や、開発中の卓球ロボットの体験のほか、開発チームの方からレクチャーを受け、アーティストからは自身の創作活動やダンスについてプレゼンした。それを受けての質疑応答では、ダンサーが表現しようとしている世界や、その捉え方、感情や感じ方の、白黒はっきりしないグラデーションの部分や、機械が人を凌駕する未来ではなく、人と機械の「融和」がどういう状態なのか、といったトピックで刺激的な意見が交わされた。ダンス公演を観た研究者と、身体や技術について紐解くようなアフタートークを設けるのも面白そうだなと、C プロへのイメージが広がる出会いでもあった。

けいはんな万博の関連団体とのワークショップでは、ある楽曲とそのミュージックビデオを題材に、デュオのダンスをつくる内容で実施。歌詞や映像をどう身体に落とし込み、その世界観を身体で立ち上げていくのか、アーティストの創作過程を目の当たりにして、どうダンスをつくるかを疑似体験するような時間となった。

小学校へのアウトリーチは、2年生で実施。元気で普段から踊っていると聞いていた通り、とても元気で楽しむこと上手な子どもたちだった。果物や美術作品を身体で表す「なりきる」ワークや、アーティストの振付で1曲踊るなど、1コマ 45 分間があったという間だった。先生からは、子どもたちの感性が刺激されて、ダンスに興味・関心を持った様子を感じられ、運動会や体育の表現活動につなげていけそう、という感想があり、ダンスにふれる機会を、継続して提供していけると良いと思えた。

公募ワークショップは集客に苦労されたが、企業や小学校のアウトリーチで出会った人たちも参加してくれた。『歌謡曲スイッチ』をしたいというホール担当者の希望があったので、いくつかのワークのあと、最後は歌謡曲で1曲振付を踊った。会場にステージを設えて、参加者が踊る姿を、ミュージックビデオのようにアーティストが撮影した動画を鑑賞する時間も設け、全体を通して気持ちよく身体を動かし、参加者同士が交流する時間となった。

●課題とこれからに向けて

事業全体の振り返りでは、企業や学校への初めてのアウトリーチ事業を経て、地域と新たな出会いをつくれたことや、アーティストにとっても収穫の多いプログラムだったという感想があった。研究者の方々とアートを共通項にして予想以上に話が通じたことや、文理融合の未来の可能性を見たような気がしたし、アーティストの創作過程で研究者とコラボレーションすることにはさまざまな可能性があるように感じた。

課題としては、小学校のアウトリーチ先の開拓や、公募ワークショップの集客が挙げられ、広報の工夫として、デザイナーを起用したイメージ戦略や動画の活用などの提案があった。言葉で伝えづらい、理解されづらいダンスの魅力を伝える方法を改善して、C プロの集客につなげていかれることを応援している。

実施団体	株式会社ケイミックスパブリックビジネス
実施ホール	津市久居アルスプラザ
実施期間	令和6年9月19日（木）～9月21日（土）
アーティスト等	アーティスト：長与江里奈 アシスタント：北園優、鈴木綾香（ダン活枠外）
コーディネーター	神前沙織
■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場） ① 9月19日（木）16:00～17:30、一志農村環境改善センター（一志高校公民館）、高校生、20名 ② 9月20日（金）10:00～12:30、白山総合文化センター しらさぎホール、子ども・若者、13名 ③ 9月20日（金）18:00～19:30、チルドレンハウスひびうた、児童・生徒、15名 ■公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場） ① 9月21日（土）19:00～20:30、一般市民、無料、15名、津市久居アルスプラザ アートスペース	

スケジュール

	下見		実施期間		
	7/10（水）	7/11（木）	9/19（木）	9/20（金）	9/21（土）
11:00		白山総合文化センター下見		白山総合文化センター	
12:00		アートスペース下見			
13:00					
14:00	チルドレンハウス下見				
15:00					
16:00	一志農村環境改善センター			チルドレンハウスひびうた	
17:00			一志農村環境改善センター		
18:00					
19:00					津市久居アルスプラザ
20:00					
21:00					

アウトリーチ

本事業におけるアウトリーチでは、三重県津市内の3つの教育・福祉施設を訪問し、それぞれの現場に適したかたちでコンテンポラリーダンスのワークショップを実施しました。対象は高校生から児童・生徒までと幅広く、いずれも「表現することの楽しさや可能性」に出会うことを目的としました。実施にあたっては、ダンス経験の有無や年齢層に応じてアプローチを工夫し、誰もが安心して身体を動かせるように配慮しました。

一志農村環境改善センターでは、日常的に言葉での表現に苦手意識を持つ生徒が、身体を通じた即興的なコミュニケーションに挑戦する姿が印象的でした。白山総合文化センターでは、地域の小学生を中心に、遊びと表現が融合する形でのプログラムを展開。講師の動きを真似たり、自分なりの動きを創作したりする中で、参加者は次第に主体性を持って動き始めました。チルドレンハウスひびうたでは、教育的支援が必要な子どもたちとのワークを通して、「できた」「伝わった」という達成感が子どもたちの表情に現れ、スタッフからも高い評価をいただきました。

いずれの会場でも、表現の手段としての身体の可能性が見直され、参加者の内面的な変化を促す貴重な時間となりました。アウトリーチを通して、ダンスが特別なものではなく、誰もが関われる文化活動であるという認識が地域の中に広がりつつある手応えを得ています。



一志農村環境改善センター



白山総合文化センター

公募ワークショップ

令和6年9月21日、津市久居アルスプラザ・アールスペースにて一般市民を対象とした公募型ワークショップを開催しました。企画の意図は、日常の中で身体表現に触れる機会が少ない人々に対し、コンテンポラリーダンスを通じて「動くことの楽しさ」や「自分を表現することの心地よさ」を体感してもらうことにありました。今回はダンス経験の有無を問わず参加を呼びかけ、10代から60代まで幅広い年齢層の参加がありました。

当日はまず、簡単なストレッチや呼吸法を取り入れたウォーミングアップから始まり、次第に身体を使って空間や他者との関係を感じるプログラムへと展開。特定の「振付」を教えるのではなく、個々の感性を引き出すような即興的なワークを中心に構成しました。最初は戸惑い気味だった参加者も、講師の穏やかで柔軟なリードのもとで徐々に動きが滑らかになり、終盤にはペアワークや小グループでの創作にまで積極的に取り組む姿が見られました。

ワーク終了後のふりかえりでは、「久しぶりに身体を動かして気持ち軽くなった」「初対面の人と動きを共有することで安心感が生まれた」「自分の体にこんな動きがあるとは思わなかった」といった声が多数寄せられました。参加者の多くがダンス未経験者だったにもかかわらず、終始集中して取り組み、それぞれの感性を活かした表現が自然に生まれたことは、本プログラムの目的が達成された証だと感じています。今後は、こうした市民参加型の機会を継続的に設けることで、地域におけるダンス文化の裾野をさらに広げていきたいと考えています。



プログラム詳細

9月20日（金）アウトリーチ先または公募 WS 対象

「伝える身体、受け取る心」― チルドレンハウスひびうた アウトリーチワークショップの実践

導入：安心できる場づくり

プログラムは「こんにちは」と手を振ることから始まり、円になって座ることで、まず空間に馴染む時間を設けました。身体を大きく使う前に、呼吸を整えたり、自分の体の輪郭を確認するようなワークを行い、「今ここにいる」ことを意識づけしました。

展開①：身体の声を聴く時間

続いて行ったのは「まねっこゲーム」。講師の動きを真似るだけでなく、子どもたち自身がリーダーとなって全員に動きを伝える時間も設けました。自分の動きをみんなが真似してくれるという体験が、自己肯定感や集中力の向上につながっていきました。

展開②：つながる動き、ひろがる想像

次にペアやグループでのワークを通じて、「一緒に動く」ことを体験。相手の動きに反応したり、触れずに距離を保ったまま「空気のやりとり」を感じるゲームも取り入れました。目を合わせる、待つ、受け取るといった身体的コミュニケーションが自然に生まれていきました。

まとめとふりかえり

最後は輪になり、「今日いちばん楽しかった動き」をみんなで作ってみる時間を設けました。言葉にするのが難しい子どもたちも、自分の気に入った動きを笑顔で披露する姿が見られ、スタッフからも「ふだんはあまり表情を見せない子が、積極的に動いていた」という驚きの声がありました。

このプログラムは、身体を通じて心をひらくプロセスを重視し、支援を要する子どもたちとの交流において大きな可能性を感じさせるものとなりました。

●この事業への応募動機

本事業に応募した動機は、「表現の場を地域に広げること」「芸術との接点を日常の中に作ること」という、当館の運営方針に基づいた思いからです。特に現代ダンスは、振付を覚えることよりも“感じる”“即興する”“対話する”といった要素を重視する芸術であり、多様な人がそれぞれの身体性を活かして関われる点に大きな可能性を感じていました。これまで劇場では主に舞台芸術の“鑑賞”を提供してきましたが、本事業を通じて“参加”する芸術の意義と価値を地域に伝えたいと考えました。

●事業のねらいと企画のポイント

企画のねらいとしては、「表現の原点に触れる体験」を子どもたちや市民に届けることを主軸に置きました。中でも、言葉によるコミュニケーションが苦手だったり、既存の学校教育の枠に収まりきらない子どもたちにこそ、身体表現の自由さを体感してもらいたいと考え、オルタナティブスクールや福祉施設との連携を進めました。また、市民向けのワークショップでは、芸術に距離を感じていた人が「自分にもできるかもしれない」と感じられる機会を設けることで、地域における文化参加の裾野を広げることを意識しました。

●企画実施にあたり苦労した点

実施にあたり苦労したのは、対象施設の選定と調整です。アウトリーチは特に、ダンスという“非日常”の活動を教育・福祉の現場に持ち込むため、事前説明や信頼関係の構築が不可欠でした。子どもたちの特性や日々の生活リズムを尊重しながら、無理のない形で受け入れていただけるよう、現場との対話を重ねました。また、一般公募に関しても「ダンス」と聞いて尻込みされないよう、チラシや広報の表現には工夫を凝らし、「誰でも参加できる」「身体を使った遊びの延長線」といった柔らかな言葉を用いるよう心がけました。

●事業の成果と課題

事業の成果としては、3回のアウトリーチと1回のワークショップすべてにおいて、参加者が「自分の身体で表現すること」の楽しさと発見を実感してくれたことが何より大きな成果です。特に、福祉支援を必要とする子どもたちが、周囲と連携したり、笑顔で自ら動きを考える姿には、現場のスタッフも驚きと喜びを感じていただきました。また、公募ワークショップでは、ダンス未経験者が多かったにもかかわらず、全員が終始集中し、即興的な動きにも挑戦していたことが印象的でした。一方で、課題としては、ダンス初心者へのより段階的なアプローチの設計、ならびにワークショップ後の継続的な活動機会の提供体制の構築が挙げられます。

●今後の事業展開や展望

今後は、今回の経験を土台として、定期的なアウトリーチやワークショップの開催を視野に入れ、地域に根づいた表現活動の循環を作っていきたいと考えています。また、現代ダンスに限らず、演劇や音楽、美術など他の芸術分野とも連携しながら、あらゆる人が「表現する喜び」を感じられる地域文化づくりに寄与していきたいと思います。公共ホールとしての役割を、「作品を上演する場」にとどめるのではなく、「人が創造する力を育む場」として広げていけるよう、引き続き取り組んでいきます。

●この地域のダン活の特徴 津市

津市久居アルスプラザ（指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス）

津市は三重県の県庁所在地であり、人口は四日市市に次いで県内第2位と多い。ダン活を行う津市久居アルスプラザは、津市の文化芸術の振興をリードする拠点施設として2020年にオープンしたばかりで、津市の中心地からはやや離れた南側に位置し、ホールの周囲には住宅地が広がるのどかなエリアにある。

中心地に位置する三重県総合文化センターや文化会館との差別化を意識した地域住民向けのワークショップやアウトリーチ等のプログラムを自主事業として数多く実施されており、ホームページにも常にいくつかのワークショップ参加者募集の記事が並ぶ。

担当者によると、コンテンポラリーダンスは、県の文化センターが行っていたが10年くらい前にストップしており、ダン活を機に実験的に始めることになったと聞く。

初めの打ち合わせでは担当者から、津市としてコンテンポラリーダンスを全面的に打ち出し、言葉がなくても表現やコミュニケーションができるという特異性に着目し、アウトリーチからゆくゆくはダンスのカンパニーや顧客をこの地域から輩出していきたいといった夢を伺った。津市には津まつりというお祭りで総踊りの時間があり、ダンスを踊る人口も多いのでポテンシャルが高いそうだ。

当初のオンライン打ち合わせはそういった話で盛り上がり、アーティストの長与さんからも様々な提案が出てどのようなダン活になるのか期待が膨らんだ。しかし、担当者とは直に会うと話が進む半面、会わない時になかなか必要な実務に関するコミュニケーションを取るのが難しく、そのことが事業の実施に対する不安となって影を落とすこととなったのが惜しかった。

アウトリーチは子供の居場所を運営する3団体と行った。この3か所ともに担当者が日頃から施設長と関係性を持たれていて、目的や準備物などはしっかり伝達されて実施することに問題は起きなかった。むしろ、3か所ともに長与さんのあつという間に楽しませるワークショップに参加者が引き込まれて、たいへん良い時間になった。

3日間のアウトリーチ最終日にはトークセッションが設定され、3か所のアウトリーチの担当者が出席してくださった。そこでは、「普段は殴り合いのけんかを始める子もいるが、同じダンスで一緒に時間を過ごすことができた」「初めに子どもたちにやることを話した時は反応があまり良くなかった。自分ではできないとはっきり言う子もいた。それがワークショップ2時間半も最後まで参加していてびっくりした。照明をあててもらって楽しかったし、とっても新鮮な体験だった。」という意見がたくさん出された。また、担当者の「上層部にはHIPHOPなどのわかりやすいダンスをするよう言われるが、どう感じたか」という質問には「むしろ、ダンスをするならこういうダンスがいいと思った」「経済的に困窮する子もいる。中には生活保護で1食100円を滞納する子もいる。そういう子どもは習い事もできないので、文化的経験は少なく格差ができていく。でもこのダンスは誰もがすることが良い。そうした社会の影響を受けずに同じ経験ができる。とても良いダンスだと思った。」などの重要な感想をいただいた。不安げな担当者に、最後には出席した3団体の皆さんが口をそろえて「ぜひ継続してください。来年もやってほしい。」と声をかけ帰っていかれた。

●課題とこれからに向けて

胸の内に熱い思いを秘めた担当者と、準備期間中にもう少し必要なコミュニケーションが取れていれば、アーティストともしっかり良い関係が築けた。そのことを未だに惜しくも感じているが、ホールあるいは指定管理団体がその実態を把握し、内部から改善していかなければ限り解決しようがない構造的な課題があるのではなかろうか。個人的には、参加してくれた子どもたちや、懐の深いアウトリーチ受入団体の方々とアルスプラザが今後もつながりを保ち、私自身もいつかまた彼らとダンスで出会う機会があることを願っている。

実施団体	高知県四万十市
実施ホール	四万十市総合文化センターしまんとぴあ
実施期間	令和6年10月23日（水）～10月26日（土）
アーティスト等	アーティスト：藤田善宏 アシスタント：稲葉由佳利
コーディネーター	中西麻友
■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）	
① 10月24日（木）10：35～11：20 四万十市立中筋小学校 1～2年生 13名 体育館	
② 10月24日（木）11：25～12：10 四万十市立中筋小学校 3～6年生 17名 体育館	
③ 10月25日（金）10：00～10：45 高知県立中村特別支援学校 小学部 9名 体育館	
④ 10月25日（金）11：00～11：50 高知県立中村特別支援学校 中学部1・2年生 9名 体育館	
■公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）	
① 10月23日（水）19：00～20：30 中学生～大人 9名 しまんとぴあ りぐるホール	
② 10月26日（土）10：00～11：30 小学3年～大人 10名 しまんとぴあ スタジオ2	

スケジュール

	下見		実施期間			
	7/10（水）	7/11（木）	10/23（水）	10/24（木）	10/25（金）	10/26（土）
9:00		中村特別支援学校		移動・準備	移動・準備	
10:00				アウトリーチ① 中筋小学校	アウトリーチ③ 中村特別支援学校	公募WS②
11:00		中筋小学校		アウトリーチ② 中筋小学校	アウトリーチ④ 中村特別支援学校	↓
12:00				振り返り		振り返り
13:00						四万十市発
14:00		打合せ				
15:00	四万十市着	四万十市発	四万十市着①			
16:00	写真撮影					
17:00	打合せ		四万十市着②及 び打合せ			
18:00						
19:00			公募WS①			
20:00			↓			
21:00						
22:00						

アウトリーチ

アウトリーチでは、コンテンポラリーダンスを児童・生徒に体験してもらい、一人でも多くの児童・生徒にダンスに興味を持ってもらい、ダンスの楽しさを体感してもらう事を目的とした。

四万十市立中筋小学校は、1～2年生と3～6年生とに分けてアウトリーチを行った。1～2年生は、最初は1から順に数を増やし数の分だけ手を叩きながらジャンプする等、藤田さんと稲葉さんの「楽しみながら体を動かしてみる」という導入の手法により体を動かした。次に、藤田さんとエアーキャッチボールをしたり、個人やグループで体を使って○△□☆を作るなど、どう表現するのかを考え、楽しみながら体を動かした。また、B5の用紙を使い、紙を落とさないように手のひらで8の字を書くように動かしてみたり、体の正面にあてて紙が落ちないように走ってみたりした。最後は、実際に紙は使わないが紙があるかの様に動く様子が、まるでダンスを踊っているようだった。3～6年生はストレッチ等の導入の後、エアー習字をした。手や頭、足や体全体を筆にして自分の名前を書いたが、使う体の部位によって動作も様々で、この様子もダンスを踊っているように見えた。最後は「四万十」からイメージする単語を皆で出し合い、その単語から連想する動きを考え、中筋小学校だけの地域性溢れる楽しいオリジナルダンスが出来上がった。児童からは、「ダンスが踊れてうれしかった。」「初めてのダンス体験で体をほぐして楽しかった。」等の感想が聞かれた。先生からは「今日の体験を授業に取り入れたい。」「楽しんで活動する様子が見られて良かった。」とのご意見をいただいた。

高知県立中村特別支援学校では、小学部と中学部（1・2年生）に分かれて行った。小学部は「みんな楽しく遊びましょう」をコンセプトに、導入では動物の真似っこをしたり○×□☆を作ったり、それぞれの児童のペースで体を動かした。次にトイレットペーパーで大縄を作り、使う大縄を徐々に増やし最後は4本を使い、飛んだり潜ったりして大きく体を動かした。終わりに皆で輪になって、曲に合わせて左右に動き、一体になって楽しく踊った。中学部は「楽しい時間を過ごしましょう」をコンセプトに、体で「グーチョキパー」を表現する等の導入の後、トンネルを作って皆で潜ったり、小学部と同様にトイレットペーパーで作った大縄を使い、飛んだり潜ったりした。最後はB5の用紙を使い、体をくると一回転してキャッチしたり、体の正面に紙をあてて落ちないように走ったりした。先生からは「笑顔いっぱい楽しむ姿が見られてとても良かった。」「新しい刺激になり、児童たちもイキイキとしていた。」「子どもたちも楽しい時間を過ごせたと思う。」とのご意見をいただいた。

児童・生徒は、それぞれが自分なりに「やってみよう、できるかも」と思うことを考え取り組んでいた。「自由な気持ち・自由な発想」で体を動かしてみる姿が、まさしくコンテンポラリーダンスであると感じた。



四万十市立中筋小学校 1～2年生



四万十市立中筋小学校 3～6年生



高知県立中村特別支援学校（小学部）



高知県立中村特別支援学校（中学部）

公募ワークショップ

公募ワークショップでは、年齢やダンス経験の有無に関係なく一緒に楽しみながら、ダンスを通じて体を動かす楽しさ、表現する楽しさを体感してもらいたいと考え実施した。様々な層にアプローチする為、開催する曜日・時間帯を変え、2回開催した。参加者はダンス経験や参加動機も様々で、年齢も20代～70代までと幅広い年齢層の方が参加された。

1回目の公募ワークショップは、まずは体をリラックスさせ、手と足で「グーチョキパー」をした。続いて、2人組になってお互いの動作の真似っこをし、散歩しながら相手を変えて二人組で押し合いをしたり、手は使わずに相手との距離を取って進んだり、互いに動作の真似をしたり、手を使わず手で押しているかのように相手を押したりした。その様子が即興ダンスをしているように見え、参加者からも終始笑い声が出て、楽しい雰囲気で行えた。次にA4やB5の紙を使って、紙が落ちないように手のひらを使って8の字を書いてみたり、落ちないように体の正面に紙をあてて走ったりした。最後は「四万十」をテーマに、連想する単語を出し合い、とんぼ、鮎、四万十川、四万十ヒノキ等それぞれの単語から連想される動きを考え、動作をつなぎ合わせ、音楽に合わせてオリジナルダンスを創った。参加者からは、「とても楽しかった。」「いろんな人と出会えたのも良かった。」「体を動かした開放感が何とも心地良かった、自由に家でも踊ってみたい。」との感想をいただいた。

2回目の公募ワークショップは、先のワークショップの参加者に比べ比較的年齢層の高い参加者が多かった為、椅子を使って行った。それぞれが椅子を使ってポーズを考え、思い付くポーズや動きも様々で、見ていると舞台上でダンスをしているように見えた。このワークショップでも「四万十」をテーマに、連想する単語を出し合い、動きを決めてオリジナルダンスを作った。参加者からは「とても楽しかった。」「貴重な体験ができた。」との感想をいただいた。

短時間ではあるが、初対面の方同士で様々な交流が生まれ、体を動かす楽しさ、表現する楽しさ、皆で考えて動く楽しさ、それが自然にダンスにつながるという驚きや発見があり、有意義な体験になったと感じた。



プログラム詳細

10月23日（水） 公募WS 対象：中学生以上

●まずはリラックスから

頭を押してリラックスしたり、体をさすったりして体をリラックスさせることから始める。

続いて手や足で「グーチョキパー」をして、徐々に楽しみながら体を動かしていく。

●2人組で真似っこダンス

2人組になり、互いの動きの真似っこをする。会場を散歩しながら真似をする相手を色々変える。参加者は、初対面の人とでも 恥ずかしがらずに楽しんで動いていた。続いて、2人で押し合いをしてみたり、押し合いをしながら曲がってみたり、手を使わずに相手との距離感を保ちながら、互いに進んだりした。参加者はそれぞれの動作を終始楽しみながら行っており、会場は笑いが絶えなかった。

●紙の魔術師になる

A4 や B5 の用紙を使って、体を動かした。紙が床に落ちないように、飛ばしてキャッチしてみたり、体を一回転してキャッチしたり、紙が落ちないように手のひらを使って8の字を書いてみたり、体の正面にあてて落ちないように走ったりした。

●最後は四万十のオリジナルダンス完成

「四万十」で連想する単語を出し合い、単語から連想する動きを参加者から引き出し、皆でダンスに使う動きを決めていく。一人一人単語から連想する動きは違って、バラエティーに飛んでいた。動きをつなげ、音楽に合わせて「鮎→とんぼ→四万十ヒノキ→最後はみんなで沈下橋を作ってポーズ」でオリジナルダンスの完成。



●この事業への応募動機

令和6年4月29日に開館した新施設（四万十市総合文化センターしまんとぴあ）では、これまで体験することのできなかった文化芸術に触れることができる機会を創出したいと考えている。ダン活を利用し、令和5年度はBプログラムを開催し、令和6年度は引き続きAプログラムを実施した。

●事業のねらいと企画のポイント

アウトリーチでは小学校等を訪問し、コンテンポラリーダンスを児童・生徒に体験してもらい一人でも多くの方にダンスに興味を持ってもらい、ダンスの楽しさを体感し、個々の文化芸術活動につなげていってもらう事を目的とした。また、公募ワークショップでは、新しくできた会場で設備の整った中、従前のホールでは実施していなかったコンテンポラリーダンスの公募ワークショップを行い、年齢やダンス経験の有無に関係なく一緒に楽しみながら、ダンスを通じて体を動かす楽しさ、表現する楽しさを体感してもらい、文化芸術に触れる機会を創出し、今後の個々の芸術文化活動のきっかけ作りを行う事を目的とした。

●企画実施にあたり苦労した点

公募ワークショップの開催会場の確保、アウトリーチ先の学校探し・依頼・調整等が令和6年4月の時点で何もできておらず、全てが一からの状態であった為、場所の確保、アウトリーチ先の学校の調整に苦労した。

また学校に依頼をする際に、あまり馴染みのない「コンテンポラリーダンス」をどの程度前面に押し出して依頼するのか、その程度が難しかった。

公募ワークショップについては、様々な方法で参加募集したが、申込者が少なく集客に苦労した。最終的には職員や、既に申込済の方への集客依頼等、ロコミによって集客した。

●事業の成果と課題

当初の目標である「これまで体験することのできなかった文化芸術に触れることができる機会を創出」することができ、アウトリーチでは児童・生徒にダンスに興味を持ってもらい、ダンスの楽しさを体感してもらうことができた。また公募ワークショップでは、年齢やダンス経験の有無に関係なく初対面の人が集まり、ダンスを通じて体を動かす楽しさ、表現する楽しさを体感してもらい文化芸術に触れる機会を創出し、今後の個々の芸術文化活動のきっかけ作りを行えた。今回の経験を今後どのように展開していき、個々の芸術文化活動につなげていくかが課題である。

●今後の事業展開や展望

公募ワークショップやアウトリーチを通じてダンスに興味を持った方々が、ダンスを含め様々な文化芸術活動に対して、個人で、学校で活動につなげていけるように、活動の機会の支援等を継続して考えていく必要がある。

●この地域のダン活の特徴

アウトリーチは、ホールから遠い学校や特別支援学校へアプローチし、公募ワークショップは、誰でも楽しめるようにという趣旨のもと、いろいろな層の方が参加できるように曜日や時間帯を変えて計画した。

本番期間は公募ワークショップからスタート。平日の夜間開催で、働く世代も多くダンス経験がないけど興味があるという方々も参加。アーティストから「ダンス」と身構えたり難しく考え過ぎたりせず、人やモノと遊ぶ時間を楽しみましょう、という声かけがあつて始まった。アーティストの言葉通り、二人組のワークやコピー用紙を使って動くなど、自分一人ではないことで普段はしない動きが出てきて、最初は緊張感があつた参加者も、あつという間に笑顔になっていた。最後は、「四万十」をテーマにキーワードを出し合い、そこから動きをつくってオリジナルダンスが完成した。最終日の公募ワークショップは土曜日午前中に開催。参加者の年齢層が少し高めだったので、椅子を使ったワークや、ゆっくり動くワークを取り入れた。初日同様、関わり合いの中で参加者同士の輪が自然と広がり、最終的には初日より多い数のキーワードでオリジナルダンスが完成した。

アウトリーチ1校目は小規模校で、1～2年生と3～6年生に分けて全校児童が参加。最初にアーティストが「ダンス好き？」と聞いた時には苦手と手を挙げる子の方が多かったが、人やモノと遊んでいるうちに自然とダンスが生まれる流れでワークショップを進行。子どもたちは、見えないものを想像することも楽しんで、友だちと一緒に協力しようとする姿が印象的だった。身体の部位を使って空中に形や文字を書くワークでは、使う部位を組み合わせたり、グループで描いてみたりしているうち、次第に全身を使うダンスになっていた。3～6年生は、地域や学校をテーマに、キーワードから子どもたちとアーティストと一緒に動きを考えオリジナルダンスも完成。先生との振り返りでは、普段自分を出すのが苦手な子も最後には笑顔になっていたということや、体育の授業に取り入れたいなどの感想があつた。

2校目は特別支援学校で、小学部と中学部に分けて実施。時に気持ちが乗らなくなってしまう子がいいても、先生も一緒に身体を動かしながらサポートしてくれ、アーティストもそれぞれの参加の仕方をあたたかく受け止めていた。そうしているうちに、予想を超えて一人ひとりが動きを工夫して考える姿が見られたし、挑戦するその姿が自然とダンスになっていた。最後には、生徒も先生もみんなで一つの輪になって踊り、音楽に合わせて大きな声で歌ってくれた子もいて、笑顔で授業を終えた。

公募ワークショップは年齢の幅が広く、平日夜間と土曜の朝では属性が異なっていたし、アウトリーチでは当日の子どもたちの気持ちや状態が様々だったように、会ってみるまでどんなワークが最適で、何が起こるか分からないのがワークショップの難しさでもあると思う。しかし、アーティストが言っていたように、年齢や障害の有無等に関わらず、一人ひとり人は違うので、様々な可能性を想定してたくさんの引き出しを用意し、即興的にその瞬間に最善と思われる展開を組み立てていくことで、誰もが楽しめる瞬間を見つけることができ、その人、その場ならではのダンスが生まれた4日間だった。

●課題とこれからに向けて

今回は生涯学習課の方が担当で、年度が明けてから担当者が決まったので、アウトリーチ先との交渉や、会場の調整、集客等ご苦労されたことも多かったと思う。しかし、アーティスト側も、わからないことや困ったことがあればまずは相談を、と関係性を築きながら本番に臨むことができた。学校でのワークショップは、事前調整の段階では全員一緒に実施したいという要望だったが、子どもたちの実態などを考慮して、下見打合せで2つに分けることを提案し、先生たちもその方が良いと納得されて進めることができた。子どもたち一人ひとりとアーティストがより深く関わることができたので、内容や時間、グループ分け等打合せでアーティストも一緒に相談して柔軟に決めていくことが大切だと感じた。

今回、ワークショップ参加者やアウトリーチ先の先生が、職場や今後の授業にも活かしたいといった、これからにつながる感想を残してくださったので、今後も市民がダンスに出会える事業を継続されることを応援している。

B プログラム

(市民参加作品創作
・公演プログラム)

実施団体	浦添市てだこホール指定管理共同企業体「ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ」
実施ホール	アイム・ユニバース てだこホール
実施期間	令和6年6月6日（木）～6月10日（月） 令和6年6月27日（木）～6月30日（日）
アーティスト等	アーティスト：マニシア クリエーションのためのアシスタント（共演者）：野中香織 “そら” テクニカルスタッフ等：泉山朗土 楽器奏者（共演者）：小林久遠 “ジョニー”、DAI
コーディネーター	神前沙織

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

■ぱりあふり〜ダンスわくわく体験会

6月8日（土）、どなたでも、500 円（参加者の保護者・付添いの方は無料で参加 OK）、27 名、市民交流室

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■『浦添・屋富祖コミュニティダンス公演 ナガリユン、ナガリユン〜屋富祖の昔・今・未来をダンスで紡ぐ〜』

■ 6月 30 日（日）、15 時 30 分開演（15 時開場）

■ マニシア、そら、ジョニー、DAI、市民参加者 60 名、アフタートーク出演者3名（＋参加者3名）

■ 前売り 一般 1,000 円 高校生以下 500 円 当日は一般のみ 300 円増

■ 小ホール

■ 160 名



(A3両面二つ折りで作成)



スケジュール

沖縄県浦添市／アイム・ユニバース てだこホール

	下見	
	4/12 (金)	4/13 (土)
9:00		撮影②
10:00		撮影③ヒアリング
11:00		↓
12:00		休憩
13:00	空港着	↓
14:00	出演者（琉球芸能）ヒアリング	出演者顔合せ
15:00	ホール下見	↓
16:00	撮影①	ミーティング
17:00	↓	↓
18:00	↓	空港へ
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①				
6/6 (木)	6/7 (金)	6/8 (土)	6/9 (日)	6/10 (月)
		公募WS	クリエーション	小ホール下見 打合せ
	打合せ	↓	↓	クリエーション
	↓	↓	↓	↓
	休憩	休憩	休憩	休憩
	公募WS打合せ	↓	クリエーション	クリエーション
空港着		フラッシュ暗算チェック		↓
クリエーション	クリエーション	クリエーション		浦添市長表敬
↓	↓	↓	↓	空港へ
↓	↓	↓	↓	
↓	↓	↓	↓	
ミーティング	↓			
↓				

	実施期間②				
	6/27 (木)	6/28 (金)	6/29 (土)	6/30 (日)	7/1 (月)
9:00					移動のみ
10:00		テクニカル チェック・打合せ	クリエーション	通しリハ	
11:00		↓	↓	↓	
12:00		休憩	休憩	休憩	
13:00	空港着	↓	クリエーション	ゲネプロ	
14:00	テクニカル チェック・打合せ	テクリハ		↓	
15:00	↓	↓		本番	
16:00	クリエーション	↓		↓	
17:00		クリエーション		打上げ	
18:00		↓		撤収作業	
19:00		↓			
20:00			↓		
21:00					
22:00	↓				↓

公募ワークショップ

当館としては、今までに様々な対象者にダンスのワークショップを開催してきたが、障がいのある方をメインターゲットとしたワークショップを開催することがなかった。そのため、今回は「ばりあふり〜ダンスわくわく体験会」と題し、障がい者に限定するわけではなく「どなたでも参加できますよ」と謳いつつ、障がいのある方も参加しやすくするため、「ばりあふり〜」という言葉や車いすダンスの写真をチラシに配置するなど、参加へのハードルを少しでも低くする工夫を行った（一方、障がいのある方だけを対象とすることも違うと考えた）。

当日はマニシアさんから、付添い・介助の方もぜひ参加して頂きたいという声があり、受付の際に積極的に声をかけた。結果、申込人数自体は18名だったが、ワークショップの参加者は27名まで増えた。子どもの参加者が多く、ワークショップが始まる前からすでに広い空間を走り回ったり、背中を床につけて自由自在に動き回ったり、のびのび過ごす様子が伺えた。中には恥ずかしがって引率者にしがみついて離れない子もいたが、マニシアさん、そらさんが視線を合わせて優しく話しかける中で徐々に打ち解けてくれた。「ダンス」を意識することなく、会場いっぱいに広がり、様々な身体表現を行うことで、子供も保護者も心が開けていく様子が見えがえた。

ジャンベやドラムの生の演奏に合わせてカラダを動かせることも、大きな魅力の一つだったと思う。

通常障がいのある方にとってワークショップは、自分が参加することで進行が遅れないか、一緒についていくことが出来るのかなど心配が先に立ち、なかなか参加に踏み切れないことが多いと思われる。その心配を如何に取り扱うかは今後も課題として、模索していく必要があると感じた。



クリエーションの様子

●団体ごとのクリエーション

参加団体は主に「屋富祖自治会」「はっぴーでいだクラブ」「宮城珠算学校」「シンコペーションダンスクラス」「WS（ワークショップ）チーム」の5つに分かれてクリエーションを行った。

児童センターでダンスレッスンを受けているシンコペーションダンスクラス、ダンス・演劇者が多いWSチームは少し練習枠を多めに設けた。シンコペーションダンスクラスは小学校低学年から中学生で、低学年の子たちは練習時間が少し長くないか気掛かりだったが、そんな心配はいらなかった。集中力が途切れることもなく、一生懸命、練習を頑張ってくれた。

ご年配の参加者も「お疲れではないですか？」と声をかけると「毎日踊って元気ですよ」と笑って答えた。

時間単位でクリエーションが割り当てられた各参加団体に対して、アーティスト、アシスタント、楽器奏者は、全てのクリエーションに携わる。スケジュールを組む段階で、このスケジュールは大変なのではないか…と心配になったが、各団体のシーンを完成させて行くためにはそれぞれに必要な時間だった。休憩時間・自由時間を少し長めにとれる日時を設けるなどして工夫した。

●6月11日～6月26日の自主練習・衣装確認

1回目から2回目までの間、参加者には動画・DVDで自主練習するようお願いした。屋富祖自治会の方からは、「お金を払ってもらって見てもらうのに値するような踊りが自分達にできるだろうか」等といった不安の声も少し上がった。真剣に取り組んでいるからこそ、コミュニティダンスという未知のジャンルに戸惑っていたのかもしれない。それでも、集まって自主練習を行い、「屋富祖自治会は本番に強いから大丈夫」とお互いを励まし合っている姿が心強かった。

次の全体練習までの期間も参加者からは色々な問合せがあった。衣装については事前にお手持ちのものから無地・ロゴなし・アースカラーの服というのを条件に準備をお願いしていたが、思いのほか問合せが多かったのも、マニシアさん達が27日に来沖した際、直接ご確認するようお願いした。



●聴覚障がい者の参加について

昨年当館が実施したWSでマニシアさんに出会い、今回の作品作りに参加した方々の1人に、耳の不自由な方（ダンス経験者）がいた。彼女の言葉を借りれば「自分が参加してもいいか迷ったがみんなと楽しく踊りたいので、勇気を出して」参加を決意してくださった。

私達や手話通訳の方も初めて経験することが多く、当人も当初は不安を感じていた。最初、本番の時も自分の見える位置に手話通訳者を立たせてほしいという彼女に、マニシアさんは演出上、それはできないと伝えた。アシスタントのそらさんも「希望通り手話通訳者に立つてもらったとしても、照明ではっきりは見えない。また、ダンサーの視線が通訳者に向いていることが観客からは分かってしまう」と説明し納得していただいた。何度か話合いの場を持ち、練習を重ねていく中で、出演者本人の不安も小さくなり、本番の時は自信をもって大丈夫だと手話で言ってくれた。

●作品の世界観を深めてくれた出演者たち

お父さん、お母さん、幼い子どもが遊ぶシーンは、今回の企画のもととの発案者とその家族に出演してもらった。

「屋富祖口説（ヤフソクドゥチ）」という屋富祖に伝わる琉球芸能を、屋富祖を拠点に活動する「琉球芸能出前公演実行委員会」に披露して頂いた。

舞台上で不定期的に出現する砂場で「砂山崩し」をして遊ぶ親子のシーンでは、練習を見守っていた保護者の方に親役を急遽お願いし、親子共演となった。

●ラストシーンの YAFUSO ダンス

YAFUSO の文字をカラダで書き順どおりに表現する動きを、マニシアさんがダンスにした。今回の公演の中で、参加者全員が同じ振付を踊る唯一のダンス。振付が先に決まり、6月頭のクリエイションでマニシアさんが沖縄の優しいメロディーの曲で踊りたいと言った。いくつかの曲名が参加者から上がる中、女性メンバーが口にした曲が「芭蕉布」だった。「私の父が作詞したんです。平和への願いが込められた曲でもあります」。聴いてみたら、マニシアさんは気に入った。ジョニーさんも曲をチェックして、ヴァイオリンで弾けると言ってくれた。YAFUSO ダンスの曲はこのように運命的に決定した。

ヴァイオリン版「芭蕉布」にのせて踊る YAFUSO ダンスは、曲を後から決めたとは信じられない位、素敵に仕上がりに、ラストのシーンにふさわしいものになった。



公演

『 浦添・屋富祖コミュニティダンス公演 ナガリユン、ナガリユン〜屋富祖の昔・今・未来をダンスで紡ぐ〜 』



参加者のご家族や友人が、チケットを入手しやすいように、参加団体である宮城珠算学校、シンコーペーションダンスクラス、屋富祖自治会、それぞれにチケット販売を依頼した。

小ホールは通常の舞台だけでなく、中央部分の客席を収納することで使える前舞台を使用した。観客と出演者の距離感がぐっと近づくので、見ごたえのある本番になったと思う。

もともとマニシアさんは、本番には出演せず、制作に集中するつもりだった。しかし、プロのダンサーのダンスが鑑賞できる貴重な機会でもあるので、何らかの形で出演してほしいと地域創造のスタッフから助言していただき、マダム・キジムナー扮するマニシアさんが所々、舞台に登場した（※キジムナーは沖縄に古くから伝わるガジュマルの樹に住むと言われる赤い精霊・妖怪。人懐っこい。言い伝えの多くは男の子）。

各団体が次々に披露していくダンスは、マニシアさんが屋富祖の方から聞いた思い出話、戦争体験を経ての平和への思い、参加者の魅力を引き出す身体表現などが見所だった。本番の流れは、明確な時系列の繋がりで成り立っている訳ではないが、マダム・キジムナーという、人間的な歳月の在り方を超越した存在が登場することで、彼女が眺めてきた屋富祖の歴史・人々の営みを舞台上で披露しているかのような、おもしろい構図が生まれたのではないと思う。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ヤフソの方々が地域を思う気持ちがすごい。パワーがある
- ・1人1人のこせいが生かされていた
- ・地域の皆さんが一体となり、とても楽しそうにしていた。ヤフソの歴史もわかり良かった。世代を越えて多くの方達の出演はとてもすばらしかった。
- ・私達地元をふるい立たせるイベントでした。もっと頑張らなっと思います。
- ・体調が悪かったのだけど、すごいエネルギーで元気になった気がする。音楽も照明もとてもよかった。年齢とわずみんな輝いていた。みんな主役！
- ・屋富祖の歴史を出演者にスポットをあて心あたたまる Show でした。音楽をお二人でやり通しすばらしかった
- ・子どもたちが本当にすばらしく、感動で泣いた。音楽もよかった！
- ・人の顔、動き、人間関係、全て完ぺきです。ヤフソの素晴らしさを感じました。

●この事業への応募動機

当初の狙いは、平成30年度のAプロ、令和3年度のCプロの実施を経て、ダンスを地元で普及させたいというものだった。令和2年に公演を予定していたが、コロナ禍により2期連続延期となり今年度の実施となった。コロナ禍の最中は当施設の利用者も減少し、多くの方々が文化活動から遠のいているのをひしひしと感じた。今ようやく、施設の予約や利用、問合せ等も増えてきて、多くの方々が文化活動を求めているのだと感じている。

沖縄はもともと、ダンスが盛んな地域ではある。しかし、マニシアさんが得意とするコミュニティダンスは、多くの方々にとってまだ馴染み深いものではない。新しい表現に触れてもらうことで参加者にも観客にも当館にも、新たな風を提供したい。

●事業のねらいと企画のポイント

屋富祖という土地の人、まち、歴史を題材にマニシアさんが構成や振付を考え、屋富祖を中心とした方々と公演する。参加者・来場者にコミュニティダンスを通して、地元の魅力を再発見してもらいたい。

一部の参加者を除き、ほとんどがダンス未経験者だ。そんな彼らがコミュニティダンスに挑戦し、公演を行う。その実現を通して、参加者、来場者の両方にコミュニティダンスの魅力と可能性を体感するきっかけになればと思う。

●企画実施にあたり苦労した点

参加者人数が多かったため、出演者のケアとクリエーションの日程調整に苦労した。本番の2か月程前に、参加者の通う小学校のうち2校で公演当日の午前中に学習発表会があるという情報が入った。ゲネプロが予定通りにできなくなり、マニシアさんにも相談し、ゲネプロを本番直前に行くことにした。学習発表会と日程が被ってしまったことで参加を迷う人もいたが、対応可能なスケジュールを前もってお伝えすることで、参加に前向きになって頂けたと思う。

●事業の成果と課題

踊る側、観る側、地元の方々を中心にコミュニティダンスの魅力や可能性を理解して頂くことには成功したと感じている。

実際に自主事業の開催に取り組んだ際に必要な準備を経験できた。どんな準備が必要か、事前にわかっていなかったために大急ぎで準備しなければいけないことも多々あり、ソラさんやダン活スタッフにもパンフレットに付ける鑑賞用の資料等の作成を手伝って頂いた。今回の体験を踏まえ、どのような準備が必要か、視野を広くして考え、対応するというのが今後の課題だと思った。

●今後の事業展開や展望

多くの参加者から、またやりたい、継続してほしいとの声が多数上がった。クリエーションの際には、公演に不安を感じていたご高齢の参加者の方からも最終的にそのような声があがったことは嬉しい限りだ。また、沖縄県聴覚障害者協会との繋がりもできた。事業終了後、派遣コーディネーターの方が「今後もこのような機会があるのであれば、私達も派遣料について上司と相談していきたい」と言ってくれた。

今回、60名規模のコミュニティダンスの公演を実施してみてもの正直な感想は、同じような規模の公演を2回目以降も実施していくのは簡単なことではないというものだ。しかし、今回の公演は多くの方々にとってかけがえのない経験になったと自負している。今回きりで終わらせず、また今回のような公演を実現させるのが公共ホールの使命だと思う。

●この地域のダン活の特徴 浦添市

浦添市のダン活最後のBプロは、2度の中止を経て開催することとなったほか、1,2度目の事業担当がその後退職され、始めて自主事業を担当する沖さんと、事業チーフの山口さんの2名で対応されることになった。

アーティストはマニシアさんで、内容は浦添市の屋富祖地区にスポットを充て、街の歴史を題材にその街の老若男女様々な方が映像も含めて出演するコミュニティダンス公演。

マニシアさんによる、踊りたい意思のある人もそうでない人も、その場にいる人皆をダンスでつなげていく過去の公演事例を知った前事業担当が企画したプログラムだったが、新たな事業担当が引き継いで、大変ながらも成功に導いた。

屋富祖は戦後の米軍統治下で米軍補給地の移駐とともに県内外から軍産業に就労する人が増え大都市として栄えた街だが、今はその影はなく夜は飲み屋街になって酔っぱらいが増え子どもたちの町への見方も変わっているという。戦後に屋富祖で遊んだ子供たちが今は60・80代になり、長老会・婦人会などの自治会メンバーとなっている。戦後を経験した沖縄の方々は土地や文化を取り戻す過程を過ごされたためか、自治意識がとても高く、屋富祖自治会の皆さんも生まれ育った場所を平和なまま子どもたちに託したいと日々活動をされている。この方々に、てだこホールダンス公演を通して屋富祖のまちの歴史を今につなぐという本公演のミッションに賛同し多数出演していただいたことが、後から振り返ってもたいへん重要なことだったと感じる。また、自分たちだけでなく少し下の世代の大人や子どもたちの出演への声掛けにも積極的に働いてくださった。おかげで約60名とたくさんの方が出演し、練習から本番まで賑やかな日々となった。子どもたちは終始楽しく活動し、自治会メンバーの皆さんは、初めは観たこともやったこともないダンスに戸惑いがあった様子が、人に見せるならもっとよくしようという意識に変化していき、仲間同士で茶化しあい励まし合って楽しそうだった。公演のチケットも自治会の方々が多くさばいてくださり、160名ほどの来場者となった。

作品は2時間の大作。事前に屋富祖に関係するキーパーソンに行ったインタビューから、戦中戦後のエピソードが作品に活かされた。海や基地の風景を作品に取り入れるため、映像の撮影も行った。最高齢の映像出演者は90代の方で、沖縄戦の時の訓練について語るシーンは今でも覚えている（この方はその後、公演までの間にお亡くなりになった）。他に、「屋富祖口説（くどうち）」という屋富祖のことをうたった琉球芸能を若手に演じていただいたり、自治会の長老たちが踊るシーンでは「シンカヌチャー」（仲間たち）という自治会の方々のなじみ深い歌と踊りを取り入れた。ラストシーンは「芭蕉布」という沖縄の誰もが知る名曲で全員でダンス。平和への祈りが込められた歌で締めくくった。

終演後の打ち上げでは、「自分たちが誇らしい」「屋富祖がこんなにも取り上げられたことが嬉しい」「またすぐに再演しましょう！」という話で大盛り上がりになり、出演された皆さんの晴れ晴れとした様子が忘れられない。立ち合った私も幸福に満ちた時間を過ごさせていただき、また戦中戦後の知られざる歴史とともに記憶に残る市民参加公演となった。

●課題とこれからに向けて

沖縄県内でコンテンポラリーダンスに触れる機会はまだまだ少なく、てだこホールでは「ダン活」を通して経験と実績を積み、ダンスを地域に届けるホールと認識されるよう継続的な事業展開を試みてこられた。5年を経て事業担当が代わっても地域との関わりを変わず継続し、規模の大きな自主事業を成功させた実績は何にも代えがたいと思う。これからの継続と発展を心から期待している。

実施団体	株式会社 SBS プロモーション
実施ホール	菊川文化会館アエル
実施期間	令和6年7月12日(金)～7月14日(日) 令和6年9月18日(水)～9月23日(月・振)
アーティスト等	アーティスト：井田亜彩実 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：黒須育海、相川貴 テクニカルスタッフ等：久津美太地(照明プラン+オペレーター)
コーディネーター	坂田雄平

●公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

①令和6年7月13日(土)10:00～11:30、小学4年生～どなたでも、無料、11名、大ホール

●公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『ダンスだ yo! 全員集合! ～ハートでつなぐアミーゴアミーゴ～』

■ 令和6年9月23日(月・振)、14:00(13:30)

■ 井田亜彩実、黒須育海、相川貴、市民ダンサー、はいばら太鼓、エスコラ・ジ・サンバ・ハママツ・インディペンデント

■ 一般1,000円、高校生以下500円

■ 菊川文化会館アエル大ホール

■ 166名

市民参加型ダンス公演
ハートでつなぐ
アミーゴアミーゴ
ダンスだ yo!
全員集合!

振付・演出：井田 亜彩実 出演：井田 亜彩実、黒須育海、相川貴、菊川市または近隣のみなさん

2024 9/23 13:30 14:00 15:00
菊川文化会館アエル大ホール

■チケット料金：[全席自由]一般1,000円、高校生以下500円 ■チケット発売日：7/20(土)一斉発売
(窓口販売・電話・インターネット予約 9:00～開始)

ダンス×和太鼓×サンバ!?
自由なバックグラウンドをこえて、
みんなあつまれ!

出演者による
大行進!

最高の金
ミニ絵画展

20周年記念

主催：菊川文化会館アエル 共催：(一財)地域創造 後援：菊川市、菊川市教育委員会、静岡新聞社、静岡放送、中日新聞東海本社

みんなが生きるKIKUGAWAで
心がおどるダンスタイムを

あなたの周りにはどんな人が住んでいて、同じ時間と空気を一緒に暮らしています。あなたの周りはどんな人が住んでいて、同じ時間と空気を一緒に暮らしています。あなたの周りはどんな人が住んでいて、同じ時間と空気を一緒に暮らしています。

世界中で活躍するアーティスト

黒須 育海 相川 貴 井田 亜彩実

多彩な未来のたまたち
市民ダンサー

浅野 友花 大石 葉々香 小川 恋音 小澤 明希 北川 萌希

工藤 清帆 栗田 翔佑 栗田 真花 高柳 凛 高柳 葵 平野 ひな 横山 蓮

国境をこえて心繋がるリズム
音楽隊サンバ×和太鼓

離れていても繋がっている
映像参加

表紙のイラストは「Oたかや」さんからお届けになりました

このほか、多彩なKIKUGAWASHIMINが出演!

チケット発売日：7/20(土)一斉発売
窓口販売・電話・インターネット予約 9:00～開始

プレイガイド ●アエルチケットセンター ☎0537-37-3232 ●掛川市文化会館ジョーキ ☎0537-72-1234
●菊川市生涯学習センター ☎0537-24-7777 ●御前崎市市民ホール ☎0537-63-0195

お問い合わせ：菊川文化会館アエル TEL0537-35-1515 〒439-0018 菊川市本所2488-2

スケジュール

静岡県菊川市／菊川文化会館アエル

	下見	
	3/8 (金)	3/9 (土)
9:00		チェックアウト
10:00		佐藤規夫さん 打合せ
11:00	迎え	移動
12:00	打合せ	昼食
13:00	ブラジル人学校 打合せ	はいばら太鼓 見学
14:00		移動
15:00	小川バレエ教室 打合せ	草笛の会絵画展 見学
16:00	会館下見 打合せ	はいばら太鼓 打合せ
17:00		振り返り
18:00	チェックイン	終了
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
7/12 (金)	7/13 (土)	7/14 (日)
準備	準備	準備
	公募 WS	クリエイション③
迎え	↓	↓
打合せ		↓
ブラジル人学校 WS (撮影)		
↓	クリエイション②	館内撮影
↓	↓	
	↓	テクニカル 打合せ
		↓
クリエイション①	クリエイション②	↓
↓	↓	終了
終了	終了	

	実施期間②					
	9/18 (水)	9/19 (木)	9/20 (金)	9/21 (土)	9/22 (日)	9/23 (月・振)
9:00	客席づくり	照明シユート	各所修正	各所修正	各所修正	準備
10:00	テクニカル仕込み		映像チェック	↓	クリエイション⑧	練習
11:00	↓		↓	↓	↓	↓
12:00		撮影		↓		準備・休憩
13:00	↓	↓	ブラジル人学校 WS		クリエイション⑧	開場
14:00	↓		(撮影)	衣装づくり	↓	開演
15:00	打合せ	アーティスト 練習	↓	クリエイション⑦	↓	終演
16:00		↓			準備・各所修正	交流会
17:00		↓		休憩	ゲネプロ	交流会終了
18:00	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥	クリエイション⑦	各所修正	振り返り
19:00	↓	↓	↓	↓	↓	終了
20:00	↓	↓	↓	↓ (録音)	↓	
21:00	終了	終了	終了	終了	終了	
22:00						

公募ワークショップ

外国籍の人々と地域住民の相互交流を目論み、今回は対象者を「親子やペアで参加」と限定せず、「どなたでも」とし幅広い年齢やバックグラウンドが違う人々がダンスで交流できるように考えた。昨年の A プログラム公募ワークショップ「からだではなそう！ダンスの WA」を再び実施。「つながり」や「コミュニケーション」を大切にしたいペアワークや、また本公演に参加してもらえるように、本番のダンスシーンも踊った。広報面では、題名を昨年と同じにしアーティスト・アシスタントの写真も大きく掲載したせいか、「昨年もやったね」「また来られるんですね」と認知度があった。市内小学校全校生徒にチラシを配布したり、昨年の参加者、福祉・スポーツ関係、市内会合等で PR した。また、昨年と同様、ポルトガル語と英語でチラシを作成し、アエルの貸館で利用した外国人グループに配布したり、外国人専用の菊川市の SNS に投稿をした。

参加者は日本人とブラジル人で、小学4年生から66歳まで幅広い。過去にダンスを経験した人がほとんどだったが、今回ダンスを初めてやる人も数名いた。また、昨年参加したブラジル人の方が再度参加してくださった。アエル職員も参加しコミュニケーションを取り、踊りやすい空気を作っていた。

最初は、注目する方向が振りを教えているアーティストやアシスタントだったが、振りが体に入ってくると、お互いを見合い感じながら、どんどん体が解放されダイナミックになり、それをお互い笑いあい楽しんでいるようだった。最後は一体感が生まれ、踊り終わった後のリアクションなど、心から解放されて体いっぱい自分の気持ちを表現していた。ワークショップが終了すると、皆どこか寂しそうだった。

参加者の反応は、「はじめて会った人と、踊りながらコミュニケーションがとれて楽しかったし、仲良くなってうれしかった。」「自分にはなかった沢山の動きを知ることができた」「また参加したい」など、初めて会う人、初めて踊る体の感覚に、とても興味を示し、楽しんでいた。

菊川市ダン活のワークショップは、ペアワークが多いが、そのワークを通して、心も体も感情も解き放って、それがお互いに共鳴しあっているように感じた。自分だけのパワーの発散ではなく他者と共鳴することで、どんどん個々が解放されていく過程で、国籍やジェネレーションなど個人のバックグラウンドは超えて、目には見えない「つながり」を感じ取れるように思えた。



クリエーションの様子

●客席について

「つながりを大切にする」「客席と出演者が一体になる空間」というコンセプト。客席と舞台だと、離れた印象になるため、舞台上にお客さんも出演者も乗せた。客席土台は舞台にある平土間とケコミを、客席は軽いオーケストラ用のイスとパイプ椅子を使用した。仮設の為、安全面を考慮し、舞台スタッフやコーディネーターからご意見をいただき、試行錯誤しながら組み立てた。

●舞台の使い方

アエルではやったことがない、舞台と客席が逆転するというワクワクする空間が出来た。通常のアエルの客席の色は、全席「茶葉の色」だ。そこにインスピレーションを受けた井田さんより「客席で、出演者が茶摘みをしたい」とアイデアが生まれた。前舞台も使用し、アエルの特徴ある舞台を目一杯使い演出していただいた。

●バックグラウンドを超えて踊る

参加者は、バレエ教室の生徒と HIPHOP の経験がある公募ワークショップに参加した子供たちだ。アーティストやアシスタントの体から生み出される躍動し迫力あるダンスに皆ついていき、必死になって踊っていた。7月のクリエーション時「自分の中で覚えている記憶」を題材に参加者自身が考え、その後3人のグループになり、アーティストやアシスタントと対話をしながら創作し踊った。9月のクリエーション時には、練習を重ねていたのか各々ブラッシュアップされていた。

●色とりどりの衣装

クリエーション中に、衣装を作成した。参加者が絵具でTシャツに自由に絵を描き、一人一人個性あふれる色とりどりの衣装が出来上がった。隣の人と一緒に、一つのTシャツを作っていたのも印象的だった。



●みんなでつくる

「茶摘み」のシーンではお茶の製造工程から飲むところまでの過程をトルコ行進曲に合わせてダンスで表現。グループごとに創作したが「アレンジをしました！」と何度も井田さんに提案。能動的に創作に関わり、畑が違う参加者同士が「もっとこうしよう」と交流をし、ひとつの作品を楽しそうに創っていた。他のシーンでは井田さんの「ああ悲しい!」「悔しいぜ!と思って!」など、どんな感情で踊るかの言葉を受けながら、皆その気になり、目一杯表現していた。

●映像参加について

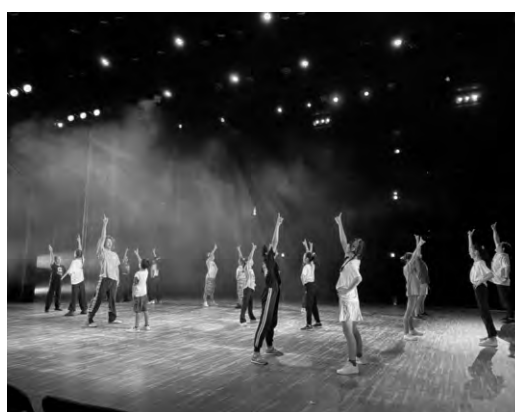
熱望していたブラジル人学校の当日参加が難しくなった。そこで生徒達をアエルに呼び、井田さん達にワークショップを行ってもらい、その様子を映像を撮り、公演オープニングに上映した。映像制作の技術があるアシスタントの黒須さんが大奮闘し、とても感動する映像になった。スクリーンがない為、白い移動式反響盤を代用する予定だったが、最終的に暗転幕の裏に投影した。これらは、舞台スタッフはじめ周囲の関わった人々の理解・技術がなければ実現しなかった。テーマである「多文化共生」のメッセージを作品に乗せることができた。

●音楽隊とのコラボレーション

地元の人とコラボレーションができる要素をということで、地元で活躍する音楽グループを呼んだ。それに合わせて井田さんが、「菊川市のイメージ」をモチーフに振付を行い、客席も出演者も一緒に踊れる「参加型」のシーンを作った。サンバ演奏「エスコラ・ジ・サンバ・ハママツ・インディペンデンチ」と和太鼓「はいばら太鼓」の相互演奏。ブラジル（外国）と日本。両者、圧巻の演奏。しかし、聞いている方の身体はどちらも自然にリズムにのるのだ。お互いチーム同士、フレーズを出し合い、話し合いながら、ダンス曲を創作。

●ゲネプロ

参加者のインタビューや様々なあいさつの録音も行い、その素材も使いシーンを創った。「つながり」「異なる文化が共生し共鳴しあう」テーマが身近にわかりやすく感じ取れる。照明も出来上がり、音響も整い、いよいよゲネプロ。この作品の全貌が見えてきた。広い舞台カラフルな光が降り注ぐ中、皆で踊り、演奏する。6日間全力でとにかく踊った。セッションした。盛りだくさんのシーンや内容、細かい調整もふくめ、皆、満身創痍になりながら乗り越えた。



公演

『ダンスだ yo ! 全員集合！～ハートでつなぐアミーゴアミーゴ～』



国や年齢、障がいがあるなしに関わらず皆が一緒にの時間を楽しめるように、舞台上に観客も出演者も乗せて、客席参加型の公演とした。日本の子供たちがダンス出演、ブラジル人学校の生徒による映像参加。素材として、「いろんなあいさつ」や「ダン活に参加した感想」の録音も使用。そして和太鼓グループとサンバグループで構成された音楽隊の演奏で、観客と出演者が一緒に踊った。「ブラジル（外国）」「日本」「観客」「出演者」を、目には見えない「つながり」「思い」を、「ダンス・リズム・音圧」で一緒に体感する公演となった。菊川市はお茶の産地で、客席全体がお茶の葉の色をしている。その客席を舞台として使用し、出演者による「茶摘み」を表現した。こちらでは実現が難しい部分をアーティストやアシスタントの皆さんに補っていただいた。特に「映像」で参加したブラジル人学校は大切な要素だと理解してくださり、ハードな中、ワークショップを入れて、50人あまりの生徒達と一緒に踊っていただいた。アシスタントの黒須さんがその様子を撮影し映像を制作。感動するシーンとなった。また舞台まわりの部分をアシスタントの相川さんが自身も出演しながらも細かく舞台スタッフと最後まで調整していただいた。広報面では、地元高校生にクリエイション風景を撮影してもらい会館のSNSに投稿した。すると、再生や閲覧数が2倍になる日もあり、来場者からも反応があった。新しく取り組んだことは、普段会館とつながりが少ないところに通い、スポーツ協会や国際交流協会、障がい者施設やブラジル人学校の職員の方々へのところへ何度もPRしに行った。また地元の中・高校生にスタッフとして手伝っていただいた。結果たくさんの方が関わることができた公演となった。出演者によるラストダンス「イロトリドリ」ではカラフルな照明＆手作り衣装で出演者も来場者も笑顔や手拍子がはじけ、大盛況で終わった。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ みんなが楽しそうだった！！（50代：菊川市）
- ・ 自由なダンスがすてきでした。（10歳未満・40代：菊川市）
- ・ 久しぶりのアエルでした。楽しかったです。みんなの元気いっぱいもらいました。（70代：菊川市）
- ・ みんなで力をあわせていいと思う。（10歳未満：菊川市）
- ・ 終始リズムが体感できてめちゃくちゃ楽しかった！客席の茶畑はアエルならではの！（40代：菊川市）
- ・ 大ホールのステージに観客席を設けたことで一体感がありました。入場から閉幕までアイデア豊富な公演でした。（60代：菊川市）
- ・ ダンスがすごく近くで見れたこと。生演奏との共演が最高だった。（30代：その他）
- ・ 出演者の仲間の仲の良さが感じられました。こんな感じのダンス披露は初めてでしたが、ステージ上で一緒になって踊っていたように思いました。（60代：菊川市）

●この事業への応募動機

前年度、外国人と地域住民との交流を目的とした A プログラムを実施。「アエルがホームになるように」と、そこでつながりを持った人々がアエルに集い一つの作品を創り交流をし、そしてその様子を父兄や街の人々が観覧し、感動を一緒に共有できるようにしたいと考えた。また新しいフィールドを開拓し、アエルの文化事業の発展に役立てたいと B プログラムに応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

アエルとの関りが少なかった人々（外国人・障がい者なども含め）に目を向け、次へとつなげるきっかけを発見することがねらい。菊川市の特徴である「多文化共生」と「多様性」が大きなテーマだ。そこで生まれる「つながり」を大切に、同じ空間で一体となることを重視した。しかし実際アエルに来て踊ったり観覧することが難しい人々もいる。なので踊らなくても参加できるように、障がい者の絵や書道をチラシの素材に採用しロビーで展示を行い、ブラジル人学校は映像での参加とした。そして、地元の方々とのコラボレーションは、和太鼓とサンバのグループのセッションで観客も踊る参加型。題名を「ダンスだ yo！全員集合！」とし、同じ空間にいる人達が見た目や内面や言葉の違いを超えて、共に踊り、共鳴し、交流し、相互理解を深める機会にした。

●企画実施にあたり苦労した点

広報面で苦労した。まずはチラシ作成。特徴ある素材と、内容が多岐で情報量が多く、企画制作者側の意図が、チラシデザイナーに伝わりずらく何度も修正をする羽目に。結果ビジュアルがわかりやすく洗練された内容にはならなかったが、「チラシが賑やかで楽しそうだから」と、地元の年配の方や、難しかった障がい者グループの集客につながる事もあった。次に、参加者募集だ。当初子供だけである程度人数があった。しかし「多様性」「多文化共生」のテーマを重視し、幅広い層を募集すると方針が変わった。反応がない外国人参加者と年配層をどう取り込むか、とにかく様々な所へ周知活動をし、募集方法を変えたり試行錯誤したが、難しかった。

●事業の成果と課題

成果は、満員御礼で、たくさんの方に喜ばれ、安全に終えることができたことだ。そして、制作者側の意図と観客の感想がマッチングし、テーマも劇場空間も新しい試みが受け入れられた公演となった。また、最初は様子を見ていた参加者同士が、ダンスを通して分け隔てなく協力し合いながら、楽しくひとつの作品をつくるプロセスにとっても意義があると思った。終始客席で見学をしていたバレエ教室の先生や、参加者の父兄は、「幼少から踊りを見てきたが、こうして成長する様子をみると感慨深い」と涙ぐんでいた。観客、参加者共に思い出に残る満足度が高いプログラムとなった。課題は、担当者が提示した壮大なテーマをクリアしようと様々なアイデアが出されたが、工程をよく知らないまま進めた結果、作業量が膨大になり、アシスタントやアーティスト、舞台スタッフまで多大な負担をかけてしまった。「ブレーキをかけて欲しかった。」などご指摘を受けた。情熱を持ち作品を作るのはいいが、限られた時間・人員・予算、そして内容を吟味し、双方に負担をかけず、企画制作を無理なく進めることが重要である。そして、言葉の伝え方で方向性が変わり、共に仕事をするスタッフとの普段の関係性も、企画制作に影響してくることも今回のプログラムを通して思い知った。

●今後の事業展開や展望

今回はテーマが大きく、盛りだくさんの企画になってしまった。しかしここで繋いだ関係をつないでいき、手の届く小さな範囲から、持続出来て、人々が断続的に来場できるような企画を考えていきたい。また、ダン活に参加をしたり来場した方が、関わった人々やアーティストにまた会えるように C プログラムを準備していきたい。

●この地域のダン活の特徴

静岡県西部に位置する菊川市は、「深蒸し茶」の産地として全国的に知られる。市内に広がる広大な茶畑から生まれるお茶は、豊かな香りと深い味わいで人気を集めている。東海道本線や東名高速道路のインターチェンジを持ち、交通の利便性から工業団地や企業の進出も盛んだ。また菊川市は、県内有数の外国人住民が多いまちとしても知られ、市の人口の約 8.4% が外国籍。特にブラジル人が半数以上を占め、フィリピン、ベトナムをはじめ 30 カ国以上の人々が共に暮らしている。市では外国人住民と日本人が交流できる講座や行政支援を行い、多文化共生の取り組みを積極的に推進している。自然や歴史を生かした観光施策も進める菊川市は、多様な人々が交流しながら共に暮らしやすい地域づくりに力を注いでいる街だ。

今回のダン活 B プログラムは、昨年度実施した A プログラムに引き続き、井田亜彩実さんを迎えて開催された。アシスタントを務めた黒須育海さんとともに、2 年目ということもあり、まずは A プログラムに参加したブラジル人学校を訪ねる下見からスタートした。多文化共生を背景に募集した公募ワークショップでは、ポルトガル語と英語でチラシを作成し、外国人コミュニティへの PR にも尽力。日本人とブラジル人が共に参加し、前年度プログラムで生まれたつながりが十分に感じられる内容となった。

菊川文化会館アエルで行われた市民参加ダンスは、「つながること」を中心テーマに据えたプログラムだ。参加者のみならず、市内のさまざまな団体と積極的にコラボレーションが行われ、タイトルの『ダンスだ yo！全員集合！～ハートでつなぐアミーゴアミーゴ～』も、このコンセプトをストレートに表現している。チラシ制作では、題字をアエルで活動する静空書道会さんが担当し、メインビジュアルは市内の知的障がい者の就労と生活を支援する草笛の会のアトリエから提供された絵を使用。作品には、公募ダンサーだけでなく、サンバ演奏グループ「エスコラ・ジ・サンバ・ハママツ・インディペンデンチ」や和太鼓グループ「はいばら太鼓」が共演し、映像演出もふんだんに取り入れられ、ブラジル人学校の生徒たちのダンスや茶畑での撮影など、菊川の多様な魅力が感じられるものとなった。もちろん異なる文脈を持つ領域や表現者が参加するため、一筋縄ではいかない部分もあった。出演予定だったブラジル人学校の参加が難しくなるなど、制作面では各団体への配慮すべき事項が多岐にわたった。コンテンポラリーダンス、サンバ、和太鼓、お茶、日本人、ブラジル人といった多様な要素が、ひとつの作品づくりを通じて交わり、相互理解が着実に育まれていったことは、この事業における最も大きな成果の一つだったのではないと思う。これは、担当者の粘り強さと、アーティストの力強い構成力・対話能力がなければ、成し得なかったはずだ。

●課題とこれからに向けて

ラストシーンでは、参加者と満席の客席が一体となり、この場に集う喜びを感じ、今という時間を心から祝福しているように感じた。公演に合わせて開催された草笛の会による展示、参加したバレエ教室の先生や保護者の高いコミットメント、セッションを通じて繋がったサンバと和太鼓のメンバーのパッション。普段では考えられないような交流を実現できる、そんな「場」がコンテンポラリーダンスやアーティストにあるのではないだろうか。

今回は舞台上客席で、通常の客席を舞台背景や舞台の一部として使う演出など、会館にとっても初めてのことが多く大変な苦労もあったことと思う。全力で走るだけでなく、持続的に走り続けることも劇場の果たすべき役割。成長のためには、全力疾走も変化自体も必要だ。どうやったら走り続けることができるのか。速度をコントロールすること、体力をつけること、給水ポイントをつくることなど、答えは一つではない。その答えを皆で模索することで、会館の運営や事業の進め方にも新たな視点で、ゆるやかな変化が生まれるはずだ。次回の C プログラムに向けて、この B プログラムで生まれた市民の豊かな関わりを育むための、確かな歩みを進めてほしい。

B プログラム

[illegible]

スケジュール

茨城県日立市／日立シビックセンター

	下見	
	4/23 (火)	4/24 (水)
9:00		集合
10:00		荒馬踊り調査 (荒馬座)
11:00		↓
12:00	集合	昼食
13:00	荒馬踊り調査	会場下見
14:00	移動	↓
15:00	保育園訪問	↓
16:00	荒馬踊り調査	
17:00	広報物打合せ	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
7/13 (土)	7/14 (日)	7/15 (月・祝)
	アーティスト 稽古	クリエーション②
	↓	↓
集合	↓	昼食
打合せ		打合せ
受付		↓
公募 WS	打合せ	↓
↓	クリエーション①	
アーティスト 稽古	↓	
↓	↓	

	実施期間②					
	8/5 (月)	8/6 (火)	8/7 (水)	8/8 (木)	8/9 (金)	8/10 (土)
9:00		美術仕込み	美術仕込み	美術仕込み		テクラン
10:00		↓	↓	↓		↓
11:00		↓	↓	↓	クリエーション⑦	抜き稽古
12:00		↓	↓	↓	↓	↓
13:00	集合	↓	↓	↓	昼食	昼食
14:00	打合せ	↓	↓	↓	ゲネプロ	公演
15:00	↓	延長練習	延長練習	延長練習	↓	↓
16:00	クリエーション③	クリエーション④	クリエーション⑤	クリエーション⑥	調整	振り返り
17:00	↓	↓	↓	↓	↓	
18:00	↓	↓	↓	↓		
19:00	延長練習					
20:00	↓					
21:00						
22:00						

公募ワークショップ

公募ワークショップは、昨年度の A プログラムの内容を踏襲し、「新感覚の身体表現」をテーマに開催した。夏休み時期での開催であるため、参加希望者に小中学生が多くなることを想定していたが、10 歳未満から 60 代まで幅広い年代の方にご参加いただくことができた。

まずは円形に座り、自己紹介をするところから始まった。大島さん達講師陣の温かな雰囲気により、ゆるやかに身体を使う流れへと移行していった。大の字に寝転がりストレッチをした後、会場内を自由に歩き回り、大島さんの動きの真似をした。「身体を軽く」「足でギザギザを描く」「肘で点を描く」等、参加者は、関節を意識した動きを体験した。

次に、ゲーム感覚での動きの体験。この頃には、最初は緊張気味であったお子さんにも笑顔が見え始めた。エアキャッチボールや動きの伝言ゲームを行い、年代関係なく楽しく取り組むことができた。担当者目線としては、幅広い年代の方が集まっているにも関わらず、動きの表現の幅に制限が出ないところに面白さを感じた。日常生活の中では、年代ごとに「できる動き・できない動き」が一般的にはあるが、今回のワークショップではそれを一切感じなかった。それは、コンテンポラリーダンスだからこそできたことであるように思う。各々が自由な表現を楽しむことができる、その素晴らしさを参加者は大いに体験できたこととを感じる。

最終的には、グループごとに動きの創作を行った。各グループに異なる絵が配布され、その絵を身体で表現するという内容であった。絵は、山の墨画等、身体を使って表現しにくいものであったが、それぞれ特徴を捉えて表現していた。身体の使い方を知るのみでなく、参加者同士がコミュニケーションをとる機会にも繋がっていた。



クリエーションの様子

●日立荒馬踊りを知る

下見で大島さんに調査していただいた「日立荒馬踊り」について、大島さんが参加者にお話した。日立荒馬踊りは日立市内の保育園で約30年間踊り続けられており、日立市の郷土芸能の1つであること、この踊りの基になった時代背景に農村の生活や馬の存在が大きく関わっていること等について、“まずは言葉で吸収する時間”を設けた。

●馬の着用、踊ってみる

実際に日立荒馬踊りで使用されている“馬”を装着し、日立荒馬踊りを体験した。

二つ跳びや四つ跳び、ギャロップ等を体験し、実際に日立荒馬踊りでどのようなテンポ、振りで踊っているのかを確認した。

●“自分の考え”を文字に起こす

参加者は、ここまでのクリエーション内容を通して学んだ日立荒馬踊りのことから、各々の考えを紙に書き出した。「農耕馬と人は、良きパートナーだったのではないか」「馬の存在は人々にとって神様だったと思う」「人は大地から生まれ、大地に生かされ、大地へ還っていくように感じた」等、様々な意見が上がった。

●“自分の考え”から“自分の振付”を考える

自分が感じたことを中心に、各々で振付作り。それぞれの振付の作り方も印象的で、即興的な感覚で一人で身体を動かし続け模索する方、一度紙に全て書き起こして考える方、ダンサーに相談することでその表現方法を上手く落とし込む方、一人一人異なるやり方で振付を考えた。

大島さんが、それぞれの作った振付の意図を聞いていく。子どもでも、大人でも、それぞれの振付には確実に「日立荒馬踊り、農村や農耕馬」に関わる要素が入っていた。



●荒馬踊りの要素を使う

日立荒馬踊りでも、日立荒馬踊りの元祖「今別荒馬」でも、荒馬踊りは男女で振りが異なる。

女性が馬を引き、男性がその後ろで馬と共に作業をする農耕の風景から、男性は馬役、女性は馬の手綱を引く役を表現した振付で踊る。

互いに向き合い、対照的な動きをするため、その要素を取り入れた動きを体験した。二人一組でペアになり、女役の手の動き（左右や高さ等）に合わせて男役が跳ぶ。

まだ2回目のクリエーションの段階での挑戦であったが、参加者は、お互いに息を合わせ、見事に表現していた。その際に大島さんが「年代によって手の動きが違って面白い」と仰っていた。大島さん曰く、自身の若い時に流行したダンスの特徴が若干含まれているようであった。今思うと、この一言が最終的に完成した公演内容「人の世は年々変わっていく」と繋がっていたように思う。

●更なる進化を

各々が作った“自分の振付”を、今度は公演作品として提供できるように大島さんがアレンジ。参加者の創作意図を汲み取り、あまり変更は加えないようにしつつ、ステージの特殊な形に合わせて表現できるようにアドバイスをした。前後左右の無いステージでは、観客席が左右に分かれており、どちらの席からも対等に観覧できるようにしなければならぬ。それを踏まえ、参加者が一人分の振付として考えていたものを2人ないしは3人で踊るようにしたり、ステージを歩き回りながら踊るよう指導したり、調整を重ねた。

●ステージにて、踊る

実際のステージを使い、照明も入れた状態でダンス。緊張感を感じない堂々としたダンスは、参加者が繰り返し練習してきたという自信の強さを感じた。

少しの空き時間でも各々が積極的に練習しており、実際にステージに立って踊ってみたことで、逆に参加者から大島さんに意見提案する場面も印象的であった。



公演

『 コンテンポラリーダンス×郷土芸能 日立荒馬踊り 新作公演「タイトル未定」 』



日立シビックセンターが大切に育ててきた郷土芸能「日立荒馬踊り」。約 30 年間、市内の保育園で踊り続けられてきた。その踊りをコンテンポラリーダンスと混ぜ合わせたのは、担当者の「日立市をもっと愛してもらいたい」という想いから。大島さんの“新しさを追及する踊り”の力をお借りして創作することを決定した。

「タイトル未定」その斬新なタイトルは、大島さんの「この公演は参加者と共に創り上げる必要がある。大きなテーマは既に決まっていますが、その中の何を軸にして公演を考えるかは、参加者と会うまで決められない。」という言葉から決まった。公演までの広報期間は、「タイトル未定」で進んでいく。中身が決まらない状態での広報は、デザイナーさんのデザインアイデアで上手くカバーし、むしろ興味を引くような構成に。当日配布のプログラムも封筒型プログラムという特殊な形にして、公演終了後に封を開けて中身を見ることで、自身の考えをより深められるように作成していただいた。

最終的に決定した公演のタイトルは、『歳歳年年人同じからず』。毎年花が同じように咲いて自然は変化しないのに対して、人の世ははかなく変化する、という意味の漢詩から決まった。参加者が表現してくれた多角的な視点で表現された日立荒馬踊りは、この先の未来でどのような変化を重ね、受け継がれていくのかを考えさせられるものとなった。

●来場者アンケートより（感想）

- ・タイトルも分からないし、荒馬踊り×コンテンポラリーダンスがどのような形になるのか全く想像できずにワクワクしながら観ることができた。素敵なダンスや音楽も楽しかったが、一人ひとりが丁寧に踊る一挙手一投足がとても美しいと感じた。そのようなことに気が付くことができる豊かな時間だったと思う。
- ・短期間で作り上げた市民参加公演とは思えないほどまとまった公演だった。最初から、ぐっと引き込まれた。
- ・30 年間日立荒馬踊りに携わってきたが、別の角度から観ることができ、新鮮な思いだった。とても感動した。
- ・今までに見たことのない新しい作品で見ていて興味深く、もっと続きを見ていたいと思えるような素晴らしい作品だった。一人ひとりの個性が出ていつつ、1つのまとまりがあり、ずっと目が離せなかった。
- ・コンテンポラリーダンスを経験したことはあったが、生でこんなにも近い距離で見たことがなかったため、とても良い経験になった。
- ・市民参加の皆さんが、数少ない練習の中で自信に溢れ、楽しそうに踊っていて良かった。ダンサーの皆さん、素敵だった。心癒された。また公演してほしい。

●この事業への応募動機

日立シビックセンターは、『心豊かなまちづくり』を実現する財団』を基本理念に、様々な文化・芸術に関する事業に取り組んでいる。そのうちの1つとしてダンス事業がある。

今年度は、ダンス事業の更なる拡充を目指し、公共ホール現代ダンス活性化事業に申込みをした。令和5年度に公共ホール現代ダンス活性化事業 A プログラムを実施し、小学生から高校生までの若い世代を中心に、アウトリーチ等を通してコンテンポラリーダンスに触れる機会を創出した。その次のステップとして、市民には、コンテンポラリーダンスの作品に目を向け、自ら創り出す面白さに触れていただきたと考えた。また、新たなジャンルに取り組むことで、この事業を通して新たな人とのつながりを生み出す機会としていきたいとも考えていた。

●事業のねらいと企画のポイント

事業のねらいは、B プログラムを通し、市民の文化・芸術への興味・関心を喚起し、それらを享受することで、「心豊かなまちづくり」の実現を目指すことであった。

企画のポイントは、日立市の郷土芸能「日立荒馬踊り」を要素に活かしたことである。日立市3大事業の1つ「ひたち秋祭り」で市内の保育園生によって発表されるこの踊りは、多くの市民が目にしたことがある。見慣れた踊りをコンテンポラリーダンスによって新たな視点で表現することで、「日立市の郷土芸能のこれからを見つめてもらう」「日立市をもっと愛してもらう」、そのようなきっかけ作りとした。

●企画実施にあたり苦労した点

「タイトル未定」の公演名の通り、中身が最後まで分からない状態であった点である。広報の際に、どのように伝えれば魅力が伝わるのか、何度も試行錯誤を繰り返した部分であった。

全企画の集客についても思うように集まらないところがあり、特に公演への入場者数については当日を迎えるまで不安があった。

●事業の成果と課題

成果は、目的としていた「市民に自ら創り出す面白さに触れてもらう」「コンテンポラリーダンスを通して新たな人との繋がりを生み出す機会とする」の2点を達成し、コンテンポラリーダンスによって市民が新たな文化芸術を体感する場を生み出したことである。

課題は、全ての企画において次回を期待する声が多くあったことに対し、今回のプログラムを通して得たものを、次年度以降どのように繋げていくかを深く検討する必要があるところである。

●今後の事業展開や展望

今回の B プログラムを通して、既存のダンス事業に対しての新しい見方を学ぶことができた。現状、日立シビックセンターでも、Civic Dance Fes. というダンス発表の場を作り、そのステージに立つために数か月にわたりダンス練習を重ねるという企画を実施している。まだ立ち上がったばかりの事業であるため、試行錯誤しながら進めているような状態である。今回の企画を通して学んだ事業の流れを参考に、より自由度の高い実施形態を目指したい。

また、今回テーマにした日立荒馬踊りも、引き続き日立シビックセンターにおいて大切にしていける所存である。市内保育園への踊り指導も、年を重ね踊りが根付いてきたことにより、段々と指導方法を簡略化してきている。今後は、保育園が日立荒馬踊りを継承していくことに期待するだけでなく、時代に合わせた踊りの取り組み方の提案者のような関わり方も目指してみたい。

●この地域のダン活の特徴

茨城県北部に位置する人口約 16 万人の中核都市、日立市。JR 常磐線日立駅前に聳え立つ日立シビックセンターは科学館、天球劇場、音楽ホール、多用途ホール、音楽室、スタジオ、会議室などの施設に加え、記念図書館、視聴覚センター、観光物産協会、消費者生活センター、女性若者支援課といった機能までも備えた複合文化施設。平成2年（1990 年）開館。音楽ホールや多用途ホールではクラシック音楽や伝統芸能などの自主事業を実施しており、屋外の新都市広場では春の「ひたち国際大道芸」や「Civic Dance Fes」（ヒップホップ、チアダンス、ストリートダンス、フラダダンスなど県内の様々なダンスチームが練習の成果を披露）、秋には「ひたち秋祭り」（野外特設ステージで芸能を鑑賞できる、日立の秋の一大風物詩）などを開催している。

コンテンポラリーダンスの自主事業は令和5年度に実施したダン活 A プログラムが初めての取り組みとなり、同じアーティスト（大島匡史朗さん）を迎えて今年度2回目の実施。日立シビックセンターとしてはダンス事業の拡充を試みるとしてコンテンポラリーダンスに着手しており、若手職員の研鑽も目的としている。近年、日立市は転出者数が転入者数を上回り、人口が減少傾向にあるという。特に 20 ～ 30 代の若い世代の流出も続いているといい、地域が抱える課題は日立シビックセンター自身の観客・利用者構成に反映する課題でもある。B プログラムの企画を立ち上げるにあたり、主催担当者の「日立をもっと愛してもらいたい！」という強い想いは施設を越えて日立市全域に響き渡る切実な叫び声のように感じた。

小学生から 60 代の市民参加者8名と共に創り上げる新作の主題として取り上げた日立荒馬踊りは「日立の子どもたちに芸能を」との思いから青森県をルーツに日立市で独自に発展した。市内の保育園の子どもたちを中心に 30 年余り踊り継がれてきた地域の大切な文化的アイデンティティの一つとなっている。その知名度と伝統にコンテンポラリーダンスの観点からアプローチして未来に向けた新しい踊りの境地を市民参加者とともに創ろうというのが企画の主旨である。スタイルは違えども 2 つの踊りの共通項は「誰でも参加できる」ということだろう。

アーティストの世界観を信頼し、誰も見たことの無い新しい世界を創り出して欲しいという主催者の想いを受け止めた大島さんは市民参加者に出会うまで良い意味で何も決め込まずに非常にオープンな姿勢で新作創りに取り組んだ。もちろんそのためのリサーチや大枠の構想は入念に準備されているのだが、8人8様の市民参加者と向き合い共に振付を考案し、照明、美術、音楽などに係る舞台技術スタッフとの調整、自身の出演シーンの振付、全体の演出構成など、大島さん一人に求められる役割は多岐に渡っていた。中でも市民参加者によるオムニバスシーンの踊りのタネは参加者のアイデアを最大限活かし、それをもとに大島さんが作品を立ち上げていった。限られた時間内で実施する手法としては見通しが立ちにくいチャレンジングなやり方だったと思うが、大島さんが福岡から帯同した舞台監督と施設管理スタッフ、アシスタントダンサーらとの連携により乗り切った。個性溢れる市民参加者の高いモチベーションと自主性も不可欠な要素であった。その成果に対する観客の反応は来場者アンケートからも伺える通り上々である。市民参加者は公演終了後も熱が冷めやらず気持ちの昂ったやりとりが LINE グループで飛び交っていた。

●課題とこれからに向けて

次年度の C プログラムは組織体制の事情により交流事業課からホール事業課に担当が移る。2年間培ってきた経験と熱意を受け継ぎ、事業を継続発展されることを願う。コンテンポラリーダンスの認知度もここから上げていく必要があるだろう。これまで開拓した地元の小学校、高校ダンス部、市民参加者などとの人脈を足がかりに、コンテンポラリーダンスの有用性を潜在的な観客や参加者にどう訴えていくのか。日立シビックセンターと市民の距離もまだまだ縮められる余地があると感じる。職員自らが市民との顔の見える関係を柔軟に積み上げ、人的交流を促し、市民の居場所として親しみ易さを示していくことも可能ではないか。地域のクリエイターやアーティストとの協働の機会を増やすこともできるだろう。地域の人的資源を開拓し共存関係を構築していく地道な歩みもまた、日立シビックセンターが目指す「心豊かなまちづくり」を実現するステップになるのではないだろうか。

実施団体	喬木村教育委員会
実施ホール	曙月庵
実施期間	令和6年8月17日（土）～8月20日（火） 令和6年10月16日（水）～10月20日（日）
アーティスト等	アーティスト：康本雅子 クリエーションのためのアシスタント（共演者）：中西星羅、ミウラ1号（音楽） テクニカルスタッフ等：原口佳子（舞台監督）
コーディネーター	宮久保真紀

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

①8月17日（土）16:00～18:00、小学生以上、無料、8名、喬木村第一公民館 講義室

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

- 演目「面々（メンメン）とメモリー」
- 令和6年10月20日（日）14時開演（13時45分開場）
- 康本雅子、中西星羅、ミウラ1号、村民・市民参加者12名
- 一般：500円、高校生以下：無料
- 曙月庵、旧北保育園園庭
- 43名

《ダン活枠外》

ワークショップ 10月16日（水）喬木第二小学校 1～6年生32名



スケジュール

長野県喬木村／曙月庵

	下見	
	4/22 (月)	4/23 (火)
9:00		移動
10:00		第二小打合せ
11:00		図書館、 体育館見学
12:00	飯田駅到着	↓
13:00	昼食	昼食
14:00	阿島傘伝承館 見学	打合せ
15:00	曙月庵説明	飯田駅送迎
16:00	曙月庵 お茶会体験	
17:00	旧北保育園 見学	
18:00	打合せ	
19:00	移動	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①			
8/17 (土)	8/18 (日)	8/19 (月)	8/20 (火)
	移動		移動
	打合せ		大島音頭練習
	昼食	移動	打合せ
飯田駅到着	準備	昼食	昼食
昼食	クリエイション①	テクニカル 打合せ	
打合せ	↓	↓	
WS 準備			飯田駅送迎
公募 WS	↓		
↓			
	移動	クリエイション②	
移動		↓	
		移動	

	実施期間②				
	10/16 (水)	10/17 (木)	10/18 (金)	10/19 (土)	10/20 (日)
9:00					練習
10:00					通し練習
11:00		移動	移動	移動	↓
12:00	天竜峡駅到着	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	ダン活枠外 WS	テクリハ	テクリハ	クリエイション ⑥	準備
14:00	↓	↓	↓	↓	公演
15:00	↓	↓	↓	↓	
16:00	移動			ゲネプロ	交流会
17:00				↓	振り返り
18:00	クリエイション ③	クリエイション ④	クリエイション ⑤		↓
19:00	↓	↓	↓	移動	飯田送迎
20:00	↓	↓	↓		
21:00	移動	移動	移動		
22:00					

公募ワークショップ

これまで喬木村ではダンスや芸術のワークショップを行った経験が少なく、村主催の芸術祭はここ数年展示がメインで行われていました。私が地域おこし協力隊として喬木村に着任してからは年に数回、公募型はもちろん小学校や児童クラブでコンテンポラリーダンスのワークショップを実施してきました。今回は一度の体験だけでなく公演出演者募集も兼ねた公募ワークショップを企画しました。チラシ配布は村内だけでなく、近隣の地域の施設、文化会館にお願いしましたが思うように集まらず、今回初めて新聞折り込みやネットニュースに掲載をお願いしました。その結果、ワークショップには小学生や個人的に声をかけた方、ネットニュースを見た方から申込がありました。

ワークショップでは、ミウラ1号さんの生演奏で行われ、会場に入って来た参加者や保護者はみんな驚いて、「贅沢だね！」という声が多く、公募チラシにもミュージシャンの出演について一言付けば良かったなと思いました。内容はウォームアップ後、初対面の方が多いので参加者の顔が見渡せるように円になりリズムに合わせて名前を言っていく、歩いて目が合ったらハイタッチをするなど、少しでもコミュニケーションが取れるような内容から始まりました。歩いてハイタッチ、部屋の好きな場所でポーズをするなど室内全体を使う動きになって行きました。3人組でポーズをつなげていく動きを行い、途中でミウラ1号さんの楽器紹介がありました。どの楽器も初めて見るものが多く、どんな音になるのか、どこの国の楽器なのか参加者は興味深々で話を聞いているのが印象的でした。その後、個々で球体をイメージした動きや、チームに分かれてのポーズしり取りなどを行い、クールダウンをしてワークショップは終了しました。ワークショップ後、公演参加が可能か参加者に聞くと二人が参加してくださることになり出演者が増えたことが嬉しく思いました。



クリエーションの様子

●出演者顔合わせ

当初、出演希望者が1名しかおらず、上司と話し私も出演することとなった。またアーティストとの事前やり取りで、公募ワークショップに参加してくれた方にも声をかけ女性2名の参加が可能となった。

公募ワークショップの翌日からクリエーションが始まった。

●クリエーション開始①畳だからできる動き

今回の参加者は、ジャンルは違えどダンス経験者が多く集まった。公演会場が、茶室がある2階建ての日本家屋のため、練習は第一公民館にある畳の部屋で行うこととなった。普段ダンス練習と言えばリノリウムやフローリングで練習しているため、畳で踊ることはほとんどない。畳だからこそできる動きや、畳の縁を使った動き、畳での座り方など畳だからこそできる動きを見つけていった。

●クリエーション②地域や個々のやらなくなったこと

前半のリハーサルが無事終わり、次回のリハーサルに向けて康本さんから出演者に問いかけがあった。今回の会場の曙月庵、旧北保育園園庭どちらも村に昔からあるが現在は使われなくなってしまった場所、また村にある大島地区で以前踊っていた「大島音頭」を作品内で使用するなど、「昔はやっていたけど、今はやらなくなってしまったこと」をそれぞれ書き出すことになった。

●クリエーション③ 10月再開

10月16日から後半のリハーサル開始。2ヶ月ぶりの再会を喜んでいる雰囲気が始まった。しかし4日後には公演が控えている現実、どのように作品ができていくのか、夏のリハーサルの動きがどう使われていくのかまだわからない状態で始まった。

●クリエーション④シーン作り、驚きの展開

夏に康本さんからのお題で、出演者それぞれがやらなくなった事を書き出し、なんとその書き出した文を本人が読むことに！そして朗読以外のメンバーは其中で踊るという驚きの展開。出演者皆さんの対応能力にこれまた驚いた。



●クリエーション⑤曙月庵でできること

公演会場の曙月庵では主に2つの部屋を利用して作品を創作した。しかしその部屋は一階と二階で離れており、お互いの様子もわからない場所に位置する。その中で移動もあり、村民参加型公演としてはとてもレベルが高いことを行っている。また客席も固定席の他に立ち見席、栈敷席を設け、自分が見たい部屋を動いて見られるようにした。

●クリエーション⑥児童クラブの子ども参加

今回の出演では、児童の募集もかけていたがなかなか集まらず、康本さんと相談し、児童クラブ内で募集をすることになった。練習日も減らし、児童クラブ利用時間内でリハーサルができるようにした。その結果8名の申込みがあった。練習時も児童達はいつも楽しそうで、映像を見てそれぞれが意見を出し、工夫して動きを見つける姿がとても良かった。

●クリエーション⑦衣装合わせ

クリエーションもどんどん進んでいき、シーンも見え始めたころ、衣装合わせを行った。こちらで用意できるものに限りがあり、種類も少ない中で康本さんに選んで頂いた。ブラウスは各自持ち寄ったものを交換し、「この服どう?」「かわいい!」など出演者が女子だけということもあり、さながら女子会のように楽しい衣装合わせとなった。

●ゲネ

本番前日、公開ゲネプロを行った。出演児童、保護者や関係者に見て頂けるようにした。本番通りということで出演者にも緊張が見られたが、始まってしまえば出演者は堂々と表現していた。旧北保育園園庭のシーンは雨により、急遽第一公民館の大広間で行った。そこでは大島音頭と子どもシーンの練習を行った。

●公演前

前日の雨はあがり、晴れて過ごしやすい公演日和となった。午前中は確認も含め仮通しを行い、本番に向けて最終確認を行った。また隣接する老人ホームの利用者さんも窓越しに見ており、本番前の程よい緊張感で過ごすことができた。



公演

『 面々（メンメン）とメモリー 』



まず喬木村には文化会館がなく、客席・照明が仕込める立派な舞台ホールはありません。そこで村の文化財でもある曙月庵を使用したダンス公演ができないかという思いから始まりました。

曙月庵は茶室として嘉永元年（1848年）に旗本知久氏十代頼匡が造営し、茶室としては類い希な二階建てであり、当初の位置に残り明治以降の改造が少ない等、貴重な建物ですが利用頻度は少なく村内に住んでいても入ったことが無い人も多くなりました。また、隣には旧北保育園があり、村内の保育園統合により使用されなくなった園庭も会場として利用したいことをアーティストにお伝えしました。どちらも時代は違えど沢山の人が利用してきた場所、しかし、その声や匂いも今は感じられなくなった状況です。また村には大島地区という山間部で踊られていた盆踊りがあり、せっかくなら保育園の園庭で踊ろうとなりました。そこで、大島音頭を踊れる方を探し、8月のリハーサル時に関係者向けに指導してもらいました。その後大島区長や住民の方に公演の説明に行ったところ、公演当日にも大島地区の方が見に来て下さり、園庭のシーンでは一緒に大島音頭を踊ってくださいました。その中で「この手はこうだった」など踊りながら動きを思い出し、昔の懐かしい記憶がよみがえっているようでした。

曙月庵では、室内で演者がパフォーマンスをし、お客様は庭から作品を鑑賞してもらいました。3つの部屋から同時進行でパフォーマンスをするシーンもあったのですが、構造上固定席を作っても全部のシーンを見渡せる席は少ないので、あえて席を置かず立ち見で見る場所や子ども用に栈敷を設けました。開演のアナウンスでも移動して見て良いことや、後半は旧北保育園に移動することなどをお伝えしました。その結果、特に子どもは移動して見ることや、栈敷で自由に見ることが良かったようで最後まで飽きずに見ることができたようです。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ これまで観劇したことのない世界観の公演で、あっという間に引き込まれました。
- ・ 皆さん素敵でした。
- ・ 踊られる機会が少なくなってしまった大島おどりが復活され、感慨深かった方もいたのではないかと思います、私もじんとしました。
- ・ 曙月庵の最後の盛り上がりが音響とダンスが融合しているような感じで良かったです。

●この事業への応募動機

昨年度、Aプログラムを実施し村内の小学校や中学校へアウトリーチを行った。今回のBプログラムは市民参加型公演ということで、これまでコンテンポラリーダンスを体験してきたことが、村民参加型公演としてより多くの方に知ってもらえるのではないかと、また、舞台ホールが無い村でも本格的なダンス公演ができるのではないかとと思い応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

本事業ではまず、公演をどこで行うかというところから始まった。村内にある施設を使用するという事でいくつか候補があがった。お寺や神社、旧保育園、体育館などと考えたが、喬木村の文化財で今後多くの方にその存在を知ってもらい、利用してもらいたいという事から曙月庵に決まった。また、村民の方の「保育園が統合し、子どもの声が聞こえなくなり寂しい」という声を聞き曙月庵近くの旧北保育園園庭も使用することにした。

●企画実施にあたり苦労した点

まず、公演場所が曙月庵と旧北保育園園庭ということで公演を目的とした施設ではないことから、予算の関係で機材やスタッフで何が必要で、必要でないかをアーティストと相談した。また、ダンス公演自体行うのは村としても初めてであり、スタッフの確保や会場整理、駐車場の確保など公演までの流れの共有などを当日までに部署内で行った。

公演に向けたクリエイションでは、出演者に連日の参加が求められるものであった。連日の参加が必要となるとハードルが上がるのか、参加を躊躇する傾向があった。また、学生は親の送迎が必須となる交通事情も影響し、クリエイションの進め方を見直す必要も度々あり苦労した。

●事業の成果と課題

今回の事業では、これまでに使用頻度が少なく使い方が変わってしまった場所などを活用した。曙月庵には村外の方はもちろん、村民でさえ入った事が無かったという声があり、「一度入ってみたかった、入れて良かった。」また旧北保育園の隣にある福祉施設の方から「音楽が聞こえたり、ダンスを見ることができて利用者さんが喜んでいて。またやってほしい。」保護者からは「子どもたちの表情がよかった、楽しそうだった。」と声を頂けた。また公演広告として、新聞に記事を載せてもらい、公演日役場には「当日券はありますか？」など問い合わせがあった。初めてのコンテンポラリーダンス公演だったが、村民だけでなく村外からも見に来てくれる方も多かった。何より、大島地区の方が今は踊られていない盆踊りを懐かしみ、共に踊ってくれたことが嬉しく感じた。

●今後の事業展開や展望

公演会場となった曙月庵は、一定の利用は継続してあるものの利用者層の固定化や利用を促す方策に乏しいことなど課題はあった。しかし、今回のダン活の実施により、曙月庵が文化芸術の表現と鑑賞できる場であることを示すことができたので、さらに活用の幅を広げていきたい。

また、旧北保育園で踊った大島音頭は大島地区の方から協力を得る事により実現したもので、ダンスを通じて文化芸術の輪を広げることができた事例である。このような輪を広げることにより意欲があり共感してくれる人たちを今後も何らかの形でサポートしていきたい。

村でのダンス事業の継続等、残された課題はあるものの、上記の成果の検証を今後の村の文化芸術活動の活性化や文化観光の魅力向上に積極的に応用していきたい。

長野県下伊那郡喬木村は天竜川の東側、現在工事中のリニア中央新幹線の長野県駅の間近に位置する。現時点では東京からの場合、新宿から高速バスを利用、もしくは東海道新幹線の豊橋駅経由で天竜川沿いを走る特急伊那路に乗るかの2択。それぞれ乗り継ぎも合わせると5時間以上かかってしまうが、南アルプス麓の自然豊かな場所だ。

喬木村でのダン活は担当者の吉川さんが地域おこし協力隊としてこの村におりたったところから始まる。吉川さんはダンサーとしても活動されており、東野祥子さん（現・ダン活支援登録アーティスト）のダン活の際、各地でアシスタントや出演者として同行した経験から R5 年度に申請され、今年度が2年目である。

村にはホール的な空間はなく、会場として候補にあがったのが 170 年以上前に建てられた「曙月庵（しよげつあん）」という2階建ての茶屋。歴史的にも貴重な魅力溢れる場所で、アーティスト魂をくすぐるサイトスペシフィックな空間だ。一方で、どこをステージとするか、客席を外にする場合、雨天時はどうするか、音響等機材の設置位置、など課題が山積みな場所で難易度が高い。しかしながらダン活 B プロだからこそ実現できる、この特別な条件にチャレンジすることになった。

出演参加者の申し込みに関しては、初日の公募ワークショップ開催直前までは1名のみ。その心配をよそに、内容に興味を持ってくださった公募ワークショップ参加者からダンス経験のある2名と担当の吉川さんが加わることになり、この4名と康本さん、風景音楽家のミウラ 1 号さん、出演者兼アシスタントの中西星羅さん、というメンバーで創作を開始した。

2階部分も含めた合計3部屋と渡り廊下をステージに見立て、その全体像が望める庭側を客席にすることが決まる。また、作品の後半は曙月庵の隣にある数年前まで保育園だった園庭へ移動して地域の子どもたちにも参加してもらい、喬木村大島地区の「大島音頭」を踊るシーンがプラスされた。保育園が別場所に移ってしまった後、園庭から聞こえていた賑やかな声が無くなり寂しくなってしまった、というこのエリアの方々からの意見を元に、吉川さんから作品の要素としてぜひ入れてほしいと希望があって組み込まれたのが経緯の発端である。村ではほぼ唯一大島音頭を踊れる方から吉川さんが習った後、子どもたちへの踊りの指導は、彼女が協力隊の仕事として関わっている学童保育で行い、本番に備えることになった。

本番当日。参加者たちのエピソードを元に創られたそれぞれの個性が引き出された見せ場のシーンと、ミウラさんの奏でる音楽、中西さんの類稀なパフォーマンスと歌、そして康本さんらしい魅惑的な演出と振付は、前日のリハーサルが雨模様だったのが嘘のように晴れ渡った秋空の元で観客たちを心から楽しませた。ミウラさんのラップの音を先導に後半の旧・保育園の園庭へ移動した後は、観客の大人たちも積極的に大島音頭の踊りの輪に参加してくださり、大団円を迎えたのだった。

●課題とこれからに向けて

地域おこし協力隊は3年で任期満了となるが、吉川さんはそのまま居住し、2025 年4月からは喬木村と隣の豊丘村の小学校で体育の講師として活動するとのこと。喬木村としてのダン活継続（3年目の実施やダン活支援など）には課題も多いようだが、ダンスや文化の種を育てていく人が住み続けてくれることは、この地域の人々にとってこんなに幸せなことではない。長野県はアーツカウンシルもあるので、工夫をこらしながら、場所をつくったり組織を形成するというだけでなくとどまらない、喬木村らしいダンスや文化の拠点が育っていくことを期待したい。

実施団体	特定非営利活動法人ヨロシ C
実施ホール	与論町砂美地来館
実施期間	令和7年1月17日（金）～1月19日（日） 令和7年2月19日（水）～2月24日（月）
アーティスト等	アーティスト：長与江里奈 クリエイションのためのアシスタント（共演者）：北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等：森規幸
コーディネーター	黒田裕子

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 1月17日（金）19：00～21：00、4歳児以上、無料、38名、与論町砂美地来館アリーナ

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■『山猫団あらわる！2 踊る島民編！』

■2月24日（月） 18：00 開演（17：30 開場）

■長与江里奈、北園優、鈴木綾香、町民ダンサー（ワークショップ参加者から）28名

■一般：¥1,000、高校生以下：¥500、未就学児：無料 ※当日は¥300 増し

■ 与論町砂美地来館

■ 289 名

この日だけのスペシャルな創作ダンス公演

踊る島民編

やま ねこ たん

山猫団

あろわる! 2

2025. 2. 24 Mon
Open 17:30 / Start 18:00

砂美地来館

主催：NPO法人ヨロシC（与論町公共施設指定管理者）
共催：一般財団法人地域創造 後援：与論町教育委員会

チケット情報

一般	1,000円
小中高生	500円
未就学児	無料

当日は一般・小中高生とも300円
※前売りチケットは2/14（金）より。
B&Gボール席位にて販売

NPO法人ヨロシC
090-1514-5023 090-1514-5028

山猫団が創り上げるダンス公演！

30名を超える与謝島民と

2022年 町内小中学校と高校へのフットリサーチ（ご招待）を実施し、各校で研修を博す。 2023年 サウナスのダンス公演を開催。地元で行い、会場内外観客の心をつかみ大成功をおさる。 2025年 この日のために生まれた0歳〜40代の若衆と山猫団にならう希望!!	 ※詳細情報はこちら！	動画はサーカス・今更ばいいわー? と、 「山猫団」にあらわれ!  12.09 舞踊祭典 山猫団 ! 新築完成の山猫ガスター
---	---	---

男役
音楽
舞台

山猫団

2015年3月結成。ダンス、唱歌、短編劇、漫才、お笑い、朗読劇、音楽、舞台美術、衣装製作、茶屋敷から商店街まで幅広い活動。ユースター、鳥居も恵にも参加経験あり。サウスド・ジャズ、音楽、演藝系をもつて芸術教育、「山猫団」に加入してからは、企画を作り出す。ダンス、音楽、美術の専業を生かしながらワークショップ開催など。これまで日本各地へライブやイベント、演出、大学、病院訪問等様々な活動を行うアーティストです。これからの時代、ではなにか、果たしたいもの。

長与 江里菜
(そっち)

北園 優
(まざるちゃん)

鈴木 晴香
(あやかっといー)





物に上ぐると酒席でも飲いていた大好きだからと続けできた。ダンス仲間から編入で選んで来てくれたこと。沢山の人が集まることは力があふれる。それを感じることには体を使うのが楽しく思っている。山猫さんたちの大きな力のおかげで忙しかっていても、疲れたら好きにして休む時間分は確保。もっと自分たちの個性に向き合える機会にもなります。ぜひ一緒に遊ぼう。
そして良かったら一緒に踊りましょう! 夏川 悠希

踊る島民たち

大西 杏璃	林 このは	田中 怜
加藤 麻歩	市村 咲月	堂詔 義伸
喜村 喬子	市村 早苗	長尾 笑咲
杉本 帆南	市村 和香	中村 心音
帖地 啓仁	笠門 木芽	磯川 愛心
帖地 博嗣	小高 那和	ヨロシンS職員
土持 陽菜乃	田中 柚希	...and more!

スケジュール

鹿児島県与論町／与論町砂美地来館

	下見	
	11/11 (月)	11/12 (火)
9:00		防災センター下見
10:00		広報動画撮影
11:00		↓
12:00		↓
13:00		昼食
14:00	与論着	与論発
15:00	チェックイン	
16:00	砂美地来館 下見	
17:00	↓	
18:00	打合せ	
19:00	交流会	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

実施期間①		
1/17 (金)	1/18 (土)	1/19 (日)
	打合せ	広報写真撮影
	↓	↓
	↓	↓
	昼食	昼食
与論着	会場準備	与論発
チェックイン	クリエーション①	
打合せ	↓	
↓	↓	
WS 準備		
公募 WS	↓	
↓	↓	
退館	退館	

	実施期間②					
	2/19 (水)	2/20 (木)	2/21 (金)	2/22 (土)	2/23 (日)	2/24 (月)
9:00		客席セッティング	テクニカル 打合せ			
10:00		↓	↓	シーンづくり	手直し	
11:00		↓	↓	↓	↓	
12:00		↓	↓	↓	昼食	
13:00		昼食	昼食	昼食	クリエーション⑥	修正リハ
14:00	与論着	仕込み	役場訪問		↓	↓
15:00	チェックイン	↓	テクリハ	クリエーション⑤	↓	↓
16:00	打合せ	↓	↓	↓	↓	公演準備
17:00	↓	↓	↓	↓	↓	開場
18:00	会場準備	↓	↓	↓	ゲネプロ	公演
19:00	クリエーション②	クリエーション③	クリエーション④	↓	↓	↓
20:00				↓	ダメ出し	参加者振り返り
21:00	退館	退館	退館	退館	退館	バラシ
22:00						退館

公募ワークショップ

ダン活事業の集大成として多くの町民に参加してもらい、且つ公演の舞台に立ってもらうことを念頭に企画をたてた。昨年度のCプロ終了時に多数の老若男女から「来年は是非一緒に踊ってみたい！」との声があったので、特に対象年齢などは設けずに募集をかけた。上記の言葉もあり参加者を集めることに関しては楽観していたのだが、いざ蓋を開けてみると様々な理由から期待していた方々から断りの連絡があり、結局昨年度同様に個別に声をかけての集客となった。また公募ワークショップ参加と公演出演者募集をかねてのチラシだったので、内容の把握が多少難しかったこともあった。

それでもワークショップ当日は30名を超える参加者が集まり和やかな雰囲気での始まった。今回のBプロで長与さん率いる山猫団の来島は3年連続となり、特に1年目Aプロでアウトリーチを行った小学生たちの間では知られた存在であり、大人も含めほとんどの参加者に認知されていた。

過去2年間のワークショップ同様に山猫団の自己紹介パフォーマンスからスタートし、北園さんのピアノに合わせての即興的ダンスへ。経験者は慣れたものでスムーズな動きを披露していた。初体験の参加者も徐々に慣れてきていろいろな人とペアを組んだり複数で動いたり複雑なダンスにもついてこられるようになった。

今回のワークショップは参加型ダンス公演を前提としていることもあり、終盤は本公演で取り入れるダンスの一部を全員で踊ってみることにトライした。アップテンポでノリが良く老若男女、誰でも踊れることもあり参加者全員に好評で、あっという間にみんなで合わせることができた。長与さんも「これなら公演に来た観客も一緒に踊れる！」とおっしゃっていたのが印象的であった。

終了後、公演参加者の再確認をしたのだが、ワークショップのみ参加予定だった子どもが「公演に出たい！」と申し出たり、「ちょっぴりコース」に参加予定の方が「がっつりコース」に変更したりとワークショップを通して多くの町民の意識、やる気に変化が見られた。今後もこういったワークショップを継続していけば、町内にダンスの裾野が広がっていくのを確信することができた。



クリエーションの様子

●参加者を3チームに分類

できるだけ多くの方に参加してもらう為に、参加者の技量、熱意、日程などを考慮して3チームに分けてクリエーションを実施した。「がっつりチーム」は全編出演でクリエーションも全日程参加とかなりハードな内容、「ちょっぴりチーム」は2シーンほど出演でクリエーションは公演前日のみ、「そこそこチーム」はその中間という位置づけにした。

●クリエーション初日

この日は「がっつりチーム」のみが参加。公演終盤の見どころとなる「星々」というシーンをメインに稽古を行った。どのチームも思っていた以上に大人が集まらず、また長与さんからの強い要望もあったためにヨロンSC職員2名も稽古に参加し、「星々」を含め数シーンへの出演が決まった。

●自主稽古

次回のクリエーションは1か月後だが、「星々」はかなり難易度が高く小学生もいるので、週1回×2時間の自主稽古をすることにした。回数を重ねるごとに出演者のダンスが揃ってきたが、スピードの強弱や細かい箇所など疑問点が出てきたので、稽古動画を長与さんに送りアドバイスを請うこともあった。

●クリエーション2～3回目（がっつりチームのみ）

本番5日前に長与さん率いる山猫団が再び来島し、この日からクリエーション再開となった。自主稽古の成果を見てもらい細かい修正をしつつ、新たなシーンをどうするかなどの話し合いを行った。

翌日にはテクニカルが入ってきて、客席セッティング～音響照明機材搬入～仕込みを実施し、同時進行でのクリエーションとなった。長与さんの長いダンス経験の中でもこれほど子どもたちが多い参加型公演は稀なため、苦心しながら出演者のレベルに合わせて様々なシーンを用意してくださった。アーティスト指導の下出演者もみんな真剣に取り組み、試行錯誤の後にだんだんとシーンが完成していった。



●クリエーション4～5回目(がっつり&そこそこチーム)

この日から人数が増え新たなシーンづくりが行われた。「そこそこチーム」はほぼ全員が小学生のために、「がっつりチーム」との熱量やレベルの差に最初は戸惑いも見られたが、ワークショップ時に踊ったアップテンポなダンスや、長与さんと鈴木さんをボスに2チームが対戦するダンスバトルのシーンなど、子どもたちがノリノリで稽古する場面も多く、6時間におよぶクリエーションもあったという間に過ぎていった。

長時間の稽古で集中力が続かないので、給水や軽食タイムなど休憩をはさんだが、その際に山猫団の面々が参加者一人一人に声をかけたり、保護者の方々と和気あいあいと会話したりと会場は常に明るく楽しい雰囲気であった。

●クリエーション6回目

公演前日は「ちよっぴりチーム」も加わり全出演者が集まっの稽古となった。この日もゲネプロまで7時間を超える長丁場。子どもたちから大人まで体力、精神面ともに最後までもつの心配した。この日は南国の与論でも経験したことないくらいの寒さで今冬一番の最低気温を記録していた。さらに体育館に空調がないため会場がとても寒く、最初は全員の動きが鈍かった。

しかしながら本番を明日に控えていることもあり、出演者がだんだん熱を帯びてきて、大人子ども関係なく互いに修正点を指摘したり、アドバイスをしたりする場面がみられた。

通し稽古の際はシーンのつなぎ部分の練習や長与さんから舞台の捌け方と入り方、出番待ち時の舞台袖での姿勢などを指導していただいた。

●ゲネプロ

この日の最後おこなったゲネプロでは疲労もあったためか各チーム、各人によってダンスの習熟度やモチベーションに差があり、多くのシーンで注意される出演者が散見された。

振り返りで長与さんが「あなたたちは自分が楽しむために踊るのではない。お金を払って観に来てくれるお客さんを楽しませ、そして感動を与えるために踊るのです！」との言葉を出演者に説いていた。日頃から学校や町内行事の舞台に立つ経験のある人たちも、有料公演は初めてで多くの人の心に響いたに違いない。



公演

『山猫団、あらわる！ 2 踊る島民編！』



昨年と同じく山猫団の公演を体育館で行う。ステージは狭すぎて使えないので前回はアリーナを舞台にしたが、今回はアーティスト3名に加え島民数十名と一緒に舞台上がることになる。下見時に様々なアイデアが出て、長与さんが持ち帰りテクニカルを含め検討したが結論は出ず、ワークショップ前後に打ち合わせを行った。最終的には広いアリーナの半分为舞台とし、ピアノはステージから降り客席の前へ、体育館裏手にある木々をライトアップして背景に使うために、通常のステージを背に客席をセッティングした。

予想以上に大人の出演者が少なく7割以上が小学生以下の子どもたちだったので、ある程度休息が取れるように12のシーンを組み合わせての作品となった。それだけに作品としての一貫性は乏しいが、ダンスや表現がバラエティーに富んでおり、老若男女問わず楽しめて観客を飽きさせない内容となった。

音楽に関しても同様で北園さんの生演奏ピアノはもちろん、インドネシアの民俗音楽ガムランを取り入れたり、ひと昔前の歌謡曲を使ったり、ハイライトシーンではバグパイプが永遠に響いていたりと多種多様であった。

山猫団は3年連続の来島となり島内での認知度も高いため、公演タイトルには昨年度と同じ「山猫団あらわる」を取り入れた。彼らと島民がコラボした作品と一目でわかるよう、チラシとポスターは各々の写真をあしらったものをデザインした。チラシ裏面には3年間の軌跡と昨年度の公演ポスターを掲載した。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ 普段見ることが出来ない音や光の演出がとても良かったです。娘も最後珍しく照れる様子もなく1人で舞台に飛び出して行きました。「踊りたい！」と純粋に魅力を感じたのだなと思いました。
- ・ コンテンポラリーダンスの真髄、表現とは？を見せてもらって感動しました！
- ・ 終盤の大勢で自由に踊り続け、ステージがだんだん暗くなっていくまでのあの長い梓は、時間が長いからか余計に感動しました。動き続けるというハードさの中にも観客に感じる時間を与えていて印象的でした。みんなで明るい曲に合わせて踊っていたのも、ただただストレートに楽しさで溢れていてとても良かったです。
- ・ プロダンサーと島んちゅのコラボという機会、なんて素敵なんだろう…と感動で泣きそうになりました。プロの照明や音響も島の中高生にぜひ体験させてあげたいです。
- ・ 小学校教師です。公演の次の日、教室では昨日のダンスの話や朝の校内放送に合わせて即興で踊る姿が見られました。「のらねこ軍団どうする？」などなど話しており、子どもたちの心に大きな体験として残ったようです。出演している生徒やわが子からも日々練習は大変だけど楽しいと聞きました。表現する心の高まりを感じることができました。

●この事業への応募動機

スポーツ振興が強い与論町において体育施設の充実ぶりは目を見張るものがあるが、正直なところ文化的な施設は充実しているとはいえない。文化事業の中心地であった中央公民館も老朽化のため今年度末での閉鎖が決定し、益々文化芸術事業の衰退が危惧されるといった状況である。

そこで本事業をきっかけにダンスを町民に広め、それを起爆剤に文化的催物を盛り上げて町を活性化させたい。町全体において子どもから大人までスポーツ人口だけでなく文化芸術人口をもっと増やしていきたい。このような想いで応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

ダン活事業の集大成として出演者または観客として多くの町民に来館してもらいたい。そして当館が町内随一の社会教育施設であることを再認識してもらい、その重要性に改めて気づいてもらいたい。また子どもや若年層に多く参加してもらい、アーティストとの共同作業（創作ダンス）を通して心に残る体験をしてもらいたい。

上記の点をふまえ、昨年に続き今回も出演者と観客ともども老若男女が楽しめるバラエティーに富んだ作品作りを心掛けた。3年連続で来ていただいた長与さんは与論町民のニーズを理解しており、我々や出演者側から異見が出ることはなく事業はスムーズに進んだ。

●企画実施にあたり苦労した点

「次は山猫団と踊ってみたい」「来年は必ず参加します」といった前年度公演後の観客の反応が良かったこともあり、幅広い層から出演者募集をしたのだが、特に大人の出演者を集めるのに苦労した。出演のハードルを下げるために、レベルや日程を考慮して3チームに分けたのだが「がつつりチーム」（ほぼ全編出演）の日程がかなりタイトで内容もハードだったので、送迎をする出演者の保護者を含めてみんな大変だったと感じた。

会場設営やテクニカルに関しては昨年度と全く同じメンバーで行ったため、勝手がわかっておりチームワークも抜群であったが、アリーナを舞台にした為に客席を従来とは真逆に設置したり、当館既存の音響照明は一切使わず全て持ち込み器材を入れて一からセッティングするなど、仕込みの部分でかなりのマンパワーを要した。

●事業の成果と課題

集客面では開演まで不安はあったが、当日券が50枚以上売れ結果的には昨年度とほぼ同数の300名弱に来場いただけた。出演者に子どもが多いため観客もファミリー層が多数であったが、孫を観に来た祖父母などもおり未就学児から80歳代まで幅広い層に観てもらえた。

出演者からは「本格的な舞台照明のもとで大勢の観客の前で堂々と踊れたことや大喝采をもらったことは一生の宝になります」との感想があり、「今後も何らかの形でダンスを続けたい」という方が何名もいた。

公演の最後にアンコールで観客を巻き込み100人以上が舞台上で踊りまくる様子は、長与さんと我々が1年前にBプロの構想を描いていた絵そのもので、アーティストとスタッフ全員の成果だった。

●今後の事業展開や展望

公演後に今回の出演者を中心にダンスの自主事業団体が結成された。子どもたちが山猫団に感化されて「のらねこ軍団」と命名した。早くも町内行事に参加が決まっており、少しずつダンスが町民に根付いてきたことが実感できた。今後は彼らをサポートしつつ、新たな継続への道を探っていこうと思う。

●この地域のダン活の特徴

スポーツを主事業に据える NPO 法人ヨロン SC が主催するダン活は「公共ホール」ではなく総合体育館「砂美地来館」を会場として3年目を迎えた。アーティストは3年連続で長与江里奈さんと率いる山猫団。主催者とアーティストはすっかり意気投合しており、特に昨年度に開催した山猫団による「サーカス」公演の盛況は島民の記憶にも鮮明で、三たびの来島への期待と知名度は上がっている。そのような地ならしができた上での今回の島民参加型 B プログラムである。

一方、砂美地来館は音響照明機材など一般的な公共ホールの条件や設備を備えていないため、下見打ち合わせではまずどこに舞台やピアノを構えるかを検討するところから始まり、客席の設置場所や照明プランを想定しながらのブレインストーミングとなった。当たり前を疑い、与えられた条件や限られた環境の中で「やれるように工夫する」という山猫団の真情の発揮のしどころだ。ヨロン SC の杉本さんの発案により、通常の「舞台」は使用せず舞台を背にしてアリーナの反対側を舞台エリアとし、ピアノも舞台上からアリーナに人力で降ろすことになり砂美地来館を普段とは異なる空間に設らえることになった。設営やバラシでの人員不足は職責を超えてその場にいる全員が身体を動かして乗り切り、予算の都合で持ち込めない舞台美術の穴を埋めるべく照明デザインが空間と島民出演者を表情豊かに彩り、体育館に響き渡るピアノと歌の生演奏や音響効果で遜色のないダンス作品を島民と共に見事に創り上げた。

約 30 名の島民出演者は練習日数によって3つのチームに分かれ、長与さんは一人一人の特性を見極め振付けと演出指導をこなし、叱咤激励しながら皆の士気高揚を図り、出演者も日に日に集中力が高まっていった。今回は子どもの出演者が多く、保護者も熱心に応援している。アーティストが不在の期間は週に一度の自主練習で結束を固め、少しずつ上達していった。練習日に予定通り全員が揃わない事態にも長与さんの柔軟な対応力、作品構成力、山猫団のエンターテインメント力、懐の深さで何事もなかったかのようにことが進む。

本番をやり切り、「ダンス作品としての質と、楽しさの追求のバランスが取れた。3年連続でやった成果が出た」とは長与さんの深い実感を伴った言である。3年目の集大成として気合を入れて掲げた目標は「史上最大参加者数 100 名！」「観客数史上最大 400 名！」であった。観客数は約 300 名と及ばなかったものの会場はほぼ満席、アンコールでは観客も次々にステージに駆け寄り 100 名ほどが圧巻の総踊り。感動的なシーンが出現した。アーティスト、島民出演者、観客、スタッフが同じ目線で、日常と非日常の境目が緩やかに繋がった瞬間だった。この3年間で文化事業の一つの「与論スタイル」が見えたのではなかろうか。

●課題とこれからに向けて

与論島と山猫団の蜜月のような3年間が過ぎた。文化芸術にまつわる3つの側面「体験すること」「観ること」「創ること」の機会を一通り島民に提供したことになるが、今後島にとって必要なこと、望むことは何なのか。それを実現するための体制、設備、予算をどこまで整備するのか。公演に足を運んでくださった町長をはじめとする行政の理解と協力も不可欠だ。また、今回も本番直前までチケットの出足が遅く、担当者や島民出演者が精力的に手売りで捌いていた。純粋に内容に興味を持って来場した観客はどれほどいたのか、冷静に見る必要もある。とはいえ公演後の満足度が高いことは幸いで、盛り上がった機運を逃したくない。島民出演者の中には育児と仕事の両立に悩む方、自分探し途上の若者、ダンサーを夢見る子どもなど何かを探し求める面々がいた。島の中の選択肢としてスポーツだけでなく文化事業が様々な思いを抱えた人たちの居場所としてその役割を果たすことができる。日常そのものが既に芸術的要素を孕んでいる島文化の環境下はアドバンテージであり、島内に限らず島外との交流も見据えた与論独自の文化芸術の夢を描けるのではないかと期待を込めて思う。

Cプログラム

(公演プログラム)

実施団体	公益財団法人市川市文化振興財団
実施ホール	市川市文化会館 小ホール
実施期間	令和6年12月12日（木）～12月15日（日）
アーティスト等	アーティスト：浅井信好 共演者：笠松泰洋 ※アフタートークのみ登壇（ダン活枠外）：石倉敏明、近藤洋太 テクニカルスタッフ等：福井孝子（照明）
コーディネーター	小岩秀太郎

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

令和6年12月14日（土）10:30～12:00、高校生以上、1,000円、15名、市川市文化会館 小ホール

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

- 浅井信好ダンス公演 宗左近『炎える母』
- 令和6年12月15日（日）14:00 開演（13:30 開場）
- 浅井信好、笠松泰洋 ※アフタートークのみ登壇（ダン活枠外）：石倉敏明、近藤洋太
- 一般 2,000 円、U25 1,000 円
- 市川市文化会館 小ホール
- 158 名

[illegible]

浅井信好 (旧姓石倉) 東京都練馬区出身



Profile
 1963年、東京に生まれる。明治大学経済学部経済学系に在籍。2001年、東京大学大学院経済学研究科に入学。2003年、東京大学大学院経済学研究科で経済学修士号を取得。2005年、東京大学大学院経済学研究科で経済学博士号を取得。2006年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2010年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2015年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2020年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2023年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。

笠松泰洋



Profile
 1963年、東京都生まれ。明治大学経済学部経済学系に在籍。2001年、東京大学大学院経済学研究科に入学。2003年、東京大学大学院経済学研究科で経済学修士号を取得。2005年、東京大学大学院経済学研究科で経済学博士号を取得。2006年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2010年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2015年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2020年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2023年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。

浅井信好 (旧姓石倉) 東京都練馬区出身



Profile
 1963年、東京に生まれる。明治大学経済学部経済学系に在籍。2001年、東京大学大学院経済学研究科に入学。2003年、東京大学大学院経済学研究科で経済学修士号を取得。2005年、東京大学大学院経済学研究科で経済学博士号を取得。2006年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2010年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2015年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2020年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2023年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。

笠松泰洋



Profile
 1963年、東京都生まれ。明治大学経済学部経済学系に在籍。2001年、東京大学大学院経済学研究科に入学。2003年、東京大学大学院経済学研究科で経済学修士号を取得。2005年、東京大学大学院経済学研究科で経済学博士号を取得。2006年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2010年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2015年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2020年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。2023年、東京大学大学院経済学研究科で経済学教授に就任。

スケジュール

千葉県市川市／市川市文化会館

	下見	
	7/16 (火)	7/17 (水)
9:00		移動
10:00		市川市文学 ミュージアム見学
11:00		↓
12:00	市川着・移動	移動・昼食
13:00	昼食	↓
14:00	テクニカル 打合せ	市川考古博物館・ 堀之内貝塚見学
15:00	↓	↓
16:00	公演・広報 打合せ	移動
17:00	移動	市川発
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/12 (木)	12/13 (金)	12/14 (土)	12/15 (日)
	仕込	入り	
集合・朝礼	入り・稽古	公募 WS	入り
搬入・仕込	↓	↓	アフタートーク 確認
↓	昼食	↓	↓
昼食	公募 WS 打合せ	舞台稽古	開場
稽古他	宗左近・蕊の会 打合せ	↓	公演
↓	↓	↓	↓
	ウォーミング アップ	休憩	振り返り
↓	場当たり	ゲネプロ	↓
調律	↓	↓	退館
↓	↓	↓	
退館	↓	退館	
	退館		

公募ワークショップ

公募ワークショップは、本公演への来場に繋がるイベントを目指しました。参加者が日頃取り組んでいる活動に生かされ、ダンスに対する心理的ハードルが下がる内容を希望し、ターゲットを①何らかの表現活動に関心があるもののダンスには目が向いていない方、②普段あまり来館されない学生等の若年層に設定しました。

都内のダンス公演や市民団体、市内バレエ教室・高校・大学等にチラシを配布した結果、早い段階で定員に達するお申込みを頂きました。参加者は市内で活動する団体の関係者、美術大学やモダンダンス部の学生等、幅広い活動分野・年代の方が集まりました。特に、ワークショップのタイトルに入っている「言葉」と「ダンス」の関係に関心を持って参加された方が多くいらっしゃいました。

ワークショップでは、講義を交えながら舞踏のメソッドを体験した後、本公演の題材である宗左近『炎える母』を用いたワークを行いました。講義の中で印象的だったのは、浅井さんが宗左近氏の言葉を「肉体的・身体性を持っている」と捉えられていることでした。頭の先から足までを宙体（＝空間の中の空白の場所）にして、宗氏の言葉を入れると自身の身体が変容することや、舞踏では言葉を採用する主観と、振付を作ろうとする客観のあわい（中動態）を目指していることが語られ、あやとりをイメージしたワーク等を挟み、それぞれ選んだ詩の一節を朗読した後、グループ毎にあやとりから中動態へと入るワークを発表していきました。

最後の振り返りでは、「今までにないものに出会えた」等、新たな発見があったという感想や、身体の心地良さを体感できたという声もありました。「定期的に開催してほしい」という希望も頂く等、大変好評でした。

ワークショップ終了後には本公演のチケットを購入される方が複数見受けられ、当初の本公演への来場に繋がりたいという目的を達成することができました。



公演

『浅井信好ダンス公演 宗左近『炎える母』』



本作品は、2020年に詩人・宗左近氏の故郷である北九州市で初演された作品をソロ・ピアノ演奏版に再構成し、宗氏の終の棲家である市川で再演いただきました。ピアニストには「市川讃歌」等、宗氏と共に市内・県内の多くの合唱曲を手掛けた三善晃氏の弟子である笠松泰洋さんを迎えた他、新たな取り組みとして、宗氏と親交があった詩人・文芸評論家の近藤洋太さん、縄文に傾倒し市川の史跡を愛した宗氏の生涯を踏まえ、人類学と現代芸術を結ぶ活動を行う秋田公立美術大学准教授の石倉敏明さんを交えたアフタートークを実施し、市民とダンスの距離が近づく内容となりました。公演前には宗氏の顕彰団体である「宗左近・蕊の会」の方との対談も実現し、市内の宗氏にゆかりのある方にもご来場いただくことができました。

公演の前半では、墓を表現したシーンや山海塾・天児牛大氏への追悼の念が込められた振付等が照明・音楽が作る静謐な空間で展開されました。振付の後半に採り入れられたトルコの旋回舞踊・スーフィーの動きは観客に特に強い印象を与えており、休憩中に真似をして踊るお子さんの姿がみられたり、アフタートークで質問が挙がったりしました。また、前日の公募ワークショップの内容が直結する振付であった為、参加者からはよく理解できたとの感想を頂きました。

他、開場中のホワイエには、創作過程を記録したアーティストノートや『炎える母』の書籍や資料、宗左近氏自身による『炎える母』の朗読映像を展示し、アフタートークと併せてダンスや宗氏の詩に馴染みの無いお客様も創作プロセスを多層的に理解できるようにしました。公演終了後は、涙ながらに感想を伝えてくださる方や、ホワイエに出られた浅井さんに感想を伝えるお客様が多数いらっしゃり、浅井さんが目指されていた対話が生まれる場となりました。

●来場者アンケートより（感想）

- ・螺旋の表現が強く、強く印象に残りました。音楽も一定の落ち着いた美しい音で 身体表現と合わせて生きる力を美しさを感じました。
- ・魂が揺さぶられるような演技に感動しました。ピアノも素晴らしかったです。
- ・とても素晴らしい公演でした。序盤は能のようで静かで観客にゆだねる感があり、後半は炎が揺らめいているようで美しかったです。アフタートークも面白かったです。
- ・作品についてトークショーを通じて作り手のお話が聞けてとても深くより芸術を自分の中に落とし込みました。素敵な時間でした。
- ・昨日のワークショップに参加し、動きなど解っておりましてので今日は良くわかりました。
- ・最後の回りきった背中が、苦悩し続けた宗左近そのものの様に見えて素晴らしかったと思う。
- ・炎が見えました。伝わり過ぎて心がつかなくなってしまいました。おなかが痛くなってしまいました。

●この事業への応募動機

ダン活には、①若年層の来場を促すこと、②他者との関係に悩みや困難を抱える方にアプローチすることを目的に応募しており、令和6年度は①を満たす内容を重視しました。

●事業のねらいと企画のポイント

市川市にゆかりのある詩人・宗左近の著作を題材にした『炎える母』を上演することで、市民にコンテンポラリーダンスを紹介し、身近に感じてもらうことを目標としました。また、公演後にアフタートークを実施することで、観客とダンスの距離を近づけたいと考えました。

市川市の歴史では文学をはじめとして明治以前と戦後が顧みられる機会が多いですが、紛争の絶えない昨今、時局を捉えて戦中を題材にした作品を上演することは重要であると考えました。心身を開放するといわれるダンスを通して宗氏の人類に対する眼差しに触れ、観客一人一人が新たな価値観に触れる機会になればと思いました。また、徒歩圏内に位置する市川市立中央図書館で、公演前後に「宗左近×コンテンポラリーダンス」と題した特集展示を組んでいただきました。宗氏の書籍に加え、コンテンポラリーダンス関連書籍やアフタートーク登壇者の著作を配架することで、文学に関心のある市民を取り込むと共に回遊性を高めることを目指しました。

●企画実施にあたり苦労した点

公演の直前期にチケットの販売数が伸びましたが、当初は集客の面で苦労する場面がありました。そこで、「関東の全てのコンテンポラリーダンス公演に折り込む」ことを目標にチラシを配布した他、市内の宗氏の顕彰団体のご協力や、コーディネーターの小岩さん、地域創造の永田さん、初演に関わられた方からご助言を頂き、広報先を県・市の文化団体やイベントへの広報や美術・ファッション・文学関連の文化施設・学校、Webメディアへも広げ、幅広い層にアプローチしました。結果として、市内の方を中心に県内の他地域・東京都からのお客様にご来場いただくことができました。

●事業の成果と課題

公演に対するお客様の評判が非常に良く、初めてコンテンポラリーダンス公演をご覧になった方にジャンル自体への関心を持っていただけたことが一番の成果であると考えます。また、アフタートーク・ホワイエ展示の実施や、インタビュー動画の公開、市川市 / 北九州市の文化施設・文化団体との連携等といった広報手段の拡大等、多くの方のご協力により複数の新たな取り組みを実現することができました。

一方で課題は、広報時の文言・素材が代わり映えしないものになってしまったことが挙げられます。様々な種類の映像・写真の活用やリアルタイムでの発信、浅井さん以外の出演者・登壇者へのインタビュー等、今後は宣伝用の素材をバラエティ豊かにすると共に、インプレッションが多い日時にSNSの投稿を行うようにスケジュールを組む等工夫していきたいと思います。また、本作の冒頭は暗転から始まりましたが、遅れ客の対応時に使用したペンライトの光が舞台上の出演者に気付かれるほどに目立ってしまったことも反省点です。最初の数分は客止めする等、事前のシミュレーションを欠かさないようにしたいと思います。

●今後の事業展開や展望

終演後の振り返りで、浅井さんが市川市民の文化度の高さを指摘してくださりました。令和7年度やそれ以降における「文学とダンス」のシリーズ化等、地域資源を生かしながら、“ほぼ東京”という恵まれた立地にある市川を「ここで上演される公演ならばぜひ行きたい」と思われる場所にしていきたいと思っています。

●この地域のダン活の特徴

市川市は都心からのアクセスもよく、事業振り返りでも口々に「ほぼ東京」と言及されたほどの好立地で、広域的な集客にはアドバンテージがある。市川市文化会館が開催する事業も多彩で、担当者は常に何本も並行で抱えている（良くも悪くも）。使用する文化団体や市民サークルなども多様・多世代で、ホールは賑わっている感がある。小ホールは舞台と客席の距離が近く、観客との一体感が得やすいとアーティストからも評価が高いこと、そして何よりも、小屋付きテクニカルのスタッフ層の厚さ、ホスピタリティ、経験値の高さが光っていた。開館当初から舞台スタッフを務めている方の経験と、「舞台は楽しいもの・夢を与えるもの」「自ら作り出せるもの」という、舞台づくりへの熱意と認識が全スタッフに共有されており、雰囲気が大変よかった。またそうしたスタッフの想いが、舞台を使用する市民・参加者が「舞台に出たい」という意識を高めているのだろう、このホールの舞台に立つことがステイタスであるという言葉も市民やスタッフから聞かれた。

本事業における浅井信好氏の『炎える母』では、本作品を印象付ける上で螺旋構造のモニュメントを舞台美術として使用する予定であったが、この美術作品の保存状態が悪く、直前になって使用できないことが判明した。こうした重大なアクシデントがあったとしても、当館のスタッフはうろたえることがなかったし、柔軟に対応し、本番を乗り切ることができた。また制作担当のお二人もホスピタリティが高く、公演に関連する映像企画やアフタートークなども充実し、創作環境が整っていると感じた。

もう一つの特徴は、市川市の文化成熟度の高さである。近現代、たくさんの作家や美術家などが住居を構え、市民たちもその文化を享受する機会に恵まれてきた。『炎える母』の原作者である宗左近もそうであり、彼を取り巻く市民やそこから波及した市民団体があるほど、文化人と市民の関係が近い。本事業においても、ワークショップおよび公演ならびにアフタートークに、宗左近の愛好者・団体の方も多数来場され、宗左近作品でこれまでなかった「ダンス」による解釈に、深い関心と感銘を受けたと、終演後に浅井氏に感想を述べるなど、ダンスや詩、現代音楽などの先進的な舞台表現にも前向きな反応を持つ市民が多い地域と考えられる。

さらに本公演を印象付けるエピソードとして、小学6年生の詩人・芳賀堇さんが、本作品に強く感銘を受け、詩『炎の涙』を創作、後に作文コンクールで受賞したり、公演後にホワイエで踊り回った子供達もいたように、市川市文化会館が、文化を発信し、なんらかの感情を人々に与え、影響を及ぼすかもしれないアクションを起こすことができたのではないだろうか。

●課題とこれからに向けて

浅井氏は、ダンサーであり、教育者であり、学生でもあり、経営者でもある。多忙であるからこそ、スケジュール・マネジメントに抜かりはなかった、とはいえ、体調管理や突発的な事象が、総崩れを起こす可能性もあることは、今回の舞台美術の管理の件やピアニストを入れたリメイクに至った一因でもあろう。このことは浅井氏だけの問題ではなく、アーティストへの要望や置かれる環境が社会的に成熟していないことに端を発しているのかもしれない。一方で、市川市文化会館の制作担当やテクニカルの層の厚さ、浅井氏が信頼を置く照明家や共演者を手配できたことで、浅井氏から「アーティストとして専念できた」という言葉が引き出されたのだろう。

ホールに関しては「ほぼ東京」の利点と文化度の高さを活かして、当館を創造と発信の拠点、「市川から発信する芸術文化」のモデル施設としてさらなる展開を期待する。小ホールを活用したダンスシリーズの展開や、若手表現者の発掘・育成の拠点としての発展可能性を秘めている。また、ダン活を通じて培った、学校・福祉施設・市民団体など、他分野との連携によって、市民文化のハブとして機能し得る、首都圏が誇る施設として活用されたい。

実施団体	一般社団法人天草市芸術文化協会
実施ホール	天草市民センター
実施期間	令和7年2月20日(木)～2月23日(日)
アーティスト等	アーティスト：康本雅子 共演者：小倉笑 テクニカルスタッフ等：塩見結莉耶
コーディネーター	中富勝裕

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

- ① 2月20日(木) 19:00～20:10、小学生以上、小学生：100円 / 中学生以上：500円、9名（小学生2名）、展示ホール

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

- 『子ら子ら』
- 2月23日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 康本雅子、小倉笑
- 一般1,500円、高校生以下500円、ファミリーチケット4,500円
- 天草市民センター ホール
- 54名



全席自由席

一般	1,500円
小学生以下	500円
ファミリーチケット	4,500円

※1枚で4席利用できます。

●未就学児入場可 ●部上着費無料
●経路サービスあり
●要事前申込 (WEBフォームから可) 申込はこちら
●前売券が完売の場合は当日券なし

チケット取扱い

- 天草市民センター
- 牛深総合センター
- 天草市立山崎公民館文化会館ボルト
- 山崎ミュージクスクール
- 水田楽器

11月22日 締め切り

ダンス体験ワークショップ参加者募集

身体を動かし
あなたの身体を
再発見！

- 2025年2月20日(木)18:30受付 19:00スタート(60分程度)
- 対象：小学生以上
- 定員：20名程度(先着順)
- 11月22日(金)受付開始
- 参加料：小学生100円 / 中学生以上500円

お申込みは電話、FAX、Eメール、WEBフォームでどうぞ

お問い合わせ：天草市民センター 電話：0969-22-4125
〒863-0033 熊本県天草市東町3番地
center@amakusa-cc.com

ワークショップお申込み

MASAKO Yasumoto

康本雅子 ダンサー・振付家

1974年生まれ、少し鳥、思いつきり型。
自身の作品を発表する他、演劇や映画、コンサートの製作など多岐に渡るジャンルで活動。小中学校でのダンスWSやワークショップも全国各地で行っている。20年より地域創造登録アーティストとして活動。
また、親子向けWS“マジンな性教育マジン”や市販向けWSも開催中。

スケジュール

熊本県天草市／天草市民センター

	下見	
	9/11 (水)	9/12 (木)
9:00		崎津集落視察
10:00	熊本空港	
11:00		イルカセンター
12:00		昼食
13:00	↓	「ひだまり」
14:00	天草入り	振り返り
15:00	打合せ	
16:00	天草拓心高校	
17:00	チェックイン	↓
18:00		帰京
19:00	天草ハイヤ	
20:00	意見交換	
21:00	解散	
22:00		

実施期間			
2/20 (木)	2/21 (金)	2/22 (土)	2/23 (日)
テクニカル スタッフ入り			
	フォーカス	入り	入り
仕込み	入り	手直しリハ	最終リハ
休憩	昼食	↓	昼食
仕込み	稽古	昼食	会場
↓		抜きリハ	開演
天草入り		↓	アフタートーク
ラジオ告知		ゲネプロ	振り返り
打合せ	↓	↓	↓
休憩・受付	休憩	打合せ	退館
公募 WS	稽古	退館	
振り返り	退館		
チェックイン			

公募ワークショップ

今回のワークショップではキャッチコピーを「身体を動かし、あなたの身体を再発見！」として、対象を小学生以上とゆるくして公募したところ、小学1年生から61歳までの幅広い年齢層の参加となった。親子での参加も想定していたものの、それぞれが個人で9名の参加となった。全員が何かしらダンス系の経験者で、自身のカラダと向き合う事には躊躇なくスタートできていた様子が見られた。

まずは手拍子に合わせて自分のWSネームの紹介とポージングで始まり、個人での動きから徐々に他人を意識してのメソッドへと自然に変化して行った。ペアを組み相手のカラダの一部に触れて自身のカタチでポーズを決めるなどして、コミュニケーションを図り、やがてトリオでのチームプレイに発展していった。その頃になると大人の中で気おくれしていた小学生も自分なりのポーズを決めるなど自己アピールが出来るようになってきていた。途中ティッシュペーパーを掌にあてて、それを落とさず体に動きをつけるところでは、見学していた私やコーディネーターの中富さんにも回ってきて暫しワークショップに参加してみたが、やはり体を動かすことは楽しくて奥が深いと感じた。

今回参加者数は少なかったものの、終了後のクールダウンの後、車座になってもらいその輪の中に入って振り返りを促してみたところ、その時のみんなの表情と口調が明らかに開始前と変わっており、身体だけでなく心もほぐれて来たことが見て取れた。参加者の内、2人はBプログラムにも参加していてペアが回ってきた場面では息の合ったパフォーマンスが出来ていた様子で、今回の参加者にもアフターフォローを行い次年度予定しているAプログラムの公募ワークショップやその他の自主事業などへの参加へと繋いでいきたいと思う。



公演

『康本雅子「子ら子ら」』



「子ら子ら」この作品を上演するにあたり、まず考えたのが今までこの会館で開催した作品とは少し趣が違い、母と子という普遍的なテーマを前面に押し出した印象が強かったので、どういった方法で訴求していくことがベストなのか見いだせずにいたところ、現地下見の打ち合わせの際に訪問先についていくつか提案する中で、康本さんから“親子が普段から集まる場所”で子育て世代にPRできる場を持ちたい。との要望があり、そこから行政の子育て支援課や当会館の利用者でもある保育園の先生方などに相談して、まずは保育園に入る前段階の“子育て支援センター”へお邪魔して本事業の内容をそこへ通うお母さん方（自身の娘世代）のなかで、説明を行い康本さんご本人が来る告知をしてディスカッションのお願いをした。しかし下見当日はあいにくお母さん方の参加はなく、園長先生及びスタッフの皆さんとの天草の子育て談義の場となった。

公演当日には、配布パンフレットに会館からの“コンテンポラリーダンスの見方”といった内容のメッセージや、康本さんからの“作品ノート”としてのメッセージを載せて、馴染みの少ない舞台のハードルを下げる工夫をしてみた。また、康本さん本人とコーディネーターの中富さんに加え、天草フィルムコミッションの小山さんにも入ってもらい、作品に対する思いや、本作品を地方のホールで開催することの意義などを、それぞれの言葉で語ってもらい観客の皆さんと共有できるように上演終了後にアフタートークも実施した。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ コンテンポラリーダンス公演は初めて観たので新たな感覚を得た時間だった。
- ・ 初めてなので今一つ理解できてない。また次に来てみたいと思います。
- ・ 現代の子育て、母と子の関わりが表現されているように感じた。
- ・ 親としての難しさ、一人の子どもの感性、受け取り方、親子のあり方が難しい。
- ・ この解釈でよかったのか？疑問だが自分なりのうけとめをすることができた。
- ・ またこういう機会があると来たいと思います。
- ・ 初めてで、理解が難しい面もありましたが、出演者の動きや表現が素晴らしいと思いました。
- ・ 独特な表現で今まで観たことのないような舞台でした。日常にあることなので少し考えさせられました。
- ・ コンテンポラリーダンスは初めて観させていただきました。ダンスの最後に先生方のお話を聞いて公演をしていた意味が理解出来ました。ありがとうございました。
- ・ 初めてだったのでよくわかりませんでした。孫たちは集中して観ており、何か感じるものがあるのかなと思いました。ダンスも歌も上手で、もっと歌を聞いてみたいです。

●この事業への応募動機

過去に別事業でダンスカンパニー「んまつーぽす」のワークショップと公演を実施、令和4年度には「ダン活」のBプログラムに取り組み、それぞれに新しい発見やダンスに取り組む士気の高揚を図ることが出来、公演においても「コンテンポラリーダンス」の暗い、難しい、などと思われがちなイメージの払拭につながったことなどから、登録アーティストのレパトリー作品の公演を行い本格的なコンテンポラリーダンス公演の鑑賞機会の提供と、愛好家のすそ野を広げる狙いで応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

コンテンポラリーダンスの世界で描かれるストーリーで新しい感動を感じてもらい、WSでは表現方法のひとつとして、経験者には普段レッスンを受けている指導者とは違うプロのダンサーの指向やテクニックを学びさらに高めるヒントが得られるよう、また普段は踊ったりはしていない未経験の人にはコンテンポラリーダンスと出会うことで自分の表現力を開花させることができるように、Cプログラムに応募し、企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

今までこの会館で開催したコンテ作品とは少し趣が違う本作品をどうアピールすればよいか悩み、子育て支援センターや地元の天草ハイヤの社中、前回のBプロ参加者などへアピールするも多くの券売にはつながらず。公演の2週間前にコンテの“布教活動”に気持ちを切り替えて過去の催物の来場者および、下見の際に関わっていただいた方々に招待状と同伴者の割引券のご案内を送付し、辛くも54名の来場者を得ただけとなった。また、アーティストのレパトリー作品を受け入れるにあたり、どの程度まで深く関わるべきか、お互いの要求度、許容度について初期の段階で把握しないまま動き出しテクニカルな部分で予想を超える要求に対し十分な対応が出来なかった。

●事業の成果と課題

現地下見および、本公演実施において、一般的に認知されにくいコンテンポラリーダンスについて市民の方々と語り合い実際に舞台を見てもらい、身体表現の一つとして示すことが出来て、今後のダンス事業などへの取り組みに活かせるものを得た。また、一つの公演をアーティストとホールが共創することへの認識が浅く、ソフトとハード両面での取り組みの甘さが露呈してしまったことで、事業趣旨の理解度と会館の全職員への周知と情報共有の重要性を語る場となり今後の事業展開への意識改革を促せた。

課題としてポスター・チラシのイメージ、文字や言葉での説明では伝わりにくい今回のような芸術性の高い舞台作品。そういった公演になじみが薄い当地の地域性を考慮したうえで、公演の宣伝手法を検討する必要がある。また、アーティストのレパトリー作品を受け入れるにあたり、どの程度まで深く関わるべきかお互いの要求度、許容度について初期の段階で十分な意見交換をするべきである。

●今後の事業展開や展望

今回のCプログラムでコンテ事業3回目となったが、前回までは市民の出演による集客で成り立っていた感があるが今回の結果を踏まえて今後、純粋な作品上演を企画していく上では宣伝告知において動画素材などを効果的に活用し作品自体にもっと興味をもってもらえるようアーティスト側と協議を重ねて計画したい。もちろんワークショップやアウトリーチも併せて行い、自身のカラダと向き合うキッカケとなることや他者とのコミュニケーションをとる一つの方法であるといったコンテンポラリーダンスの魅力を広める事業展開を行い当会館の持札のひとつとしたい。

●この地域のダン活の特徴

熊本県の南西部、美しく青い海に囲まれ、120 余の島々からなる諸島の中心に位置する天草市。人口は、熊本市、八代市に次いで県内第3位の規模を誇る。東京からは空路と熊本空港からの陸路のアクセスで約4時間半とやや長旅となるが、海岸線にでると有明海の穏やかな水面が広がり、島原半島の姿が望めるなど熊本の風景を楽しむことができる。海と山に囲まれ豊かな自然が育んだ水産資源と温暖な気候を活かした農業が盛んで、車海老、伊勢海老、生ウニ、幻の地鶏と呼ばれる天草大王、天草晩柑、天草ならではの焼酎が楽しめる、まさに食の宝庫である。約 300 年前から踊り継がれるハイヤ節は、天草の牛深が発祥地とされ、かつて船乗りにより全国の港へ広がり、佐渡おけさや阿波踊りなどのルーツになっている。天草四郎をはじめとしたキリシタンの歴史や南蛮文化、2018 年に登録された世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」、日本最大級の肉食恐竜の化石が発見されるなど歴史と文化、豊かな自然が、観光振興に向けて地域の機運を高めている。

天草市民センターでは、新たな表現を市民に触れてもらいたい、自分の表現を見つけて欲しいという想いから、令和4年度からダン活に取り組み、市民参加作品の創作・上演となる B プログラム（アーティスト：藤田善宏）を実施。人と人がつながり、ダンスの魅力とセンターの熱意が溢れた舞台となった。令和6年度はさらにダンスの世界観に触れる、舞台芸術の愛好者の裾野を広げることを目的に、振付家・ダンサーの康本雅子を迎え、C プログラムを実施した。

公募ワークショップは「身体を動かし、あなたの身体を再発見！」をキャッチコピーに開催。B プロの参加者やダンス経験者など小学生から 60 歳を超える方まで多世代に渡って、9名が集まった。最年少の子は最初こそもじもじ恥ずかしがっていたが、その子の動きもワークに取り入れ、自然と輪に引き込まれた。康本の柔軟なアイデアとワークの引き出しの多さ、また参加者の雰囲気ワークを盛り上げた。最後はスタッフも加わり、ダンスの空間が生み出された。クールダウンでは、アーティストと参加者の会話の時間を設け、心も身体もほぐれ、市民とダンスの距離がぐっと縮まる 70 分となった。

公演は、母と子という普遍的なテーマに、康本雅子が自身の子育てを赤裸々に描いた作品「子ら子ら」を上演。会場には子ども連れなども見られ、それぞれが自分の感情や体験と重ねて受け止めたり、ダンサーの表現や歌声に魅了されたりと、多様な視点で作品を受け止めていた。公演後には、アーティスト、天草フィルムコミッションの代表を交えたトークを実施し、ダンスの魅力や作品の世界観、作品への想いを来場者に共有した。また公演当日に配布するプログラムには、アーティストの言葉、作品ノートだけでなく、コンテンポラリーダンスの見方として、天草市民センターのメッセージを載せるなど、ダンスの魅力を伝えるため、観客視点に立った取り組みを行った。

公演に先立つ9月の下見では、アーティストと市民との接点をつくるため、天草拓心高校郷土芸能部、天草市役所ハイヤチーム、子育て支援センターを訪問。市民とアーティストが対話できる機会を創出し、アーティストにとっても市民や天草を知る貴重な機会であった。

●課題とこれからに向けて

今回の C プログラムを通して特に見えたのは「育成」。次世代スタッフと地域の担い手の育成である。アーティストとの共創の過程を経て、制作担当者や作品を支えるテクニカルスタッフ、それぞれの視点でアーティストや作品を理解しようとする姿勢の重要性を実感したのではないだろうか。その先には「観客、市民に何を届けたいか」という視点にも繋がったように思う。地域の状況や施設の管理運営を含む指定管理者制度の中では育成の難しさを感じることも多いのではないだろうか。しかし、今回の経験を一つの出発点として、舞台芸術への熱意を持つ所長・湯貫さんの想いを紡ぎ、天草市民センター独自の育成を見いだして欲しい。

公演後のトークで来場者から寄せられた感想、活動を見守る市民の意見などからも市民センターの取組に対する理解が着実に深まっていることを実感した。こうした声を今回の一つの成功体験と捉え、市民センターの運営や事業を支える“緩やかなサポーター”の育成など、地域の担い手づくりにも取り組んでいただきたい。多様な視点や広がりをもたらしてくれる存在になるだろう。

アーティストの視点や気づきを通して、地域や市民センターの魅力を新たに再認識する機会にもなったのではないだろうか。こうした経験が、今後の活動にとって新たな一歩になることを願う。

大石田町町民交流センター虹のプラザ 実施データ

C プログラム

実施団体	大石田町
実施ホール	大石田町町民交流センター虹のプラザ なないろホール
実施期間	令和7年3月20日（木・祝）～3月23日（日）
アーティスト等	アーティスト：浅井信好 共演者：石若駿、松丸契 テクニカルスタッフ等：福井孝子
コーディネーター	坂田雄平

●公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 3月21日（金）18：30～20：00、全年齢（小学5年生以上推奨）、無料、13名、虹のプラザなないろホールステージ上

●公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■「Peeping Garden TODAY'S HOLE」大石田公演

■3月23日（日）①14:00開演（13:30開場）②17:00開演（16:30開場）

■浅井信好、石若駿、松丸契

■一般 3,000 円、ペア 5,000 円、高校生以下 1,500 円

■大石田町町民交流センター虹のプラザ なないろホール

■① 27 名 ② 29 名

Peeping Garden

TODAY'S HOLE

ピーピングガーデン ～今日の穴～

2025年 3月23日(日)

14:00開演 17:00演

大石田町民交流センター 虹のプラザ なないろホール

〒999-4112 山形県北村山郡大石田町緑町28番地

世界的ダンスアーティストと音楽家の擬宴

覗き穴から作品鑑賞・話題作上演

各回限定28席

浅井信好(ダンス) 石若駿(ドラム) 松丸契(サクソフ)

チケット 一般3,000円 | ペア 5,000円 | 高校生以下1,500円

各券種当日+500円

《ご予約・お問合せ》下記連絡先 / QRコードより

0237-35-2094(虹のプラザ)



[illegible]

スケジュール

山形県大石田町／大石田町町民交流センター虹のプラザ

	下見	
	7/4 (木)	7/5 (金)
9:00		
10:00		町内視察
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	到着	町内視察
14:00	打ち合わせ	解散
15:00	↓	
16:00	↓	
17:00	↓	
18:00	夕食	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/20 (木)	3/21 (金)	3/22 (土)	3/23 (日)
	入り	入り	
	テクリハ	リハ	入り
	↓	↓	最終確認
集合・顔合わせ	昼食	昼食	
仕込み	リハ	リハ	公演①
↓	↓	↓	
	↓	ゲネプロ	
↓	WS 準備	修正等	公演②
退館	公募 WS	↓	
	↓	退館	撤収作業
	退館		↓
			退館

公募ワークショップ

普段のダンス公演で劇場に足を運んでいない層へ訪れるきっかけになるようにという想いで、年代は普段来場数が少ない30代～40代をターゲットにそしてお子さんも一緒に参加できるような内容でアプローチをした。

また特殊な舞台セットを作品鑑賞以外でも体験してもらえたらという浅井さんのワークショップコンセプトを取り入れさせていただき参加者を募り当日はダンス関係者だけではなく、演劇関係者、子どもたちも含めて参加者が集まった。（子ども7名、大人6名が参加）

ワークショップ前半はウォーミングアップを兼ねて歩く・寝転がるのような日常的な動作から段々とルール性を取り入れ、タスクを増やしていった。ダンスのテクニックを求められるわけではなく個人の身体・心でオリジナリティのある表現を楽しむ様な内容で、ダンスをやったことない方や親子で取り組みやすい印象であった。

後半ではシンプルな振付を教わりその振付を①誰も見ていない状況②見られている状況③覗いて見られている状況と、環境をそれぞれ変化させて感じ方の差異を体験した。子どもたちは自分なりの解釈で特殊な舞台セットへのふれあいを楽しんでいたように感じた。

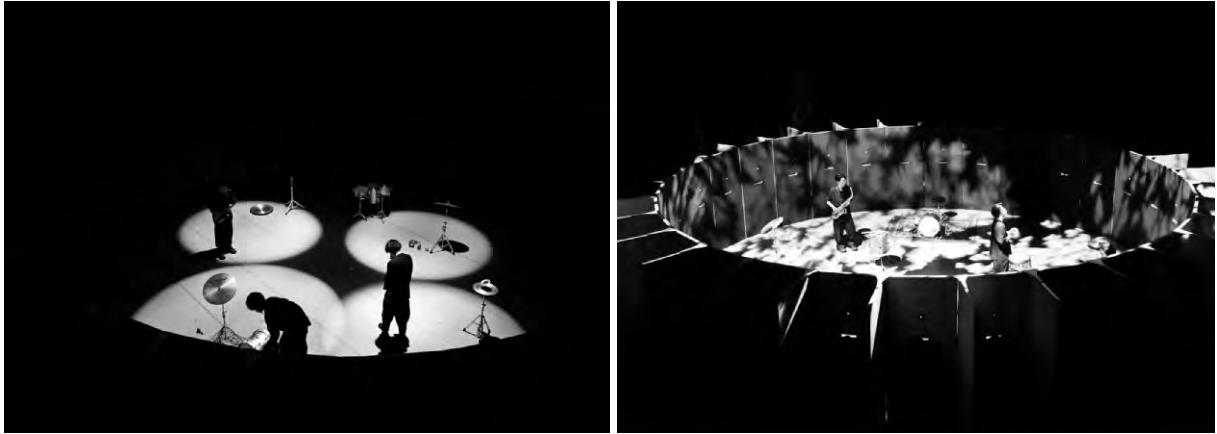
また普段演者として舞台に立っている参加者もいたので、見る／見られるという観点で表現者として新たな発見もあったという意見が多数いただいた。

実際の作品上演中では体験できない贅沢な舞台セットへの関わりをもつことができ、浅井さんご自身に対してや Peeping Garden という作品について参加者や主催者側も理解を深められた内容だった。



公演

『 Peeping Garden TODAY' S HOLE 大石田公演 』



公演 3 日前舞台セットの搬入があった。舞台が出来上がっていくにつれて、「Peeping Garden」というコンテンツの力強さを目の当たりにした。そしてそれがちょうどホールステージに収まるのを見てうれしくなった。

実施については浅井さんの協力もあり、1日に2公演を実施した。そして共演者として石若駿さん、松丸契さんに参加していただくことになり、ダンスを観たい方だけでなく、音楽に興味がある方からも多く問合せをいただいた。毎回 28 席限定ということもあり、広報が始まるとすぐに予約された方もいらした。

インプロがメインであるため、直前までアーティスト、テクニカルスタッフの皆さんが意見を交わしながら舞台を作り上げていく姿が印象的だった。

当日はスタッフと浅井さんより事前のアナウンスを行ってから、舞台上の客席を選んで座っていただいた。公演が始まるとアーティスト同士のやり取りを「覗く」行為がとても面白く、こちらが覗いているのに覗かれている感覚もあるという不思議な経験ができた。みることのできるスペースが限られているからこそ、体感できることでもあった。音の聞こえ方も公演前は心配していたが、扉を伝わって聞こえる音、上から降ってくるように聞こえる音等それも普段の舞台では感じられないものであった。

公演後はアーティストに協力いただき、アフタートークも実施し、お客様との交流も行うことができた。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ あっという間の1時間でした。途中地軸の中心にいたような感覚になりました。その後化石になったような気持ちに。また来てください！
- ・ 「覗く」という行為がこんなに体力使うことだったとは。扉の「匂い」が心地よかったです。あの装置がやはり印象的で、いろんなパフォーマンスができるのではないかと想像しました。
- ・ 視覚を制限されることで見えている部分への意識、見えない部分の想像力が高まりとても楽しむことができました。
- ・ 貴重な公演を観させていただきました。対人との関わりは作り上げていくものであり、それを楽しむ余裕や伝えたい、分かってほしい上で成り立つのだと思います。どちらかがそっぽを向いたら伝わらない、伝えたい・分かってほしい思いが共鳴しあって理解につながるのだと思います。トークの中で争ってはいないとおっしゃっていましたが、そういう空気感の中にこの世もあれば戦争もなくなるのに。ありがとうございました。
- ・ 何を表現すべきか難しい世界観でした。それが小気味よいと思いました。

●この事業への応募動機

大石田町では平成 29 年 9 月に「大石田町町民交流センター虹のプラザ」が完成した。既存の施設とは異なり、ホールとしての役割だけでなく、創造・学び・表現・福祉・交流をテーマに多様な機能を集めることで利便性を高めた施設となった。

令和 3 年度からは地域おこし協力隊が主体となりアーティスト・イン・レジデンス事業である大石田 AIR（おいしだえあー）を実施している。それまで大石田町ではダンス公演が行われていなかったが、回数を重ねることでリピーターも増え、多くの方に知られる存在になった。さらに公演の幅を広げられるようにするため、本事業 C プログラムの応募を行った。

●事業のねらいと企画のポイント

大石田町ではダンス公演を年に数回行っているため、アーティストが舞台、観客は座席にという通常の舞台ではないことに本事業でチャレンジしたいと思っていた。過去には、ステージ上に客席を設置したこともあったが、自主企画事業として行う公演は通常のスタイルでの公演に限られていた。

当初ホールを建設する際のテーマにあった「見る人も演じる人も一緒に空間を作り上げていく」公演を目指し、観客が公演を観るだけでなく、それ以上の体験や共感が得られるような公演になるように企画を進めていった。

●企画実施にあたり苦労した点

本公演はまた虹のプラザのホールは 343 席という客席数ながら、奥行きが 9m と広く、この舞台を最大限活用するための企画をしたいという希望もあり、この「Peeping Garden」を希望した。しかしながら、本公演を実施するにあたり、特に輸送の面で大変ご苦労をおかけしてしまったと感じている。

また公演に際してもどのようにお客様を誘導するか、事前のアナウンスをどのように行うか等、直前まで出演者とコーディネーターの皆様と相談しながら安全に誘導するための方法を検討した。通常のスタイルでの公演でないからこそ気を付けるべき点、配慮する点などを多角的に検討することが出来たと思っている。この経験はこれから行っていく公演についても役立つものだと確信している。

●事業の成果と課題

浅井さんそして月明りの移動劇場の皆様のご協力を得て、舞台にあのセットを持ってくることができたこと、そして、石若さん松丸さんという音楽家のセッションが加わることで虹のプラザだけの素晴らしい公演ができたことにとても感謝している。本番までの時間が限られた中での公演ではあったが、これは本当にレパートリー作品ということにしているのだろうか？と思うほど、出演者・テクニカルスタッフの皆様に短時間で作りあげていただいた。

集客の面はセットの都合上そもそも 28 席限定（音響席を使用しなかったため、最終的には 29 席）ということもあり、14 時の回は町外のお客様をメインに早めに完売した。17 時の回は少し外出しにくい時間帯だったこともあってか、直前まで完売しなかったが、町内の方をメインにお越しいただくことが出来た。

さらに当初予定していなかったアフタートークも実施していただき、お客様にはドアの向こう、中とどちらも体験していただけたことも貴重な時間となったように思う。

課題として挙げるのであればやはり公募ワークショップへの理解や観るだけではなく自分も参加しようとする人がもう少し増えるといいなと感じている。

●今後の事業展開や展望

新しい鑑賞体験を企画できたことは施設としても町としても貴重な体験であった。また、本事業で出会えた出演者、テクニカルスタッフ、コーディネーターとの交流が出来たこともいい経験となった。人口 6,000 人を下回る小さな町ではあるが、芸術活動を通して町の課題解決やアーティストとの繋がりや町を盛り上げる企画などこれからも取り組んでいきたいと思う。

●この地域のダン活の特徴

人口約 6,000 人大石田町は山形県の北部に位置し、最上川の豊かな流れと四季折々の自然が広がる町である。舟運の歴史が息づくこの地は、そばの名産地としても知られる。また、大石田駅を起点駅とする近隣の銀山温泉はレトロな風情が魅力で、多くの観光客を惹きつけている。

近年、大石田町は文化振興にも力を入れており、その象徴が「大石田 AIR（アーティスト・イン・レジデンス）」である。国内外のアーティストを招き、創作活動と地域交流を促すこの事業は、町の魅力を発信する試みとして定着しつつある。この活動を支えているのが「地域おこし協力隊」の存在だ。現在、町には複数の協力隊員が在籍し、駅前への賑わい拠点施設の運営や、ホールでの文化事業にも携わっている。大石田 AIR や今回のダン活の担当者も地域おこし協力隊であり、そしてダンサーでもある。直営館として役場職員と地域おこし協力隊が中心となって、アーティストと地域住民をつなぐ役割を担っている点が特徴的だ。

こうした文化的な土壌のある大石田町で、浅井信好さんによるダン活 C プログラムが実施された。今回はホールからの強い希望もあり、「Peeping Garden」の大石田版が上演された。この作品は、観客が覗き穴からパフォーマンスを鑑賞するという独特な手法を用い、「見ること」と「見られること」の境界を曖昧にすることで、観客と演者の新たな関係性を構築しようとする試みである。

今回は砂などの舞台美術を持ち込まず、装置は最小限に抑えられていたものの、普段のダン活では見られない規模の舞台演出が展開された。運搬や設営など、アーティストにとっては大きな負担があったと思われるが、ホールスタッフの手際よい準備と協力により仕込みは非常にスムーズに行われ、円滑な上演へとつながった。

さらに今回は、ドラマー・ミュージシャンの石若駿さん、サクソ奏者・作曲家の松丸契さんとのセッションも行われた。即興的な音楽とダンスの融合に加え、空間的な隔たりと同時に、通常の舞台にはない「近さ」が共存する演出により、通常の劇場空間とはまったく異なる新たな鑑賞体験が創出された。

公募ワークショップにおいても、この特別な空間の中で、一人で踊ること、集団で踊ること、覗き穴から鑑賞することなどを通じて、多様な視点と役割を体験できる構成となった。自分の身体や感覚を捉え直すような体験が提供され、鑑賞だけでは得られない一歩踏み込んだ内容となっていた。

●課題とこれからに向けて

大石田町は人口約 6,000 人の小規模な町でありながら、「大石田 AIR」などの取り組みにより、多くのアーティストが日常的に滞在し、毎月のようにイベントが開催されるという全国的にも稀有な文化的環境を築いている。地域おこし協力隊にはダンサーや俳優など表現者が多く、地域活性化に直接関与している点がこの町ならではの特徴だ。頻繁なクリエイションやイベントの実施は、ホールの制作・技術スタッフにとって貴重な実践の場となっており、今回の「ダン活」におけるスムーズな仕込みや上演にもつながった。舞台の特性上、客席数が限られていたこともあり、本番前には完売となった。

今後は、文化芸術を一過性のイベントとしてではなく、地域の未来を形づくる「社会的価値」として位置づける視点も求められる。教育、福祉、地域経済の活性化といった分野への波及効果も視野に入れた、文化施設としての取り組みが期待される。地域おこし協力隊の定着率の高い大石田町だからこそ、任期後も地域に根ざした活動を継続できるよう、起業支援や公共サービスの担い手づくりなど柔軟な仕組みづくりも必要だ。また、これまで多くのコンテンポラリーダンスのアーティストらが大石田に滞在し、活動してきたという実績や成果を戦略的に発信していくことも重要である。これまでの取り組みを「地域ブランド」とし、交流人口の拡大と循環がまち全体に波及するような構造を育てて、より魅力的な街づくりを目指してほしい。

事業資料

公募ワークショップチラシ

京都府立けいはんなホール

A4 片面 (4 色)

[illegible]

津市久居アルスプラザ

A4 片面 (4 色)

[illegible]

四万十市総合文化センター

A4 片面 (4色)

秋だ！ ダンスだ！ 踊ってみよう！

運動苦手だけど
身体を動かしたい

ダンスをやったこと
ないけど
やってみたい！

子どもも大人もシニアでも
興味があれば大丈夫！
ゲームをしながら
身体を動かす楽しい
コンテンツ・ダンスを
みんなで体験しよう！

参加費 無料

ユニークなダンサー
藤田善宏さんが今年も
四万十市にやってきました！

Instructor
藤田 善宏
CAT-A-TAC 代表
コンパニオンダンサー

舞踊家・演出家・ダンサー・ダンスデザイナー・
文化の芸術振興部門個人賞受賞。塩田市体育協
会・舞踊振興財団監修。小舞舞主理人。山田洋
次郎舞踊団監修。Eテレ他、舞踊出演ステージ
多数。三世代間で楽しめる舞踊ダンス劇。障がい
者向け舞踊や幼児教育教材の監修など多種多様な
舞踊活動にも力を注ぎます。

Assistant 稲葉 由佳利

中学生～大人
10/23
19:00-20:30
定員 20名程度
場所 しまんぴあ
りくるホール
半額減・飲み物・タオルを
ご用意ください

小学生～大人
10/26
10:00-11:30
定員 15名程度
場所 しまんぴあ
スタジオ2
半額減・運動のできる上履き
・飲み物・タオルをご用意
ください

申込締切
10/15 火

申し込み・問合せ先
Tel: 34-7311
Mail: culture@city.shimanto.lg.jp
主権 四万十市教育委員会 共催 一般財団法人 地域創造

申込フォーム
四万十市生涯学習課 社会教育振興係
平日 9:30-17:15
土・日・祝日を除く
QRコード

菊川文化会館アエル

A4 両面 (4色)

からだではなそう！ ダンスのWA2

定員 30名
参加料 無料

せかいじゅうで踊った元気いっぱいなダンサー・
振付家の井田亜彩実さんによるダンスワークショップ。
ことばがわからなくても大丈夫、体を動かすのが一番です！
みんなで遊べば、たのしくなる！お友達もたくさんできるかも！
さあ！一緒にダンスを楽しみましょう！

参加者大募集

アシスタント/稲葉 由佳利
アシスタント/黒須 育海
講師/井田亜彩実

2024年7/13(土)
(受付9:30～) 10:00～11:30
菊川文化会館アエル 大ホール 舞台
対象：小学4年生からどなたでも大歓迎！

申し込み方法
●電話 0537-98-1818
●お申し込み用紙に記入の上、前日までに
アエル窓口へ提出してください。
●申し込みフォーム
●右記のQRコードよりお申し込みください。

申込用紙
うらな

Profile

講師/井田亜彩実 ダンサー・振付家
Arche主催、筑波大学・大学院にて舞踊学を学ぶ。
2014-2018年、ダンスのコンパニオンに
(MARIAKONG) 出演。現在は、長野に拠点を拠
点を置き、1人での振り付け・パフォーマンスや
作品制作を行う。「International Competition
of Modern Choreography in Shibuya 2012」
＜第1位＞、「ダンスがみたい！新人アーティスト」
＜オナーズ＞受賞。『横浜ダンスコレクション
2021コンペティション』に奨励賞・受賞など、国内
外で受賞、国内外大会で活躍中。

アシスタント/黒須 育海 ダンサー
筑波大学。大学時代にコンテンポラリーダンスに
出会い、動く喜びを体感し、音楽・音楽家は舞踊の
重要な要素であることをダンスを通して学んでいる。
国際文化基金・ベトナム支部と提携で「Dance公演」を
行うほか、ステージダンサーとして活動中。

7月13日(土) 10:00～11:30
「からだではなそう！ダンスのWA2」ダンスワークショップ 申込書

氏名	年齢	国籍
フリガナ	(年生)	
電話番号	メールアドレス	
ダンス経験(もちろん経験がなくてもOK！その他、ダンスや演劇などの経験があればお書きください)		
保護者氏名・連絡先(18歳以下の方)		
事前にホールに伝えたいことがあればお書きください		

※ダンスワークショップは大ホールの舞台上で行います。荷物は客席に置いてください。はだか踊りますので、靴を脱いで舞台へ上がりください。
※服装は動きやすい服で、飲み物・タオル等は持参してください。

【会場】
菊川文化会館アエル 大ホール 舞台
住所：菊川市本町2488-2
TEL: 0537-35-1515 / FAX 0537-35-1517
HP: http://kikusawa-aer.jp/

関連ダンス公演のお知らせ
-菊川市制20周年記念-
ダンスだyo! 全員集合！～ハートでつなぐアミーゴアミーゴ～
アエルが新たにスタートさせる市民参加型ダンス公演！
色々なジャンルやバックグラウンドを超えて参加できるダンス公演を制作します。プロのダンサーが菊川市に来て、菊川市や近隣のみなさんと一緒に作品を作り、ダンス公演を行います。ぜひ一緒に、躍りましょう！アエル・ゴ！ゴ！

■日にち 9月23日(月・祝) ■時間 開場13:30 開演14:00 ■会場 菊川文化会館アエル大ホール
■料金 全席自由 一般1,000円、高校生以下500円※2歳以下は無料 乳幼児入場可
■出演：井田亜彩実、黒須育海、黒川貴、菊川市または近隣の市民のみさん ■チケット発売日 7月13日(土)

A4 両面 (4 色)

出演者クリエイション（練習）概要

【対象】 小学 3 年生以上

【時間】 2 0 名（日曜日の定員の概算に余裕がある方が優先です。）

【練習会場】 第一公民館 住所：南木村阿高 3 2 9 0

【参加費】 無料

【申し込み】 チラシ右下の QR コード、または申込用紙にご記入の上、
南木村教育委員会までお持ちください。

ダンサー・原付登
カネ子・マコ
根本雅子

「ダンサー・原付登」は、2017 年 10 月 14 日（土）に、
「カネ子・マコ」は、2017 年 10 月 14 日（土）に、
「根本雅子」は、2017 年 10 月 14 日（土）に、
それぞれ、南木村阿高 3 2 9 0 に、
出演予定です。

練習スケジュール

小学 3 年生以上		中学 3 年生以上
8/17（土）	16 時～18 時	
8/18（日）	13 時～17 時	
8/19（日）		18 時～21 時
8/20（火）	10 時～13 時	
10/16（木）		18 時～21 時
10/17（木）	16 時～18 時	18 時～21 時
10/19（金）	18 時～18 時	18 時～21 時
10/19（土）		13 時～18 時
10/20（日）※公演日		9 時～16 時

※8/19（日）は、雨天決行。2 日間の都合により、変更になる場合があります。ご了承ください。

南木村教育委員会
お問い合わせ

参加者募集

公演には出られないけど、ダンスを一度体験してみたい方募集！

【日時】 8 月 17 日（土） 16 時～18 時

【対象】 小学 1 年生以上

【会場】 第一公民館 演舞室 住所：南木村阿高 3290

【参加費】 無料

【定員】 15 名

【お問い合わせ】 0265-33-2002（平日 9 時～17 時）南木村教育委員会 担当：山井

マシナリ

締切：8 月 14 日（水）17 時 ※定員になり次第、締切です。

申込用紙

公演出演希望、ワークショップ	
名前（フリガナ）	生年月日： 年 月 日（ 歳）
名前（フリガナ）	生年月日： 年 月 日（ 歳）
住所：	携帯電話番号：
メールアドレス：	保護者氏名：
※お申し込みのうえに、参加の可否を 1 週間以内にご返信ください。遅くとも 8 月 20 日（日）まで。	
ダンス経験： あり / なし	得意なこと（ダンス以外でも）：
日本体育園に思い入れがあれば是非！	

※応募のうえに写真をお送りする場合があります 写真・動画（有・無）

※応募のうえに写真をお送りする場合があります 写真・動画（有・無） <https://www.instagram.com/jeff30404/>

A4 両面 (4 色)

島民参加型ダンス公演開催！！

ワークショップ参加者・出演者募集！

会場 砂美地来館アリーナ

応募方法 Googleフォーム> [お申し込みはこちら](#)

締め切り 2025年1月14日(火)17:00まで

お問い合わせ NPO法人ヨロンスC Tel:0997-97-5001 担当：杉本

もちもの 動きやすい服装、室内シューズ(裸足OK)、飲み物



参加の仕方は4タイプ！

①～④の中から参加したいチームを選んでね！

チーム	詳細	日程	対象年齢	定員	公演出演料
① ワークショップのみ (公演出演なし)	公演には参加せず、ワークショップのみの参加。 ぜひ【おたみ】でご参加下さい。	1/17(金)19:00～21:00	4歳以上 ※本館見学は保護者同伴	なし	なし
② がつぷり	全編出演： 録音、即興、個別指導あり。全日回の参加をお願いします。 【※参加不可な日がある場合必須】	1/17(金)19:00～21:00 1/18(土)15:00～21:00 2/19(木)19:00～21:00 2/20(木)19:00～21:00 2/21(金)19:00～21:00 2/22(土)15:00～21:00 2/23(日)13:00～20:00 2/24(月)13:00～本番終了	小学生以上	15人	500円 (現金のみ)
③ そこそこ	3～4シーン出演： 録音も受け、即興あり。 【※参加不可な日がある場合必須】	1/17(金)19:00～21:00 2/21(金)19:00～21:00 2/22(土)15:00～21:00 2/23(日)13:00～20:00 2/24(月)13:00～本番終了	小学生以上	20人	500円 (現金のみ)
④ ちゅぷり	1～2シーン出演： 録音！楽しい！	1/17(金)19:00～21:00 2/23(日)13:00～20:00 2/24(月)13:00～本番終了	4歳以上 ※本館見学は保護者同伴	なし	500円 (現金のみ)

公演本番は2025年2月24日(月)18:00～19:30（予定）です。ご参加、お待ちしております！



当日パンフレット（Bプログラム）

アイム・ユニバース てだこホール

A3 ニつ折り 両面（4色）

練習の様子
6月6日～10日、27日～29日
どのシーンの練習がわかりますか？

よういはい？

たかいよ～

これはまかせて

おあきくはれ～

よくできた～

これであつて？

浦添・屋富祖コミュニティダンス公演

ナガリユン ナガリユン

～屋富祖の昔・今・未来を
ダンスで紡ぐ～

happy!

令和6年6月30日(日)
アイム・ユニバース てだこホール
小ホール

主催：アイム・ユニバース てだこホール
共催：浦添市、一般財団法人地域創造

令和6年度 文化庁文化芸術振興拠点形成事業

浦添・屋富祖コミュニティダンス公演 上演によせて

戦前はサトウキビ、すいかやイモなどの栽培が盛んな純農村地区。戦後は米軍補給基地（キャンプキンザー）の移駐とともに県内外から軍作業に就労する人々が転入し、屋富祖大連はいち早く整備されました。

商店街、市場、銀行、映画館が立ち並び、特に昭和50年代から60年代にかけては、経済的な発展が隆盛を極め、名実ともに浦添市の中心地となりました。

現在の屋富祖は社交街として栄えつつ、空き店舗も目立ち、寂しさ寂しさが交錯するまちです。しかし、街の中心を走る屋富祖大連や基地の遠慮に作る西海岸など、都市開発の最前線でもあり、今後まちの姿は急激に変わっていくことになるでしょう。

目まぐるしいスピードで変化していく屋富祖の「まちの風景」、「ひとの記憶」をダンスでスグサグサといふ、そんな思いからこの企画は立ち上げられました。

マニシア（作・演出・振付）より

屋富祖の小さな路地を歩きながら、ここを手に入れた人とはどのような思いを子孫に残したのだろうと考えました。ガジマルの木の下で、もし屋富祖に関わるみなさんと色々なシーンを創作し、キジムナーが大人になったようなイメージを自分が果たしたら？と想像もしました。

屋富祖に関する資料やインタビューから色々なことを思い浮かべ、中でも戦前に確立した、那覇に行く際の道中で履き物を頭に載せていたという文章を読みながら、私の頭の中では既に靴を頭に載せて踊り、インタビューでハイハイ通りの話を聞いてはハイハイを使って踊ることを考えていました。

そして2020年のコロナ発生で「生きる」ということを考える機会を得て、災害や戦争を乗り越え世界大恐慌をも乗り越えようとしている人々の生命力を深く感じ、平和な島を抱きしめる屋富祖の人々の姿がステージ上で見たいと思いました。

大人になったキジムナー役のマニシアが着る赤いスカートを個々縫製した方は奇遇にも平和を願うウクライナのダンサーです。この作品完成までに多くの方々の協力と目には見えない皆さんの愛が応援してくれているようにも感じています。

古くから継がれている屋富祖口説の歴史ある表現と、ほとんどの出演者がコンテンポラリーダンスの未経験者でありながら個性を発揮した自由表現と、マニシアの言葉やシーンのアイデアを紡いだ今と昔が融合された作品です。

出演アーティスト

マニシア（作・演出・振付）

野中香織「そら」（演出補）

小林久遠「ジョニー」（ドラム・ワイヤリオン）

DAI（ジェン・ペンゴニ）

出演者

屋富祖自治会：婦人会

末吉由美子 佐久真ヨシ子
高原妙子 大浦地美子
松田トキミ 高良千賀子
比嘉美智代 松田文子

屋富祖自治会：長生会

宮城實 下地希重
下地久子 伊波トヨ子
西原百合子 宮城員子
森忠仁 金城スミ子
仲吉ツル子 高江洲安子
仲里涼子

宮城珠算学校

大城匡香 大城杏莉
宮城史子 宮城史音
喜友名結愛 喜友名快
田仲花 黒木香佳
石塚樹 石塚風哉
並河知沙

ワークショップチーム

渡辺英樹 平田出
奥川のぞみ オタマミサキ
新里涼子 比嘉みゆき
新垣幸次 明石隆博

ファミリーチーム

國正正也 國仲美鈴
國仲戸菜

琉球芸能出前公演実行委員会

渡平手直 大城希星
石嶺孝安 仲宗根朝子
堀川裕貴

映像出演

宮城三吉 又吉孝番 上江洲徹也

スタッフ

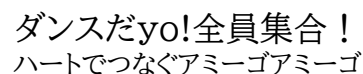
映像 泉山明士 [voxygraph]

舞台・音響・照明 ワークステーションラボ

コーディネート 神前沙織 [JCON]

制作 沖さおり [アイム・ユニバース てだこホール]

A3 二つ折り 両面（1色）



みんなが生きるKIKUKAWAで、心がおどるダンスタイムを—

栗川にはいろいろな人が集んでいて、同じ時間(とき)を一緒に暮らしています。
あなただけのサリとたんぽぽのうたをうたう? あなたとわたし、どこかで、みんなをつなぐているはず—
心も体もふるサリやたんぽぽのうたに合わせ、国や年齢、階級があんなにも隔たらない。みんなは一緒に—
ダンス公演です。国内外では数多くのプロのコンパニオンダンサーと市民のみんなと一緒に創り上げます。

—そして、そして、一緒に— 一緒に— アニマルアースグループ—

来源:蜀州市、蜀州市教育委员会、静网新闻社、静网放送、中日新闻东海本社

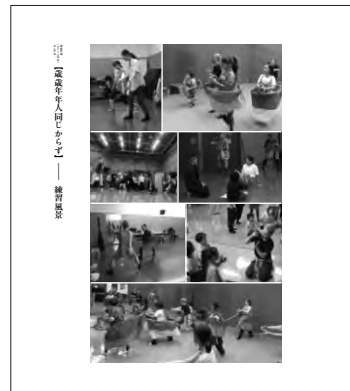
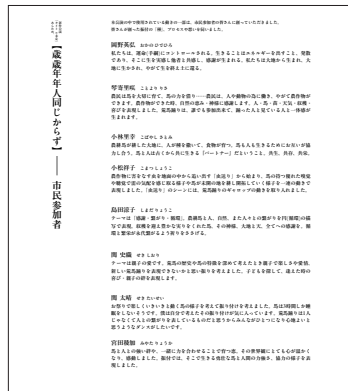
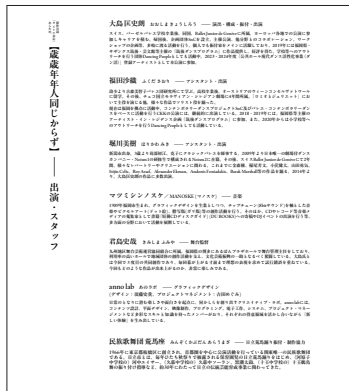
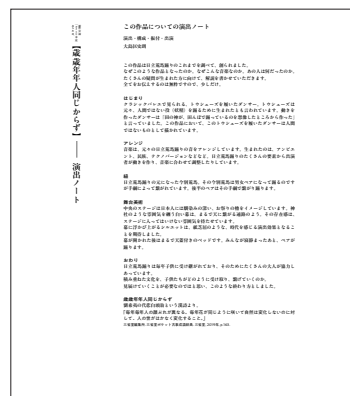
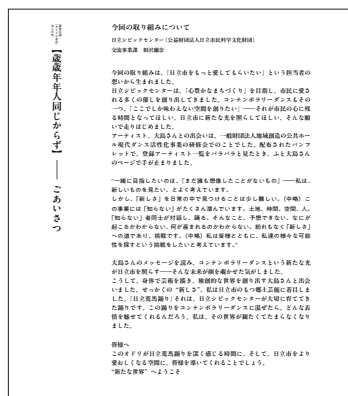
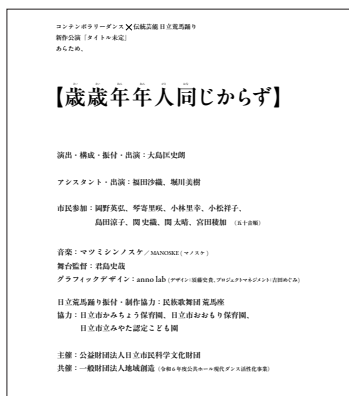
日立シビックセンター

■封筒

チラシデザインをベースにした封筒型のプログラムを作成。来場者には公演終了後に開封するよう封筒に記載した。



■封入物 A4 1色（練習風景の写真のみ4色）





面々^{メンメン}とメモリー

2024, 10/20(sun)
open,13:45
start,14:00

ごあいさつ

本日は喬木村ダンス公演「面々とメモリー」にご来場いただき誠にありがとうございます。
私が地域おこし協力隊になるきっかけになったのが、この公共ホール現代ダンス活性化事業（通称：ダン活）でした。このダン活でいろんな地域に行き、コンテンポラリーダンスの自由な自己表現を沢山の人達と踊り、「楽しい！」という声を聴いて、まだまだ開拓できる場所があるんじゃないか？と思い、喬木村では是非ダン活をやってみよう！と思いました。今日の公演まで、沢山の皆さんにご協力頂き感謝の気持ちでいっぱいです。
今回の公演は薄れてしまっている記憶や、その場所だけが聞こえていた声、匂い、習慣などをテーマに、康本雅子さんが演出振付をしてくださいました。
初めてコンテンポラリーダンスをご覧になる方も多いと思います。
ダンスを見るに「こう見なきゃ！」「理解しなくちゃ！」という正解はありません。
好きなように、思いのまま、想像して見て頂ければ幸いです。
どうぞ最後までお付き合いをお願いいたします。

喬木村地域おこし協力隊 吉川千恵

曙月庵という歴史ある建物を舞台に、人や場所の持つ記憶をテーマに作りました。
いつの間にかしなくなった習慣、思い出せなくなった事、会えなくなった人、聞こえなくなった声、それは決して無くなった訳ではなく、どこかの遠い引き出しに仕舞われていてひっそり息を待っています。
誰かがふっと思い出した時のために、今も此処そこに漂っているのです。たぶん。

振付・演出/康本雅子

音楽/ミウラ1号

出演/中西星羅、仲田直美、林友光子、牧田真悠子、吉川千恵
市瀬優芽、梶間友陽、久保田純、城田希望、仲田伊織
仲田伊近、福澤芽、牧内菜々海、筒井知恵子、康本雅子



喬木村には初めて来ましたが、天龍川の水がキレイだなあ、緑が豊かななあ、来るたびに和んでいます。
村の人達も優しく気さくな方が多く、短い滞在ではありましたが参加者の皆さんや色々な方のお話が聞けたことでこの作品が出来たことは喜びです。
腰を痛めてしまった時には阿島接骨院の先生にも大変お世話になりました。
皆さまとの一期一会の出会いに感謝です。
どうも有り難うございました。
康本雅子



喬木村の最初の思い出は、大統領のような名前のブタさん（くりん豚）から始まりました。
うんちのチャージンでさっそくいたいた肉は大変おいしく、元大統領にもおすすめできるのではと思いました。
また、ワークショップや公演の準備で出会った方々は、どんな個性のながら親しみやすく、しばしば差し入れをしてくださったりと、美味しい体験をさせていただいています。
食べ物のごちそうに感謝の気持ちです。
この公演がみなさんに珍味として楽しんでいただければ大変嬉しく思います。
ミウラ1号



喬木村には、同じ長野県に住みながらも、今回の企画で初めて来しました。
伊那、飯田は知っていましたが、150年も続く村があるんだと、驚きがまずありました。
おすすめしてもらったりんごジュースは、味が濃くて甘くて、いつも飲んでいるものとは全く違って、贅沢な味でした。
車移動で村の方には金銭面は多くはなかったですが、それでも会う方うの方、ニコニコと話しかけてくれて、オープンな印象を受けました。
お祭りにも遊びに来てみたいです。
中西星羅



練習風景



スタッフ

舞台監督：原口佳子

音響：株式会社 CUBE

協力：大島区長、大島地区の皆様、吉村由紀様、北原加奈子様

杉本悟様、学遊館、第二小児童クラブ、第一公民館

主催：喬木村教育委員会

共催：一般財団法人 地域創造

アンケートのご協力をお願いいたします。



A4 二つ折り 両面（1色）

山猫団あらわる！2 踊る島民編

お越しの皆様へ
アンケートのご協力のお願い

SCAN ME!

QRコード

本日はご来場ありがとうございました。
今後の事業をより充実させるために、
こちらのQRコードよりアンケートへの
ご協力を是非、お願いいたします。

ヨロンSC HP

ヨロンSC インスタ

特定非営利活動法人
ヨロンSC

その国境の外のスベキバカな創作ダンス集団

山猫団 あらわる！2

2025. **2. 24** Open 17:30
Start 18:00

砂 美 地 来 館

主催：NPO法人ヨロンSC（与論町公共施設指定管理者）
共催：一般財団法人地域創造 後援：与論町教育委員会

ごあいさつ

初めて一緒に踊った日に「自由がわからない、できない」と言っていた人が、たった一ヶ月で「自由に踊るのが得意になった」と伝えてくれました。「できない」のはただ単に経験がないからだと思っています。まずは全てに〇をつけよう。正解を求めがちな世の中に対する私たちの小さな抵抗は、大きな花を咲かせました。自信にあふれた体と心が放つ魅力が、あなたの心にも小さな花を咲かせることを祈って。

長与江里奈

山猫団とは？

2013年3月結成。
ダンサー、音楽家、絵描き、造形作家、デザイナー、照明家、音響、舞台監督、衣装作家、写真家から成る舞台芸術団。ステージ・客席を含めた空間美術から、イラスト・ダンス・音楽・芝居まですべて自家製で、「屏の向こう」に幻の時間と空間を作り出す。

山猫団オフィシャルサイト
[HTTPS://YOND.TOKYO/](https://yond.tokyo/)

長与江里奈

舞台芸術団「山猫団」主宰・演出家。
「伊藤キム+輝く未来」「まことクラヴ」ダンサーとして国内、国外の劇場、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を活かしジャンルに縛られない活動を展開。
ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作りたいことを目標に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥家

鈴木綾香

生まれも育ちも川崎市。世間知らずのダンス馬鹿。
日本女子体育大学・舞踊学専攻卒業後、様々なジャンルを経て現在はコンテンポラリーダンサーとして活動中。今までに遠田誠、柴田恵美、北尾豆、三東瑠璃、等の作品に参加。
山猫団の団員として、日本各地にて市民参加型公演に挑戦中。
嫌いなもの：海。好きなもの：うどん。

北園優

ピアニスト、作曲家。世界一小さなサーカス団『山猫団』の七代目団長であり、唄う踊る雑芸レビュー団『デリシャスウィーツ』では愉快なキーボーディスト。2020年『ジュンマキ堂とニューパラダイスデントン』のバンドマスターに就任。歌舞伎が大好き。神戸市垂水区出身。屋号は満の茶屋。

踊る島民たち

大西 杏璃	林 このは	田山 怜
加藤 麻歩	市村 咲月	堂脇 義申
喜村 喬子	市村 早苗	長尾 笑咲
杉本 帆南	市村 和香	中村 心音
帖地 啓仁	笠門 木芽	樋川 葵心
帖地 博嗣	小高 那和	竹井 青海
土持 陽菜乃	田中 柚希	ヨロンSC職員

...AND MORE!

スタッフ

舞台監督・照明：森 規幸（ADDONE,INC）
照明：仲田 裕介（徳之島通信特機）
音 響：三原 隆輝（徳之島通信特機）

これまでの山猫団との3年間

2022年・・・町内三小学校と中学校へのアウトリーチ（出前授業）を実施し、各校で好評を博す。

2023年・・・サーカスのダンス公演を砂美地来館で行い、会場内全観客の心をつかみ大喝采を浴びる！

2025年・・・この日のために集まった0歳～40代の島民と山猫団に乞うご期待!!

天草市民センター

A3 二つ折り 両面 (4色)

康本雅子コンテンポラリーダンス公演



振付・演出・出演 **康本 雅子**
出演 **小倉 笑**

Photo:松本成浩

舞台	通真 登(天草市民センター)	照明	福原 輝(天草市民センター)
音響	明瀬 登生(天草市民センター)	照明プラン・オペ	塩見 祐祐郎
衣裳	南野 詩恵	記録撮影	小山 真一(オフィス・エプロット)

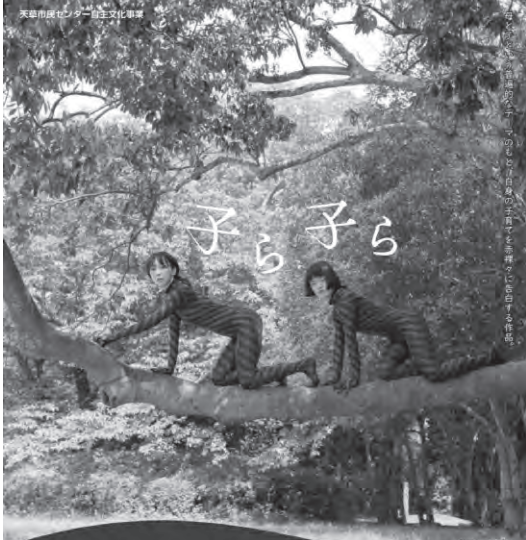
コーディネーター 中島 晴裕(公財 横浜芸術文化振興財団)

運営補助 森枝 佑介 田口 珠代 高本 友里佳 鈴木 恵理子(天草市民センター)

協力 田代 真樹子 矢田 優希(中深総合センター)

協力 やまぐち保育園子育て支援センター「ひだまり」
天草市役所本渡ハイアテム 天草拓心庵高等学校 郷土芸能部

主催:天草市民センター (指定管理者 一般社団法人 天草市芸術文化協会)
共催:一般財団法人 地域創造 (公共ホール現代ダンス活性化事業)



コンテンポラリーダンス公演 振付・演出・出演 康本 雅子
出演 小倉 笑

2025
2月23日 天草市民センター ホール

主催:天草市民センター
共催:一般財団法人 地域創造 (公共ホール現代ダンス活性化事業)

《天草市民センター イベント LINE UP 2025》

3月23日(日) 『みんな楽しくピアノの日』
天草市民センターのグランドピアノ、スタインウェイ D274 を市民の皆さんで楽しく弾く演奏会

8月11日(月・祝) 『ニューススポーツ親子体験』
どこでも、だれでも気軽に楽しめる「ニューススポーツ」を、親子で楽しむ体験会

9月中旬 『ダンス体験ワークショップ』
当センター及び、市内各施設にお邪魔してダンス体験WS 今回のアーティストは 'Van-no、S、

11月1日(土) 『夏井いつさ俳句クリニック(仮)』
楽しいこともつらいことも、すべてが俳句の種になる 天草大晦囃子祭の関連イベントとして開催

2026年
1月18日(日) 劇団わらび座『けんじんワンダーランド(仮)』
劇団わらび座とヘラルポニーのコラボ作品 宮沢賢治のイーハトーブの世界を天草で!

◇お問合せ◇ 〒863-0033 熊本県天草市東町3番地 **天草市民センター**
電話: 0969-22-4125 E-Mail: center@amakusa-cc.com

ごあいさつ

本日は、康本雅子コンテンポラリーダンス公演「子ら子ら」へご来場いただき、誠にありがとうございます。

天草市民センターではこれまでに市民の皆さんと一緒に創ったコンテンポラリーダンス公演を上演してきました。まずは2021年秋の「なまふーボス」が好評でした。そして2022年冬のCat-a-Tac「勝らんとアイランド」で、ダンスで表現することの楽しさを体感してもらえたと思います。

コンテンポラリーダンス公演の第3弾となる今回の作品は、母と子という普遍的なテーマのもとダンサーで振付家の康本雅子が、自身の子育てを赤裸々に告白します。本作品ではその趣きから、新たな世界観を感じつつも、きっと誰もが共感できる内容でお楽しみいただけると思います。

どうぞ最後まで、じっくりとコンテンポラリーダンスの世界を存分に味わってみてください。

天草市民センタースタッフ一同

さらに・・・

コンテンポラリーダンスって???

そんな方がほとんどだと思います

これは何を表現しているの?

今、どういう場面?

きっと、そう考えようとしてしまいますよね

でもステージ上ではダンスだけでなく

いろんな要素が絡んでその空間が創られています。

それは音楽もそう、衣裳もあったり

舞台上にあるモノであったり

セリフなんかもあります。

「子ら子ら」テーマは「母と子」

舞台上のパフォーマンスから

ご自身が感じたものをお持ち帰りください。

終演後に「アフタートーク」を行います

公演を振り返り、ダンスのこと、子どものこと、親のこと、家族への思いを
聴ける。そんな時間になったら嬉しいですね。

子ややって来た。吸われまくって目の中に入れてかき混ぜた後

ぶっ叩いたハハハ泣いてみた。

そうか、永遠に続く気持ちなんてはなっからないんだと、

愛し続けなきゃならんプレッシャーから解き鼻たれて

「今日も大好き!」

どうぞぶく母ちゃん、どんどんどんどん下校していく昼下がり〜



康本 雅子 ダンサー・振付家

1974年生まれ。少し魚座、思いっきりO型。
その昔バックバッカー時代にアフリカダンスに出会い、セネガルへ。ダンス漬けの半年を送るも無一文になり、帰国後バックダンサーになるも食うためだけのダンスじゃ飽き足らず作品を作るようになって今に至る。

その他、演劇や映像、コンサートの振付など多岐に渡るジャンルで活動。
小中学校、児童施設、劇場でのダンスWSやクリエーションも全国各地で行っている。
また、親子向けWS「マジな性教育マジカ」やインクルーシブ環境での子どもダンスWSも始動中。
2020年より(一財)地域創造登録アーティストとして活動。



小倉 笑

岐阜県大垣市出身。10歳から声楽とダンスを始める。
2014年より京都で活動を開始。以降、Monochrome Circus、康本雅子、笠井観、mamamilk等の舞台やコンサートに出演。
自身でも作品創作を行っており、2021年に創作団体SMILEを立ち上げ、「SMILE」(A human dodging a fried oyster / 牡蠣フライを避ける人間)「SUPER COMPLEX」などの舞台作品を発表。ヨコハマダンスコレクション2022コンペティションIにて奨励賞を受賞。

Belle Santos(独)と共同で舞台作品「MORNING TIME」を製作するなど国内外で活動。
2022年よりKYOTO Cultural Festivalを主催。2025年度より京都国際ダンスワークショップフェスティバルのプログラムディレクターに就任。ダンス、音楽、舞台作品創作、親子・青少年向けWS、イベント企画などジャンルに問わず、様々な活動を展開中。

Photo: tomcude

大石田町町民交流センター 虹のプラザ

A4 二つ折り 両面（4色）



Peeping Garden
TODAY'S HOLE
ピーピングガーデン ～今日の穴～

2025年
3月23日(日) 14:00 開演
17:00 演

※上演時間は約60分を予定

浅井信好(ダンス) 石若駿(ドラム) 松丸契(サクス)

大石田町町民交流センター 虹のプラザ なないろホール

主催：大石田町 共催：一般財団法人地域創造 令和6年度公共ふれあい現代芸術活性化事業



大石田AIR



ダンスクラブ エア



大石田駅前にぎわい拠点施設KOE no KURA

今後のお知らせや町の情報発信はコチラから「フォロー」をお願いします



このたびは、《Peeping Garden —今日の穴—》にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本作は、浅井信好が主宰する《月灯りの移動劇場》が建築家と家具デザイナーとともにタッグを組み、パンデミック以後の舞台芸術の可能性を探る実験として生まれた、円形構造の移動型劇場によるパフォーマンスです。30枚の扉に空けられた小さな穴から内部を覗き見るという構造は、カメラ・オブスキュラの原理に着想を得たものであり観客の視線そのものが空間の一部となり、パフォーマンスに関与していきます。

「今日の穴」では、浅井信好の身体表現と、石若駿、松丸契による音楽が即興的に交錯します。いずれも言語を介さない「言葉なき対話」であり、演者同士はリズム、音色、視線、呼吸、身体の揺らぎといった非言語的な情報を感じ取りながら、その場にしか生まれない出来事をともに紡ぎ出していきます。これは、ジャズの即興演奏における高度なコミュニケーションと同様であり、互いの感性に反応しながら新たな展開を生み出していく創造的対話の場でもあります。

Peeping Gardenでは、観客もまた、視線というかたちでこの対話に介入します。穴から「見る」ことは、同時に他の観客から「見られる」ことにもつながり、舞台上と観客席の境界は曖昧になります。とはいえ、扉の向こう側に立ち入ることはできず、常に物理的な“断絶”が存在する。この矛盾の中で覗くという行為が儀式的な性質を帯び、舞が舞台となる以前——たとえば神楽における奉納のような——原初的な芸能の姿を想起させるのです。

今回の大石田バージョンは、この土地が持つ静けさや空気の質が、私たちの即興にどのような変容をもたらすのか——その過程そのものを、ぜひ「覗き見る」ようにお楽しみください。

浅井信好



出演者プロフィール



浅井信好 Nobuyoshi Asai
(演出家・振付家・ダンサー)

元山海塾の舞踏手。2010年にボーア美術振興財団在外研修員。2011年に文化庁新進芸術家在外研修員。2012年～2016年までパリを拠点に活動。2016年に帰国後、《月灯りの移動劇場》を主宰。2023年春夏パリコレ (beautiful people) の振付・出演やSAKANAQUARIUM 2024“turn”にて『ホーリーダンス』に出演。

その他、ダミアン・ジャレ + 名和晃平『VESSEL』、ナセラ・ベラザ『La Travers』らのツアーに参加。東信、中村達也、渋谷慶一郎、石若駿などとのコラボレーション作品なども発表。

名古屋芸術大学舞台芸術領域准教授。



石若駿 Shun Ishiwaka
(ドラマー・ミュージシャン)

1992年北海道生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校打楽器専攻を経て、同大学を卒業。卒業時にアカンサス 音楽賞、同声会賞を受賞。Answer to Remember, SMTK, Songbook trioを率いる。山口情報芸術センター(YCAM)にて、新作パフォーマンス作品『Echoes for unknown egos— 現現しあう響きたち—』を発表。

23年には自作の協奏組曲『playgroundz』を札幌交響楽団と共に初演する。劇場アニメ『BLUE GIANT』では、ドラムパートの演奏を手がけるなど、活動は多岐にわたる。



松丸契 Kei Mtsumaru
(サクス奏者・作曲家)

サクス奏者・作曲家。1995年生まれ。ババアニューギニア出身。2018年より東京を拠点に活動中。90分間のソロ演奏を通して空間と時間と身体との相互関係を探る「独奏」や、プロジェクトblank manifestoの他、エレクトロニクス等を用いたソロ演奏も頻繁に行なっている。以下のアーティストと共演多数：

石若駿、石橋英子、ジム・オルーク、山本達久、大友良英、岡田拓郎、Dos Monos, betcover!!浦上想起、etc.

'22年『The Moon, Its Recollections Abstracted』リリース。

ソーシャルディスタンス円形劇場デザイン：浅井信好
ソーシャルディスタンス円形劇場設計＆施工：月灯りの移動劇場 STORE IN FACTORY、市川和樹、大見東照明、橋井孝子 舞台協力：T.F.AQUARIUS.LLC
主催：大石田町 共催：一般財団法人地域創造

1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 対象団体

次の団体を対象とする。

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く。）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

3 実施団体の決定

地域創造は、上記 2 の団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、下記 4 の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

4 事業内容

実施団体は、次のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン※1に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

※1 ビジョンとは、別記様式 1-2 の「事業の展開・ビジョン等」のことをいう。

(1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する 4 日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募ワークショップを 4～6 回実施する。ただし、アウトリーチは 3 回以上、公募ワークショップは 1 回以上実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を 1 泊 2 日以内で 1 回実施する。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

(2) Bプログラム（市民参加作品創作・公演プログラム）

原則として、全 9 日間の事業日程を連続する 3 日間及び連続する 6 日間などの 2 回に分けて、市民参加作品を創作し 1 回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募ワークショップを 1 回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を 1 泊 2 日以内で 1 回実施する。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、コンテンポラリーダンスの公演（レパトリー作品（新たに演出されるリ・クリエーション作品を含む。）を1回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

5 経費負担

事業実施に伴う次の経費については、地域創造が負担する。次の経費以外及び実施団体が上記4に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

(1) 登録アーティスト等派遣経費

① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等※2の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等※2の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料
※2 テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手や制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

(2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2の対象経費の2/3以内かつ50万円を上限に実施団体に対して負担する。

6 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修及び登録アーティストによるプレゼンテーションを内容とする全体研修会を開催し、実施団体が、企画制作の経験が豊富なコーディネーターやアーティストと協議し企画内容について検討する機会を設ける。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的ノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、コーディネーターをアドバイザーとして派遣する。

原則として、派遣は個別研修（現地下見）及び事業実施時に行う。

7 提出書類等

- (1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3 (1-3は、Bプログラム及びCプログラムのみ)
令和6年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申し込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、令和5年5月31日（水）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。
なお、上記2（2）及び（3）に該当する団体が申込みをする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。
- (2) 事業実施計画書 …別記様式2-1、2-2、2-3 (2-3は、Bプログラム及びCプログラムのみ)
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (3) 事業実績報告書 …別記様式3-1、3-2、3-3、3-4
(3-3および3-4は、Bプログラム及びCプログラムのみ)
事業終了後30日以内または令和7年4月15日（火）のいずれか早い日（必着）までに、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。
- (4) 変更承認申請書 …別記様式4-1、4-2
実施団体の決定通知を受けた後に事業内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

8 その他

- (1) 共催に関する表示
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。
【表示例】共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (2) 損害賠償の免責
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) 関係書類の提出
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) 情報提供
地域創造が全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) その他
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

登録アーティスト

令和6年度登録アーティスト（7組）

浅井信好、井田亜彩実、大島匡史朗、中村蓉、長与江里奈、藤田善宏、康本雅子

参考

事業の流れ・手続き等

●令和5年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月下旬 ～5月31日	申込み受付（5月31日（水）締切）	事業申込書 （別記様式1）
7月上旬	事業内定通知	
7月24日 ～7月26日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 開催場所：東京芸術劇場	
8月中旬	事業実施計画書の作成	事業実施計画書
10月上旬	派遣アーティスト、担当コーディネーター等の決定・通知	

●令和6年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月上旬	事業決定通知	
4月～	個別研修（現地下見）の実施	
事業実施 2か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の作成 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書 （別記様式2）
事業終了後 30日以内	・実績報告 ・負担金の申請（Bプログラム及びCプログラムのみ）	事業実績報告書 （別記様式3）

公演負担金対象経費（対象経費の2/3以内かつ上限 50 万円）

※ Bプログラム及びCプログラムのみ対象

1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場使用料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費など
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料など
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申込者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第244条の2第8項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ 登録アーティスト等の現地移動にかかる交通費
- ⑧ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

●黒田裕子（舞台芸術プログラム企画制作者）

大阪の一般企業に勤務後、東京で音楽家マネジメント、イベント／舞台企画制作に携わり、2008 年より金沢 21 世紀美術館に勤務。国内外パフォーミングアーツ招聘公演、アーティストと市民を繋ぐレジデンスプログラム、地域交流プログラム等の企画制作を行う。2018 年に任意活動の Dance Well 石川を仲間と共に立ち上げ、パーキンソン病と共に生きる方を含む市民との表現活動を行う。2022 年に退職してフリーランスに。京都在住。

●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977 年岩手県一関市出身。郷土芸能「舞川鹿子躍（ししおどり）」伝承者。全日本郷土芸能協会に入職・現常務理事。郷土芸能の魅力発信、復興支援、コーディネートに携わる。東日本大震災を契機に、地域と都市を芸能でつなぐ「東京鹿踊」プロジェクト、ならびに東北で「縦糸横糸合同会社」を創業。地域に伝わる“縦糸”と現代軸の“横糸”が「出会う場」「機会」をつくり、地域文化の“魅力”“再・新解釈”“再・新定義”を促進する企画をプロデュースしている。多様な視点で新たな継承の形を探求し、伝承文化が社会実装され、魅力的な地域と人々が次代につながっていくことを目指している。

●神前沙織（NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) チーフ・コーディネーター、ディレクター）

2005 年より JCDN にて「踊りに行くぜ！！」等の制作を担当。子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の全国的な普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネートするほか、小中学校等でのダンス体験授業や高齢者 / 児童福祉施設などと連携したダンスプログラム、ファシリテーター養成講座等の企画・コーディネートを手掛ける。2022 年より「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業」のプログラム・ディレクター。京都を拠点に全国各地のオーガナイザーと連携しダンスと社会をつなぐ様々なプログラムを行っている。

●坂田雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

宮古市民文化会館館長補佐・プロデューサー、社会共創文化室（TRANSIT ARTS LAB）室長を担当する他、岩手県文化芸術コーディネーター（県央・沿岸）、三陸国際芸術祭のディレクターなどを務める。2003 年より桜美林大学パフォーミング・アーツ・インスティテュートに所属、芸術地域通貨 ARTS を開発・運用や附属劇場の企画・運営などを行う。2007 年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012 年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業や領域横断型の文化芸術プロジェクトを担当し、現職。

●中富勝裕（（公財）横浜市芸術文化振興財団 チーフプロデューサー）

2006 年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」、海外の振付家との共同制作や数々のダンス公演をプロデュース。国内外の劇場やフェスティバル等との連携、また舞台芸術の観客創造と文化芸術の価値の創造を目的に地域や企業との取り組み、制作人材の育成にも力を入れている。Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021 や横浜音祭り2022ではフェスティバルの核となる主要プログラムを手掛けた。Seoul Choreography Contest（2010 年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition（2014 年フィリピン）などの審査員も務めている。

●中西麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

1980 年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006 ～ 2008 年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後 1 年半のイギリス留学を経て、2011 年 3 月より「NPO 法人芸術家と子どもたち」に入職。ワークショップ・コーディネーターとして、学校（特別支援学級含む）や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設、少年院等、学校教育や児童福祉、矯正教育の現場のほか、小児病院や地域の子どもの居場所に関わる事業に携わっている。

●宮久保真紀（パフォーミングアーツプロデューサー）

学生時代にアートの仕事に関心を持つ。学芸員資格を持つ訳でもなく、就職氷河期だったこともあり、美術館・美術販売部がある都内百貨店に入社。異動の道は険しく、それでもアートの仕事がしたい思いは消えず退職。半年後、ワコールが「文化の事業化」を目指して運営する文化複合施設 SPIRAL のギャラリー担当として転職をはたす。多岐に渡る仕事の中、ダンスやダンスに携わる人たちに魅了されていき、全く専門ではない中、試行錯誤しつつ幾つものダンス企画を実施。2015 年、担当のダンスフェスティバルを法人化することになり、退職してその法人を運営する立場となる。気がつけばダンスに関わるようになって 20 年。現在に至る。

令和6年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／令和7（2025）年6月